

つつあり、フランクリンはホトバルトの西、フオン河畔に建ち果物を以て名あり。

島嶼部

位置。島嶼部即ち眞のオセアニアは一大島と若干の中島無数の小嶼とより成りて、其の極北はクレスホ嶼の北緯三十二度四十六分、其の極南はマクカラ群島の南緯五十五度十五分、其の極西はロンボク島の東經百十五度五十分、其の極東はサイガイメス島の西經百五度二十八分なり。

氣候。太平洋は定風の吹き荒む處なるが、赤道以北にありては北東の方向を有し、同線以南にありては南東の方向を有せり、而して此の二風帯の間は五度乃至十度に亘れる靜穩帯の存するありて、太陽の黃道上に於ける位置に従て多少移動せり、且又此等の定風が眞正の方向を有せざるは太平洋の東部に限り、西部に越くに從ひ群集せる島嶼は風向に逆ひて其の進行を妨げ、殊に印度洋の氣候風の吹き來る處にありては一定の方向を有する能はず。

定風及び氣候風は共に多量の雨を輸送し來るが、定風の衝に當れる島嶼にありては降雨充分にして地味佳良なり、就中定風と季候風とが交替する地にありては雨水の降下甚だ多し、是れメラネシア諸島に良土を見る所以なり、之に反して平低なる島嶼は熱し易きが故に、海洋より來る濕氣を止むる能はざれば、降雨極めて稀なりとす。

各處に於ける群島の平均温度は北部の二十五度乃至三十五度なるが、マドリードランドの南にありては十度乃至十五度にして、土地に依りては十度以下に降るこ

とあり。

海流。太平洋は其の中央に於て東より西に廻ける一大海流を有せり、名づけて赤道流と云ふ、其の中部に靜穩帯ありて北西并に南西に流るる二派の海流を分界せり。

天産。島嶼部の動植物は概してアジア的にしてオーストラリアの生物に類するものは甚だ少なし、而してハワイ群島にありてはアメリカ的の生物を見ると云ふ、要するに生物は東漸するに従て、缺乏を告ぐるが如し、殊に低島に於ける植物は「ココヤシ」、「タコノヤ」(Pandanus)、「トクニヤ」(Discorea batatas)、「タロ」(Taro)等の數種に過

ぎずして各地に普及せる動物は鼠の一種あるのみ、バプア、ニューギニア、サント如きの大島に於けるも巨大なる獸類を見る能はず、然れどもバプアは有袋類を有するの外、鳥類、蟲類に富み殊に外觀の美を盡せる「バラヂセア」(Paradisae)の産地として名を知らる、島嶼部の天産として稱著しきものは檀香(Santalum album)甘蔗、穀類、銅、ニッケル、金、石炭等なり。

住民。住民には黒色のバプア人、ネグリティス人あり、淡色のポリネシア人あり、ニューギニア島のマオリ人并にマイクロネシアの住人も概してポリネシア派に屬せり、黒色人は野蠻風を脱せずして争闘を好み、肉食を喰ひ、淡色人は其の性温和にして友誼に厚く、外人と交際するを厭はず、文明を慕ひ喜びて固有の慣習を捨つるもの如し、此の外西洋人にはイギリス人、ドイツ人、フランス人、ポルトガル人、オランダ人、イスパニア人、東洋人に支那人あり、又ハワイ群島には日本人、支那人多し。所領。島嶼部中無所屬的なるはニューヘブリダイズ島なるが如けれども、此の島はイギリス、フランス兩國に屬するを以て、本部は全然ローロ、バ人、アメリカ人の掌中にありて、オランダ、イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ、ポルトガル、チレは各若干の

地を有せり、但し我が國の所領たる小笠原及び火山の二。

所領	地積	人口	方針ニ付
オランダ領	七五、一三三八	四四五、二八八六	六人
西バプア	三九四、七八九	二四、〇〇〇	〇、六
チモール	四、六〇五、六	七四、二〇〇	一六
テルナテ	六、二五九、二	一三、五〇八、四	二
アムボイナ	五、一四六、五	二七、五一〇、六	五
メナド	五、七四三、六	五八、三〇〇	一〇
セレベス	一、二、八四七、八	一、四三、六〇〇	一一
バリールロムボック	一、〇五二、二	一〇、四一六、九六	九九
イギリス領	五五、八七〇、三	一、五四六、八四二	二、八
ニューギニア及及び屬島	二七、一〇五、九	八六、三三六、四	三
南東バプア	二二、九一〇、二	三五、〇〇〇	一、五
サロモン群島	三、三九〇、〇	一四、〇〇〇	四

フィジー群島及び属島	二〇八三七	一二九九二五	六
トンガ群島	一一三七	二六〇〇〇	二三
サンタクルス群島	九三八	七〇〇〇	七
ファンニン群島	六六八	二〇〇	〇三
マクカリー群島	四四〇	二五六〇〇	六〇
ジルベルト群島	四二八	七〇〇	一〇
ツコビア群島	六六	八二七	一九
ノルフオーク島	四四	二五〇〇	六八
エリス群島	三七	一〇〇	六
ロールドホーエ島	一六	五〇〇	三六
ユニオン群島	一四	一二六	二五
ベニックス群島	一〇		
ビツカイルン島	五		
ジーシー島	二		

三九四

ドイッ領	二四、三八一九	四四、八九九〇	一七
北東バブア	一八、一六五〇	一一、〇〇〇〇	〇六
ピスマルク群島	五、七一〇〇	二五、〇〇〇〇	四
サロモン群島	二、五八八	三、二六一二	一一
サモア	一、四五〇	三、九〇〇〇	二七
カロリネン	六二六	二、三七八	三
マリアネン	四〇五	一、五〇〇〇	三七
マルシャル群島	二、四二二五	八、九一二一	三七
フランス領	一、九八二三	五、一八六五	二五
新カレドニア島	一、六五〇	一、八四〇〇	一一
タヒチ	一二七四	四三〇〇	三
風下群島	七〇〇	五三七三	八
マルキーズ群島	二八六	一七八三	六
ツアモツ群島			
ツバイ群島			

世界地理 おせあにあ洲 島嶼部 三九五

ガンビール群島	二三〇	一四〇〇	六
ワツナ、アロフィ	一五九	六〇〇〇	二三
ワリス群島	九六		
エリツバルトン島	六		
シエタターフィールド群島	〇、八		
アメリカ領	一七四一七	一六七〇〇一	一
ハワイ群島	三六七〇〇	一五四〇〇一	九
ガアム島	五一四	九〇〇〇	一七
サモア群島	一九九	四〇〇〇	一九
ワケジョンストン群島	四		
ポルトガル領 カモル島	一六二四八	二〇〇〇〇〇	一二
チレー領	一二〇	一五〇	一
合計	一六一、二八七〇	六九〇、四九九〇	四

此の如くなるを以て島嶼部の地積の八割強はオランダ(四割七分弱)、イギリスの占

むる處なるが人口に於ても約八割七分はオランダ(六割四分強)、イギリスに屬し、此の兩國殊にオランダは最も優勢なるを見るべし。

沿岸島嶼

マレシア

境域 マレシアは沿岸島嶼の北西部を占め、火山質なる小ソンドンダ列島、セレベス島、モルッカ群島を包括す。チモル島の一部を除き、其の他はオランダの領土として東印度總督の配下であり、セレベス、メナド、アンボン、テルナテ、チモル、パリーロ、ロンボクの六區に分たるが主要島嶼左の如し。

小ソンドンダ列島	ロンボク島	スンバリ島	フロレス島	ソロール島	アロール諸島
スンバ島	サブ諸島	ロッチ島	チモル島		
セレベス島					

トゲアン諸島	バンガイ群島	ブトン島	ムナ島	カバエナ島
--------	--------	------	-----	-------

チゲル諸島

サンギ諸島

モルッカ群島

北部

モロタイ島 ハルマヘラ島 テルナテ島 チドル島
パチアン島 オビ諸島

南部

プル島 セラム島 アムボイナ島 バング諸島

南西群島 ウミテル島 レッチ諸島

南東群島 テニンベル島

ケイ諸島 スフエト島 スフロア島

アル諸島 ウオカム島 コプロオル島

オランダ領

セレベス

セレベス島は北緯一度四十五分に起り、南緯五度五十四分に至り、東

西は六度十五分に亘れり、北東端より南端まで一千三百軒乃至一千四百軒あり、面積は十八萬八千五百五十五方軒にして、之に屬島を加へば二十萬百三十三方軒と成

る、本島は狭長なる四半島より成りて奇形を呈し、顯著なる三灣を抱けるが、海岸は概ね平低にして接觸に不便ならず、灣はボニ、トロ(トマイキ)、トミニ(ゴロンタロ)の外にドンド、パロス、マルダル等あり、島嶼にサレイイェル、タラウト、ブトン、サンギ列島、半島に北東、南東、南西あり、地角に、ランワ、タラボ、北岬、ストロオメン、ドンド、テムル、パロス、ウリアム、マンダルあり、土地高隆にして山岳に富み、南端のランポベタン(三〇七五)は最高峯なるが、此の他にグノクラバット(二〇一九)、マチナナ(二〇五〇)等あり、地震多し、河流は大ならざるも湖沼は頗る多く、トンダノ、リンボット、ボッ、テンハ、シデン、レンダ、カリアンゲン、マンタナ、ダフチ等あり、氣候は佳良にして熱帯に稀なる健康地たるが、沿海の地は最高三十二度、最低二十一度を示めし、内部の臺地は十五度乃至十二度を降ることあり、雨量は南部に多し。

植物には、檳榔、セドラ、チークあり、丁子、肉荳蔻、セモノキ、椰樹、キヌムツヤン、「マンゴ」、「アレン」等あり、胡椒、黒檀、「スマケ」、「カラバン」、白檀、乳香樹(Bombax Ceiba)、香蕉、竹類等あり、然れども動物は少なくして有袋類、鹿豚(Sus Babiruse)、「サヒツタン」(Antelope depressicornis)、鱉、綠色鸚鵡等を見るに過ぎず、礦物は銅、錫、鐵、金、水晶等を有するもの

如し。

住民に就きては人口一八九三年百九十九萬七千八百人五島約あり種族はアルフラス(北部)ブキ(中部)西部)マンカッサル(南部)あり、マライ派あり、其の他に支那人、西人、アマロア人等を見る。行政上セレベス島は附近の島嶼と共に三部に分たるるが島の中部には若干の獨立地あり(野口保興著世界大地理あじわ洲参照)

メナド	六、七四六二	五五、二八〇〇
テルナテ	二、七〇五八	四、五〇〇〇
セレベス府	一、二、八四七八	一、四、五〇〇〇
セレベス部	一〇、八七一九	一、四〇、〇〇〇〇
フロレス西部、スンバワ	一、九七五九	五、〇〇〇〇

生業に就きては農産に米、玉蜀黍、煙草、甘蔗、マニホト、安息香、珈琲、セゴ、綿等あり、林業は「ゴム」、「グタ」、藤、椰樹等を産す、貿易は輸出入合計一千三百十五萬圓ありて珈琲、「グタ」、「ゴム」、蜜蠟、蜜、鮑、鼈、甲、「コブラ」、鯨、肉、荳蔻等を主要輸出品とす。

處誌 マンカッサル(二、一三九九)東經緯一、一五度二五分は略してマカッサルと云ふ

土人のウヂンバンなり、セレベス府廳の所在地にして自由港なるが、「ラカラワ」油、珈琲等を輸出す、メナド(一、〇〇〇〇)は「ニエタン」と云ふ、亦自由港にして、珈琲、鼈、甲、鮑、燕窩等を輸出す、トンダノ(二、二〇〇〇)はメナド河の右岸北緯一度二十分にあり市街清潔なり。

フロレス島は二萬三千方籽あり、火山質の山岳に富みて樹木に乏し、人口は二萬五千人と稱せられ、米、玉蜀黍、黍、白檀、硫黄、硝石を産す、首邑をラランツカと云ふ。

スンバワ島は土名をサンババと云ふ、小スンダ列島中屈指の大島にして地積一萬三千九百八十方籽あり、スンバワ、チェンビ、ビマ等の數灣は土地を三部に區別し、島内火山質の高丘多く、西部にニエンダス(一、六三三)、中部にチンボロ(二、七五六)、東部にアルハッサ(一、六七七)等あり、住民は十五萬あり、スンバワ、ドンボ、サンガル、ビマの四王土に分かれてオランダに隸す、ビマは北東部に位し良港を有せり。

アンボン 當區はモルッカ群島の南部(セラム、ブル、アンボン等)バンド島、南西群島、南東群島等を包括す、首府アンボンは同名の島の北岸に於ける同名の灣に瀕し、丁香、肉荳蔻、「コブラ」、木材等を集散する自由港なり、

セラム島は地積一萬七千五百五十三方糎、人口十萬人を有す、木材、ゴム等の輸出に従事す。

ブル島は地積八千五百八十四方糎、人口二萬あり、カヤフテ油、ダンマル等を産す。南東群島は一萬四千九百方糎の地積と約六萬の人口とを有するが三部に分かる、其のチモル、ラウト(テニン、ベル)群は海參、鹽鱈、眞珠等を産し、其のアル群は青貝、眞珠、鼈甲、海參等を産し、良港、ドボを有す、其のケイ群は多少の海産を興ふるに過ぎず。

ラルナテ 當區はセレベスの海岸、バングガイ王國、テンブク王國、トモリ等、モルッカ群島の北部、ジロロ、テルナテ、スラ等、バプア諸島、西部新ギニア等を包括す、首府テルナテは同名の島の東岸にありて鼈甲、海鼠等を輸出するが、今は往昔の盛況を見る能はず。

ジロロ島は一にハルマヘラと云ふ、地積は一萬六千六百七方糎ありて人口は十二萬と計上せらる、島形セレベスに似て火山質なるが肉豈麩の原産地として名あり。

スラ列島はタリバオ、マンダラ、ベシリ、ハマツラ等の島嶼より成りて地積六千四

方糎、人口七千人あり、米、セゴ、蜜蠟、海産等を輸出す。

チモル 當區はフロレス東部、ソロール諸島、アロール諸島、スシバ島、サブ諸島、チモル(西部)、チャウ島、ロッチ島等より成りて首府クバンはチモル島にあり。

スパン島即ち白檀島は約一萬三百六十方糎の面積を有し、住民は四十萬と概算せらる、米、玉蜀、山羊、水牛等を産す、ワインガブはナンガメシとも云ひて北岸にあり。

バリーロンボック 當區はバリーロンボックの二島より成りて首府マタラムはロンボック島にあり。

ロンボック島は土名をセラバランと云ふ、地積五千四百三十六方糎あり、ロンボック海峡を隔て、バリー島と相對す、該海峡たるや最狹部は三十六糎に過ぎずして外觀は著しからざるも、水深は一千米突以上に達して北走する海流は毎時七糎の速度を有せり、又生物の分布上、アジアとオーストラリアとの分界線たるツレリス線は此の海峡を通過す、然れども一説には該分界線を以て本島の南東チモル海に通過すと爲すを可とせり、本島の最高峯をロンボック山(三八〇〇)とす、住民は約五十五萬人あり。

ポルトガル領

ポルトガル領はチモル島の東部四十七邦と西の三邦との外にカンピング島あり、地積は約一萬六千方料にして住民は約五十四萬なるが、ポルトガルの保護の下にあり、首府デリーはチモル島の北岸にありて通商に従事す。

チモル島は小スンダ列島中の最東最大の島にして、地積は三萬二百九十五方料、四部一、三四四八方料、海岸は南方に絶崖多く北方に平低なるが、港灣にはクバン、バラタ、デリー等あり、内部は火山質の岩石に乏しく最高峯をアラス(三七三八)と云ふ、河流は少なからざれども著しきものなく、北斜面は南斜面より灌溉の利多し、氣温は概して昇降の差稍著しく南東風は乾燥にして北西風は降雨を誘ひ來る、生物は植物に「イウカリ」「アカシア」「白檀」等の出現するあるの外に樹頭授(Bornissus frubelliformis)「ゲバン」(Corypha Gebanga)等の存するを見るべし、動物は乏しく、蠶物には記すべきものなきが如し、人口は、エリセルクラー氏に従へば七十八萬六千ポルトガル領五三、〇〇〇とす、種族に就きては土人にアツリクバン、アツリチモル、ペロの三派ありて、來住者にはマライ人、ブギ人、支那人少數のオランダ人、ポルトガル人あり、通商

は未だ盛ならずして白檀、蜂蜜、蜜蠟等を輸出す。

メラネシア

境域 メラネシア島諸島の意 オーストラリアの北東の沿海に亘りて、バブア、ピスマルク群島、サロモン諸島、サンタクルス諸島、バンクス諸島、新ヘブライズ諸島、新カレドニア島、ロワヨータ諸島、フィジー諸島、其の他より成れり。

其一 バブア

境域 バブア(Papua)即ち新ギネア(New Guinea)は世界第二の大島なり、南緯零度十九分、同十度四十二分、東經百三十度五十七分、同百五十度五十二分の間にある 北北西より南南東に伸び、アラフラ海、印度洋、太平洋、珊瑚海に臨めるが、殊に南の一部は水浅く最狭部に於て幅百四十五料に過ぎざるトルレス海峡を以てオーストラリア大陸と境せり、廣袤に就きては長さ二千四百料、幅六百六十料に近し、面積は七十七萬一千九百方料とし、或は七十八萬五千方料とし、確數を知り難きも、我が國の二倍弱と信じて不可なかるべし。

海岸 北西部と南東部に於ては顯著なる灣入あるも概して屈曲多からざるが、

時々碇泊に便なる港灣あり、西岸に於ては最も卑濕なるを見る、又島嶼の数は少なからざるが、北岸には今尚ほ活動する噴火口を有するものあり、

港灣

ドレーキリルペンク	ファンボルト	アストロラベ	フィンシヨハイフェン	フ
オン	ダイクア克蘭ド	コリングウード	グーデンナウフ	ミルネ
オランジェリー	モレスビー	レッドスカル	ハルスンド	バプア
ン	カムラウ(アルグチ)	セバコル(サワク)	バチッピー	ベル(マックルア)
カイボネス				

海峡

ダムビエル	ヨビー	ビチアス	ワルトフント	ゴーション
ゾールガ	ナウチルス	ガレウ		

島嶼

ワイグウ島	バタンタ島	サラワチ島	ミソオル島	ウエッセルアヂ島
アルー群島	フレデリック・ヘンデリック島	スンフル島	ヨビ(ヤッペン)島	
シャーテン諸島	ウイアク	シャーテン諸島	トロブリアンド(キリウイナ)諸島	
デントレカスト	群島	フルガツン	ウイドラルク(ムルア)諸島	
半島	北西半島	オニ	南東半島	

地角

ゼレ	カマリ	ウランスバリ	アムベルノ(ウルビーユ)	
デルラトル	クレチン	ネルソン	フォーゲル	東
スチーンブーム	バンデンボシ	バイク	フチンガル	サックリング

地質 内部の探検は甚だ不充分なるを以て地質の詳細は知り難きも、嘗て久しく想像せられし如く火山は皆無なるに非ずして、フンボルト灣に近きシクロプ山の如きは其の活動の認められしことあり、而して此の灣よりダントルカスト諸島までの間にありても火山力の存在の證據なきに非ず、殊にフルガツン島には熱泉、熱泥の「ガイサー」、硫氣孔等のあるを見る、而して南東部に於ては玄武岩的岩石の出現あるが、近代の堆積層は廣く分布せるもの如く、モレスビー港層(砂岩、石灰石、石灰質、シエー)はイギリス新ギニーの南岩に於ける主岩石たるに似たり、此の地方の内部の多くは主として片岩より成りて、東經百三十五度のブル岬より内部は「シラ」紀の石灰岩及び白雲岩なるべしと信ぜらる。

附記本島の北西部は地震屢起りて往々強烈なりといふ。

山誌 山岳に就きて略記せんに、北西部のペルー半島にはアルファク山脈ありて

脈中には二千九百七十米突、二千九百米突に達せるものあり、オニン半島も亦山岳
少なからず、而して東經約百三十四度より東西に走れるチャールスルイ山脈は二千
七百米突、四千二百五十米突、五千一百米突と稱せらるゝ、高峯を有し、白雪を頂けり
と云ふ亦た、太平洋岸にも二千米突乃至一千八百米突に達するガウチエル山脈あ
り、北東部にはビスマルク山脈、フィニステレ山脈等あり、南東部にはアルベルトピク
トル、アルベルトの如き山脈あり、蜿蜒して南東端に達し、オーウエンスタンリーは實
に四千米突に及ぶ。

- アルファク山脈
- 北西部 チャールスルイ山脈 ラカヒア山(二、三九〇)
- ガウチエル・タビ山脈 ヲクセリ山
- ビスマルク山脈 オットー山 クラエトケ山脈(三五〇〇〇)
- 北東部 フィニステレ山脈(三四七五)
- アルベルト・ピクトル山脈 アルベルト山脈 ナブマン山
- 南東部 アルベルト・エドワード山(三八一〇) オーウエンスタンリー山脈(四〇〇〇)

- オブレー山(二四三八) サクリング山(三四二二) シムブソン山(三〇四〇)
- トムブソン山(一七八九)

水誌 河流は少なからざるが太平洋斜面にワサムソン、アムベルノ、カイゼリン
アウグスタラムあり、珊瑚海斜面にフライあり、アムベルノは一にマムベラン或は
ロハッセンと稱せらる、チャールスルイ山脈の北東に當れる地方に發して初め北西に
流れ、後北に向ひて數派に分かれ、以て海に終る、カイゼリン・アウグスタは雨季に際
し大船に數軒の溯航を許すが、ラム河と八字形を爲して兩河の口は相距ること遠
からず、ラム河はクラエトケ山脈の北面より出づ、北西流して南緯約五度の地より
北に折れ、下流はオッチリエンの名を取りて亦海に入る、フライ河はドンナルドソン
山の南面に起り、屈流して漸次南東に進み、一大河灣を呈してバプア灣の西岸に注
ぐ、河長は不明なるも、一八八九年マックグレゴルは九百七十軒以上を測れるを以て
見れば、或は本島の最長流たらんか、潮汐は二百四十軒の上流まで感ずと云ふ、沼湖
も亦乏しからざるべきも未だ地圖上に之を見るに至らざるが、一九〇三年ウイヒマ
ン氏の旅行せる地方にヤムル(約東經一三五度)湖、セントタニ(フンボットの湖)のありしを知る。

氣候 氣候は一樣ならざるも氣温高く沿海地は殊に健康に適せずして、本島の殖民に大なる妨害を與ふ氣温はモレスビー港に於て平均二十八度三、最高三十五度六、最低二十二度にして、ハツフェルトハーフェンに於ては平均二十五度六、最低十八度九なるが、北西部は最熱最濕の地方なるべしと云ふ、雨量はモレスビー港に一千八百二十九耗にして、コンスタンチエンハーフェンに三千四十八耗なり、而してブインシハーフェンは南東貿易風(六月―十月)の際最も降雨多きが、モレスビー港にありては此の季に甚だ乾燥にして、却て西、モンメン(一月―四月)の時雨量多きを見る。

天産 本島は殆ど到る處地味肥沃にして植物盛に繁茂し、維管束植物の種は四千に達せざること遠からざるべし、植物の状況は勿論マライ的なる處あるも、亦オーストラリア的なるもありて、ドロセラ(Drosera)、イウカリ(Eucalyptus)、グレンビニア(Grevillea)、クレンドロン(Oreodendron)、レプトスペルム(Lepospermum)、ヒドロビウム(Ephedra)等あり、要するに鳥類に於けるが如く、本島の植物は著しき特徴を有せるものと云ふべし。

動物は植物或は礦物よりはよく知られたるが、甚だ稀なる哺乳類は野豚、若干の

甘口鼠の外は皆有袋類に屬し、最も著しきをキノボリカンガルとす、ワラビー、デング、アリクビ等はオーストラリア大陸にも見る所なり、鳥類は哺乳類に比して著しく豊富なり、陸鳥は四百種以上ありて一般に艶麗なるが、バラヂェアは約四十種あり、キングフィッシャー(Kingfishers)、トウシテラ、鸚鵡類(Microglossus, Nasiterna)、鳩類と共に最も著しきものなり、鱷(Crocodilus porosus)は島の南岸にあり、蛇類は約三十種あるも有害なるは六七に過ぎず、昆蟲は南アメリカのそれに或は比し難かるべきも形の奇變色の華麗を呈供せり、軟體動物亦豊富にして、ペリエリア(Perieria)が本島とクインスランドとの連合を示すのみならず、淡水的のものも概して南大陸に關係を有せるが如し。

礦物の有用なるものには金、鐵、黒鉛、硫黃等あり、近年の探査に依れば石炭の存在は確實なるに似たり。

住民 住民の總數は二百萬餘ありと稱せられ、一方科平均約十一人なり、種族は所謂パプア羊毛的の毛派に屬するが、身長高くしてヨーロッパ人の平均に勝るとも劣らず、體格強固にして手足共にマライ人より大なり、皮膚は深、チョコレート色或は

煤褐色に達するも、若干のアフリカ人の如く深黒を呈せず、顔は稍、卵形的にして、最も顯著なる點は大にして稍、曲り、隆高にして尖頭下落せる鼻にありとす、而して鼻孔大なるを以て中隔の大部は之を外より窺ふことを得、頭髮は捲縮して硬固なり、鬚鬣は多からず、心情大膽にして熱狂、喧噪嗜々として笑ふを好み、舞踏を行ふ。衣服は身體の一局部の外之を纏ふことなく、北岸の或る地方にては男女共に赤裸なる處あり、諸種の色を以て身體に彩色を施し、頭部を始めとして其の他に裝飾品を加ふ、食物は西部に於ては、セゴ、魚類と主とするが豚、犬、水禽、カンガル、軟體動物數種の昆虫等も用ひられ、食鹽を得難き地方にては海水を用ひて調理す、人肉を食するの風は一般に行はるゝに非ずして北西部のカロン人は之を敢てす、家屋は概して杭上に設けられ中には大なるものあり、スマトラの「プライ」(Blais)と同性質の俱樂部は各村に廣く見らるゝが「ドボ」(Dobos)と稱する特異の家屋は高木の上に建てらる、宗教は主として自然教にして樹木、岩石、海の精靈を祭り、死者の靈は或る住所を得るに非ざれば靜止せずと信ぜらる、故に死人あるや其の縁者は木偶を製作するなり、又一種の祖先教はドレイ、其の他の地方に於て行はる、政治上に就

きては王公、會長の如き主權者は全く知られず、社會は最も原始的なる形態にあるを以て本島の統御に大なる障礙を與ふ、生業は農を營むものありて馬鈴薯、「ヤム」、「バナナ」、甘蔗等の栽培あり、豚、犬、水禽等を飼養するが、彫刻の意匠、技術には案外良好なるものあり。

沿革 西洋人にして始めて本島に到りし者はポルトガル人メネセスなりとす(二五二六年)、其の後イスパニア人イニゴ・オリツ・デ・レラス來り、本島の住民がギニアに於ける如く黒色を帶ぶるを以て、新ギニアの名を與へたり(一五四六)而して年を経るに従て探檢の度も次第に進みしが、主としてオランダ人の從事する所と成りしを以て、彼等は島の西部を要求し(一八四八)、イギリス、ドイツは東部を分領するに至りしなり(一八八四、一八八六)。

所領 本島はヨーロッパの三國の分轄する所なり、即ちオランダは西部を有し、ドイツは北東部に、イギリスは南東部に其の勢力を張る。

所 領	オランダ領			ドイッ領			合 計
	面 積	人 口	方 針 三 付	面 積	人 口	方 針 三 付	
オランダ領	三九、四七八九	二四、〇〇〇〇	〇、六	三九、三一三四	二〇、〇〇〇〇	〇、五	
イギリス領	二二、九一〇二	三五、〇〇〇〇	一、五	二二、四四九九	三五、〇〇〇〇	一、五	
ドイッ領	一八、一六五〇	一一、〇〇〇〇	〇、六	一八、一三〇〇	一一、〇〇〇〇	〇、六	
合 計	八〇、五五四一	七〇、〇〇〇〇	〇、九	八〇、八九三三	六六、〇〇〇〇	〇、八	

○
○
處誌
オランダ領
オランダ領はバプア島の西部にありて東經百四十一度の

子午線を以て東境とせしが、一八九三年以來其の南部は稍東に進みて東經百四十一度一分四十八秒のロイスバハ河口より起ることと成れり、面積三十九萬餘方呎、人口二十四萬あり、政治上はテルナテ區に屬するが本島の三部中將來最も有望なりと云ふ、ドレーはヌルフルバプア人の中心地にしてワレイス其の他の探檢家の出發點なり、パチビ及びセツガルはペル灣の南岸にあり多少商業行はる。
ヨビ(ヤッペン)島即ちマライ人のタナーアロペン 長一七七呎 幅一二四呎 針はギールビンク海の

北部にあり、アンサスは南岸に位してドレーと通商す。

シウラン諸島はウイアク、スク(スピオリ)等より成るが極樂島は全く存在せずと信ぜらる。

ワイグ島 長一三二九呎 幅三二九呎 は深灣の爲めに兩分せんとす島内森林多し、住民は小「ラヂ」を頂き「チドル」の「スルタン」に屬せり。

サラワチ島はガレウ海峡を以てペル半島と隔り、島形は南方に頂點を有する不正三角形なり。

ミソル島 長三八〇呎 幅三三〇呎 は山岳森林に富みて、内部には眞バプアあるも沿海地にはマホメト教を奉ずる雜種あり、「ラヂ」はチドルの「スルタン」に屬す。

ドボ島はアル諸島中の小島なるが商業地にして、支那人、プギ、マカサル等の商賈は西モンソンと共に來り、東モンソンの始まるや此の地を去る。

フレデリクヘンデリック島は長さ百四十五呎ありてオランダ領中の大島なるが、狭き水道を以て主島より隔れり、島内低濕なり。

イギリス領

イギリス領の地は本島の南東部にありて西はオランダ領、北はド

世界地理

オセアニア洲 島嶼部 沿岸島嶼 メラネシア

イツ領の地と境を接す、面積は東經百四十一度及び百五十五度、南緯八度乃至十二度に位せる島嶼(五、九五七〇方杆)を合せて約二十三萬方杆あり、住民三十五萬人中ヨーロッパ人は二百五十人に過ぎず、政治上諸般の經費はクインスランドの負擔する所なりしが一九〇三年オーストラリア聯邦政府は實際之を支配し毎年二萬ポンド以内の支出を爲すに至れり、域内は六區に分たれ中央法院はポートモレスビーに設けらる、財政一九〇二は歳入に約一萬六千九百ポンドありて歳出に三萬一千三百餘ポンドあり、公債は二千三百七十八ポンドあり、ココヤシ、セゴノキ、白檀、島木、ゴム、藤等を有する此の地は又煙草、米、砂糖、茶、珈琲、ラッパー等を産し金も亦採掘せらる、貿易は金を除き合計凡そ十四萬ポンド輸入七、〇八一七、輸出六、八三〇〇にして専らクインスランド、ニューサウスウールズと取引し海鼠、ゴブラ、真珠介、金、真珠、白檀等を輸出し食品、煙草、織物、金物等を輸入す、船舶の出入は五萬二千餘噸なり。

ポートモレスビーは本領土の首府にして附近の地は秃瘡、磽确なるが、氣候は稍佳にして港を控ゆ、サマラは南東端に近き小島にして亦碇泊の便あり。

ルイシアデ群島は最南(タブラ長七二杆、幅一七杆、ロツセル(アロバ)、セント、アイニアン(ミシマ)等

の諸島より成りて金を産す、此の中最後のものは他の諸島の如く珊瑚礁を以て繞らさず、又食人の風なくして首狩を行ふのみ。

デントレカストー諸島はノルマンビー(ツアウ、長七杆、幅七フェルガソン(モラタウ、面七九、五、長七二杆、幅一七、グロドエナフ(ダウイラより成りて珊瑚礁の圍繞するなし、住民は亦首狩を行ふ。

トロブリアンド(キリウイナ諸島は低き珊瑚質の島にして地味肥沃なり、住民は稠密なるがポリネシア人の血液を混ぜること著し。

ウイドラルク(ムルア島は生産の記すべきものなきも亦よく人類の住する所なりとす。

ドイツ領

ドイツ領パプア即ちカイザークラウヘルヘムスランドは本島南東部の北部を占め、ロング島、ダムビエル島等を合はせて十八萬二千方杆弱あり、ドイツ新ギニアの主要部を爲せり、住民は十一萬ありて其の中白人は百十九人に過ぎず、學校は皆宗教的關係を有せり、此の地は一八八四年以來ドイツの保護地にして其の發達はドイツ新ギニア会社に委ねられしが行政は一八九九年ドイツ帝國政府の手

に移されたり、天産として檳榔、セゴノキ、竹類、烏木、金(ビスマルク山脈)等を有する此の地には綿煙草、ココヤシ、珈琲等の栽培あり、馬、牛、山羊の飼養あり、貿易一九〇二—〇三は約十七萬、マルク(輸入五七、三〇、九一三)にして主要輸出品は、コブラ(なり)、主港をウールヘルムス、ハーフェン、ベルリン、ハーフェン、コンスタンチン、ハーフェンとす

フリードリヒウールヘルムス、ハーフェンはアストロラベ湾の北西岸にありてウールヘルム帝の首地たり、コンスタンチン、ハーフェンはアストロラベに沿へり、フィンシヤ、ハーフェンはフォン湾の北敷岸にありて良港を有す

其二 ビスマルク群島

境域 ビスマルク群島は二大島、五中島、若干の小島より成りて、凸面を東方に呈する馬蹄形の群島なるが、面積は凡そ五萬一千八百方尺ありて、主なる島嶼は左の如し。

- アドミラリテーツ諸島
- イゼバスコ
- セント・マチアス島
- ノイ・ハンノーフェル島
- ノイメックレンブルグ(ニャーアイランド)島
- ノイ・ボンメルン(ニャーブリテン)島
- ロオック島
- ロング島

政治 本群島は約十八萬八千人の住民ありて、白人は二百七十七人に過ぎざるが、一八八四年以來ドイツの保護地と成りて、サロモン諸島の一部并に北東パプアと共にドイツ領新ギニア知事に管理せらる、財政に就きては歳出入各、百一萬六千「マルク」(一九〇四—〇五)にして、貿易(一九〇二—〇三)は約百六十四萬「マルク」を輸入し、コブラ(七一)其の他を合はせて約九十二萬「マルク」の輸出あり、入船は二百八十七隻、十四萬七千噸弱なりとす。

處誌 ノイ・ボムメルン島は嘗てニャーナリテンと云へり、北西より西の方向に走るが長さ約五百六十軒あるべし、南岸は絶崖をなしてワイテ湾、ヤクキンノット湾、モントグ港、モーエ港等あり、北岸にステツネル港、ハンナム港、リーベック湾、ツェレル湾あり、海峽にセント・ジョージ、ダムビルあり、地角にオルフォルド、カンニング、グハム、ルブック、南、グロースター等あり、半島にガツェル、アドミラル(キラウメス)あり、島内には火山ありて北東端の母山(七五三)娘山、或は南緯五度附近の父山(一一九五)南息子山(九二五)の如きは活動しつつあるが、本島の北面に於けるヤクケル、ラウル、ツファウレ、キラウメス等は火山質なるべく、ツボルテールは一部分活動すと信ぜらる、生物はバ

プアに似るも極樂島は存せずしてカソワリー(Q. Bennett) 鸚鵡類十三四種の蝙蝠、六種の哺乳類あり、土民の大部は全く野蠻の域にありて人肉を食し、多くのバプア人と異なりて彫刻土器の製作に拙なり、然れども農業には稍適し甚だ伶俐なる漁者たり、主要の兵器は投石器及び矛なりとす、ヘルベルツヘーエはガツェンレ半島の北東岸に位す、ドイッ領新ギニア知事の駐在地たり、マツビはプランヘ灣の北部に於ける小島にしてヘルバーツヘーへの北西に當れり、新ギニア會社の商務場たり。

ノイラウエンブルグ諸島はヨーク公諸島と稱せし地なり、ノイラウエンブルグを最大島とす、ミオコは同名の小島にありて新ギニア會社の所在地たりき。

ノイメクレンブルグはニッパイルランドと稱せられし處なり、ニッブリテンの一部なりと信ぜられしことありしも、一七六七年以來別島たること明瞭なるに至れり、島形は北西より南東に走りて狭長なるが、長さ三百八十六軒ありて幅の平均は二十四軒なるべし、西端は低平なるも東端に進むに従て土地隆起し、北岸及び南岸共に急峻なり、地角はセント・ジョージ岬、北岬を以て著しきものとするも出入には富まず、タロココヤン、バナナ、馬鈴薯等を産す、住民は主として海岸地方に住する

が、中部の人民はガヅェル半島より移住せしもの、如く、矮少、纖弱なる土人とは異なる所あり、又各村の住民はマラマラ及びビカラバの二階級に分かるゝが、此オーストラリア種族中にも見る所なり、食人の風は一般に行はれ、豚肉、人肉の外は調理せらるゝことなく、男女共に全く赤裸なり、家屋は低小なるが未婚の人に對する共同家屋は大ならずとせず、酋長の威權極めて少なくて、住民が同權なるは恰もバプア島に於けるが如し、政治上は二部に分かれ、南部はナマタナイ、北部はケキエングを中心とす。

ノイハンノーフエル島は長さ六十四軒にして幅三十二軒なるべし、内部は山高く河多く、地味肥沃なるもの如し、住民はノイメクレンブルグに於けるものと同種ならんか争鬪を好み。

アドミラルテイツ諸島は一大島と數多の小島とより成れるが、主島たるイゼバスコ島長九六軒 幅三二軒はバプア島のハツフェルドハーフェンの沖二百九十軒にありて、隆起せる珊瑚質の岩石其の大部を占む、諸島の住民はバプア派に屬せるが、金屬の使用を知らずして器具、兵器は岩石、介殼を以て製せらる、而して弓矢、棒楯を用ひざるは

多くのバプア人と異なる所なり、言語はバプアよりは寧ろカロリナ島の人に似たるが種々の點より観測するに、住民は本群島の北及び東に於ける島嶼より移住せるものと混化せるあるは明なり。

其三 サロモン諸島

境域 サロモン諸島はビスマルク群島の南東にありて約一千一百軒の間に散在し、北東南西の二列を爲す主要なる島は七ヶありて、面積は約四萬四千方、軒なり、

- | | | | | | | |
|-----|-----------------|--------------|----------|-----------------|---------|-----|
| 北東列 | ブカ | グリーンビイユ | ミルトランド | ファウロ | シアズル | イサベ |
| | ル | セント・ジョージ | ゴウエル | マライタ | マラマシケ | ウラワ |
| | トリ | トリージャアリー(モノ) | ベラ・ラベラ | ロノンゴ | クラムパンダラ | |
| 南西列 | ニール・ジョルシア(ルビアナ) | レンドバ | バングヌ | ラッセル(パンプ)諸島 | グ | |
| | アダルカナル | フロリダ諸島 | サンクリストバル | レンネル Rennell 諸島 | | |

自然 サロモン諸島は概ね火山質にして最高峯は三千突以上に達せり、雨量は甚だ饒多にして山岳に於ては一千二百七十種に達し、海岸に於ては三百八十一種なり、氣温は二十三度九乃至三十五度を示す、されば植物繁茂し白檀、烏木、ラウリヌ

ム、Parinarium laurinum) 椰樹(十三種)等の植物あり、動物はバプア的にして哺乳動物は少なり、蝙蝠は十七種ありて其の六種は固有のものなり、鼠には四種あり、風鳥は之を缺如するも鸚鵡類あり、蜥蜴類(十三種)、蛇類(十一種)、蛙類(十三種)等にも特有のものありて、特に Ceratobatrachida (兩類あり)の如きもの存するを以て見れば本諸島分離の時代は甚だ古きを知るに足る。

住民 人口は凡そ十八萬人ありと稱せらる、種族は身體、風俗、習慣等より見ればバプアに酷似せるが、世襲の酋長のあること、文身を行ふこと、小家屋を造ること、獨木舟を用ひざること等は非バプア的の特徴にして、ポリネシア的の感化を受けしことあるや疑ふべからず、而して各島の住民は必ずしも一樣ならずして、ブーガインビューの住民は他島のものに比して丈高きが如きことあり、首狩、食人の惡風は廣く行はるる所なり、然れども「バナナ」「タロ」「甘藷」等の栽培を知り、網其の他の漁具を以て魚類を捕ふ。

所領 本諸島は一五六七年イスパニア人メダニアに依りて始めて發見せられしが、其の後カルトレイ、ブーガインビュー、サルビュー、シヨルトランド、等再び發見し、南

部はイギリス、北部はドイツに属することと成れり。

所領	地質	人口	一方籽ニ付
ドイツ領	一、〇八七八	四、五〇〇〇	四
イギリス領	三、三九〇〇	一四、〇〇〇〇	四
合計	四、四七七八	一八、五〇〇〇	四

ドイツ領 ドイツ領の地は本群島の北部にありてブカ島、ブーガインビーユ其他の小島より成り、面積はビスマルク群島と共に五萬七千一百方籽にして人口は亦二十五萬なりと云ふ、一八八六年以來ドイツに屬し、一八九九年ブーガインビーユ島以東の諸島はイギリスの手に移れり、政治上カイゼル・ウルム・ランンドの官吏の支配を受け、白檀、龜甲を以て主要商品とす、ブーガイン島はサロモン諸島中の最大島にしてガゼレ港、カイゼリン・マウグスタ灣、バルビ灣、ラベルデー岬、ルクラー岬等の出入あり、山岳はカイゼル山(三一〇〇)キノー山(二二八三)の外に二千三百米突に達するものあり。

イギリス領 イギリス領の地はブーガインビーユ海峡以南の諸島より成りて、面積は二萬一千六百四十五方籽なりとも稱せらる、住民中ヨーロッパ人は七十八人に過ぎず、ココヤシ、馬鈴薯、アナナス、バナナの産あり、一九〇二—〇三年には、コブラ、眞珠介、アイポリナット、(Ivory nut)等の三萬二千二百三ポンドを輸出せり、行政上は一駐在官の管理に屬せり。

シブアセウル島は海岸の状況不明なる處少なからざるが、北東面にシラウド岬、アレクサンダー岬あり、島の中部にガウルデン山、南東端にタウラ峯あり、バムバタニは南西岸に瀕せり。

イサメラ島は一にボゴツ島を云ふ、南東岸にエストレラ灣あり、山岳にラフラゲ(七四〇)、マレスコット(二二〇〇)、ガイラード等あり、ボゴツは南東端にありてガイラード山の麓に位す、ラモスはボゴツの北西に當れり。

マライタ島はマランタ島とも稱す、島の中部より南に偏してコロブラト(二三〇〇)山あり、マラマシケ島の南岸にサアあり。

ニューギニアは又マロボと云ふ、南西列にありては大島の一なるが不明の點類

る多し。

グアダルカナル島即ちチラ島は南西列中の最大島なり、島は略ぼ東西に擴がりて南北に短し、岬の知られたるものは北西にエスペランスあり、南にハンター、ヘンズロンあり、ランマス山は二四四〇米突に達せり、活火山も存すと云ふ。

サンクリストバル島は或はパウロ・アロッシと唱へらる、マキルド(レウエ)灣、ワノコ灣、フイリップ岬、レシエルシェー岬、ケイベック(マファ)岬、サルビーユ岬等の出入ありて、ケラ島の如く海岸不明の處なり、内部は山岳(一ニ五〇米)少なからざるもの如し。

其四 サンタクルス諸島

境域。サンタクルス諸島即ちクイン・シーロット諸島は一五九五年メンダニの第二回旅行に於て發見せられたり、サロモン諸島の南凡そ三百二十軒にありて、面積は九百三十八方軒に止まれり、本諸島を構成せる島嶼は皆著大ならざるが、主要なるもの左の如し、

- ヅフ諸島 マチマ(スワロー)諸島 サンタクルス(ニテンヂ) タプア
- パニコロ チナクラ(ボルカノー)

ツコピア シェリー(アマダ) ミトレ(フタカ)

此等の島は悉く火山質にして環礁は全くなきも、パニコロ島に於けるの外、僅かの縁礁を見る。

住民。住民は總數七千人あり、彼等の皮膚は黒色を帯び、捲縮せる毛を有し、以て三三人種の混淆せるもの如きが、亞バア派に屬せり、而して農民と云はんよりは寧ろ漁民と稱すべく、大獨木舟に乗じて遠距離を航し、鋭敏なる商業家たり、性質は一見善なるに似るも、食人の風は尙ほ存し、村落は稍、清潔にして、屢、石壁を以て繞らさることありと雖も、マライ或はババア人の杭屋は稀に見る所とす、ヅフ諸島の住民はツコピア及びシェリー島に於けるもの如く、群島の他の諸島民と異なりて、疑もなくポリネシア派に屬せり、此等の人民は酋長を頂きて、イキリスの主權の下に立てり。

處誌。サンタクルス島は此の諸島の主島にして、長さ二十六軒あり、樹木繁茂し、水濕充分なり、グードエナフの屠殺せられし處なり。

パニコロ島はカホゴ山(九〇〇)を以て最高とするが、森林深く、人稀なり、ラ・ペル

スの破船の危に遭ひし處なりとす。

ホルカノ島即ち土人のチナクラ島は高さ六百十米突に過ぎざるも噴火口の活動を以て名あり。

ヌカプ島はスワロー諸島の一にしてバツテンの虐殺せられし處なり。

其五 ニューヘブライズ諸島

沿革 ニューヘブライズ諸島は一六〇六年キロスに依りて発見せられ南極大陸の一部なるべしと信じてアウストラリアデルエスピリツサンと命名せられしが一七七四年本島に至りシークは今の名を與へたり其の所領は久しく決せざりしも一八八七年の條約はフランス及びイギリスの海軍混合委員の下に人命財産を保護することを決定せり。

土地 此の諸島はサンタクルスの南にあり凡そ八百軒の間に亘りて略ぼ二部に分かるるが北部は約三十五島南部は五島より成れり。

- 北群
 - バンクス諸島 エスピリツサン
 - マリコロ
 - アウロラ
 - ベントコスト
 - アムプリム
 - アビ
 - バテ(サンピキツ)

經群 アネチチウム タンナ エルロマンガ

諸島は凡て火山質にして珊瑚礁を繞らすものは少なきが消噴火口は多くして火山の活動するものアムプリム、ロバビ、ヤンダ、バヌアラバあり温泉の湧出あり海岸は好碛泊地乏しく颶風屢起る生物に就きては陸上哺乳動物に唯鼠あるのみにしてサロモン、ヌーベルカレドニーに比すれば鳥の種類遙かに少なく礦物には銅、鐵、ニッケルの發見ありたりき。

住民 本諸島の住民は各島異なる所ありて明かに人種の混化を示せり而してサンドキチ島に近きペレ、ペレの二小島或はアオバ(レペルス)島等に於ては眞のポリネシア派を見るも其の他の土人はバプア派に屬し風俗の多くは純バプア的なり彼等は弓矢を用ひ鼻孔を穿ち耳珠を大にし顔に柳條を描きバプアに於て見しが如き彫刻を作る性質は鼓舞し易くして奸猾なるが食人の風尚ほ存せり家屋の構造は一樣ならずしてヌーベルカレドニアに於けるが如く圓き者あり屋根のみより成れるものあり村落或は家屋は屢石壁を以て圍繞せらるゝを見る言語は二十種を下らずしてタンナの如き小島にても少くとも六種あり。

處誌。バンクス諸島はブリフの發見に係り、バヌアラバ島、サンタ・マリヤ(ガウア)島を大なるものとす、土人は多くは友誼的の意向を有す、珊瑚玉、蜀黍、肉荳蔻、胡椒等を産するが最も主要なるものは紅木なりとす。

エスピリツ・サント島はニッ・ヘブライツ諸島中の最大島にして長さ約百三十軒あり、一六八〇米突の山を有し、豁谷は無数の水流に潤されて地味肥え、樹木蒼蔚たり、サン・フィリップ灣頭に於てキロスが殖民地を設けしことあり。

アネイチウム島は長さ十六軒に過ぎざるも、プレスビテリア派の基督教最もよく宣教せられて全島の住民之に化し、讀み書きを知らざるものなし。

タンナ島は長さ四十八軒ありて幅十六軒あり、地味非常に肥沃にして樹木繁茂す、山岳には一〇六七米突に達するものあるが、ヤソツ火山は高さ三〇五米突を下らずして火口は一八三米突ならんと云ふ、本島は地震の起ること屢あり、住民の食人の風は今や殆どなく、コブラを産出す。

其六 新カレドニア(ヌーベルカレドニー)

境域。ヌーベルカレドニー島はメラネシアの最南にありて、オーストラリアの

最近の點より一千百二十七軒に當り、北西より南東に走れり、長さ四百軒ありて幅の平均五十六軒あり、面積約一萬六千八百三十五方軒と計上せらる。

土地。海岸は北東岸に殆ど直線的なるも、反對の方面に於ては港灣の回入ありて、接觸の便を與ふる者少なからず、而して珊瑚礁は八乃至廿九軒の沖合に位して殆ど全島を圍繞せり、地質は主として沈積的にして剝岩、石灰岩、蛇紋岩、片麻岩等より成り、地勢山岳に富み、二並行山脈は一主谷を挟みて北西より南東に赴くが、南方に進むに従て多少孤立の群を爲せり、而して北東部の無名山は一六九八米突に達して最高峯なりと信ぜらる、此の外にサン・パニエ(一六四三)、フンポルト(一六三四)の諸山あり、河流にはツンベア、カナラ、テマラ、クマック、ウツイル等の細流あれども稍著しきはデアホ(八〇軒)にして四十軒の間に航運の便を與へ、島の北端に於けるハルクリル灣に注ぐ。

氣候。氣候はメラネシアの他の部に比せば、乾燥涼冷にして長春にあるが如く、四月間の夏季は適度に高温なり、降雨季は不規則にして明確ならざるも、降雨は主として十二月の前半に之を見、ヌーメアの平均年雨量は一七七八軒なり、而して東

岸の斜面にして主風を受くる處は降雨屢ありて其の量多し、旋風は起らざるに非ざるも幸に其の回数少なし。

天産植物は豊富にして特徴あり、雙子葉植物は一千一百種以上あるも、植物の性質は地方に依りて甚だ異なれり、島の大部は禿嶺なるか或は一部分叢藪及松類(Araucaria Cookii)を以て蔽はれ、森林は北部にのみ存す、而して嘗て富饒なりし白檀は殆ど今は其の形なきも、カウリ其の他多くの良材あり、香料的のニアウリ(Melaleuca Vidiflora)は「カヤプテ油に類せる有用なる油を與ふ、動物は甚しく哺乳類少なく陸上哺乳動物は鼠の一種あるのみにして、兩棲類も亦僅なり、此の如くにして他地方との關係は充分明瞭ならずと雖も、概言せば「ニュー・ジージーランドよりはオーストラリアと相似たる點多きもの、如し、鑛物には金、アンチモニー、水銀、銀、鉛、銅、ニッケル、コバルト、石炭等あり。

沿革 本島は一七七四年クークに依りて發見せられ、ニュー・カレドニーと名づけられたり、其の後デントレカストの探検(一七九二)あり、一時フランスの國旗の掲揚ありしが其の測量員の虐殺せられし後、數年にして報讐の手段に出て、一八五三

年に於て形式上フランスの所有に歸せり、而して最初は流謫地として用ひられ、フランス、ドイツ戦争の後、コム・ミ・ニストの多人數が此の地に送られしことあり、一八七八年の土人の叛亂は残酷なる結果を生じたりき。

住民 人口は一九〇一年に於て、土人(二、九一〇六)、ヨーロッパ人(自由人一、〇二五五六)合はせて五萬一千餘あり、フランスよりの移住者は多からざるが、ガルマチア、ジバ、トンキン、印度等よりも來住するものあり、我が日本人にして在留するものも少なからず、教育は公私の小學校、ヌーメアに於ける専門學校、ヤウエに於ける農學校、等にて施さる。

カナック即ち土人はバプア派に屬せるが、今はポリネシアの血液を混ぜること多し、頭髮羊毛的にして皮膚黒色を呈し、言語の種類は多きも、他のメラネシア島に於けるものと大差なきに似たり、森林の惡鬼は彼等の深く信ずる所なるが、耳珠に孔を穿ちて之を擴大し、又舞蹈を好むこと甚しきは此の人種にも存する風なりとす、衣服は出來得る限り最も少く之を用ひ、家屋は圓形に作らる、而して常に争鬪を事とするも弓矢を用ふるを知らず、農業上の技術には案外佳良なるものあり、然れ

ども近き將來に於てカナックの全滅すべきは殆ど疑なきものゝ如し。

政治。ヌーベルカレドニーはフランスの殖民地にして軍政民政を司り軍務幕僚及評議會を有する知事は内務法務流刑殖民地の三長官に依りて補助せらる、而して當殖民地には選舉的議會あり行政上本島及屬地（パイン島、ソリス群島、ロソロ、アラ）は三區に分かたれヌーメアは一市區を爲せり財政に就きてはフランスの歳出（一九〇四）は四百七十八萬四千フランク弱にして其の過半は流刑的のことに費され、地方豫算（一九〇二）は約六百七十萬フランクなりき兵力（一九〇四）は七百七十八人のヨーロッパ兵より成れり。

生業。土地の過半は山岳或は耕作に適せざる地にして、牧地は約四千四百四十方秆あり耕地及耕作し得べき地は畧之に等しく、施業せらるゝ林地は凡一千三百方秆なりとす、而して土地は國有地、流刑地（約一〇三方秆）、土人所有地の三種に分かる、農産品の主要なるものは珈琲、玉蜀黍、煙草、砂糖、葡萄、マニオク、アナナスにして、小麦「ラバ」生糸等の産出も亦務めらるゝ所なり、牛及羊の數は約十三萬あり、鑛業に就きては六十八鑛ありて凡三千五百人の従事者あり、一九〇一年に於て「ニッケル」（二二三〇九八米突噸）、「クロム」（二、六五八七噸）、「コバルト」（二八七三、銅）、（二〇〇〇）の諸鑛を

採掘せり、石炭も亦有望なりとす、貿易（一九〇三）は輸入に一千三百六十七萬フランクありて、輸出に八百九十六萬餘フランクありしが、前年の輸入（二三四四、六〇〇）の過半、輸出（二二二八、三〇〇）の約四分一は孰もフランスとの取引に係れり、而して主要輸出品は「ニッケル」（二、九六五三米突噸）、「コバルト」（七五一一）、「クロム」（一、〇二八）の如き鑛物にして、珈琲は約五十五萬疋なりき、交通（一九〇二）に關しては郵便局は三十七、電線は九百八十三秆、電話に百七十三秆ありて、鐵道に未設線百四十五秆あり。

處誌。ヌーメアは當殖民地の首府にして約九千人の住民を有し風色に富めり、ヌー島とデココ島とに依りて形成せられたる港は安全廣濶なるが埠頭、乾船渠等の設備ありてシドニー、ニューサウスウェールズ等と交通の便あり、一九〇一年の入船は百十隻、約九萬九千噸にして、出船は百十七隻、凡そ十二萬噸とす。

松樹島はヌーベルカレドニー島の南東四十八秆に位す、隆起せる珊瑚質の小島にして、面積九七三方秆、人口約六百人あり、流刑地として使用せらる。

ロフヨール諸島はヌーベルカレドニー島を東に距ると凡そ百十三軒に於ける
 一列の島にしてウエアラ、リフ、マレの三を以て主島とす、面積は約二千七十二方軒な
 るべし、凡て隆起せる珊瑚質の岩石より成り地味比較的に瘠せたり、島内水少なく
 「ココヤシ」の汁液を以て飲料とす、住民は一萬四千八百人と算せらるゝが、土人はニ
 ーヘプライツ人に似たり、今はメラネシア中最も開化せる者の一ならん、バナナの
 栽培行はれ白檀を以て主輸出品とす、ウベア即ちウエアラ島は北部の小島なるも全
 諸島中最も肥沃なり、其の北部にはポリネシア人の殖民地あり、ワリス即ちウベア
 島より來りしものならんと云ふ、リフ島は中部に位する最大島にして長さ約五十
 六軒、幅二十四軒あり、男子の大部は如何なる衣服をも用ひず、シベネへは本諸島の
 首邑たり、マレ島の住民は多くは基督教を奉ず、本島の黒人はトルレス海峡のマエ
 ル(マルレー)島より來りしものならん。

シヌスターフィールド島はヌーベルカレドニーの北西八百軒、フオン諸島は北西二
 百七十四軒に位す、此の外に行政上ヌーベルカレドニーに屬せるものはフィジー島
 の北東にあり、其のワリス群島面積約一五〇〇方軒人口約四五〇〇人は一八八七年以來フランスの保

護の下に置かれ駐在官あり、其のフツナ及アラフイはワリス群島面積一五九〇方軒の
 南にありて一八八一年以來亦保護せらる。

其七 ビチー諸島

境域 ビチー諸島即フィジー諸島は南緯十五度及二十度、西經百七十七度及百
 七十八度の間においてシドニーの北東三千六十軒、ニージーランドの北一千九百
 三十軒に位するが、ビチレブ、バヌアレブの二大島、若干の小島、二百五十の小嶼より
 成れり、面積はロツマー島南緯一七二一一七五度東經一七五七度を合はせて一萬九千二百五十七方
 軒あり主島左の如し。

ヤサツ群	ヤサツ	ビチレブ	カンタブ	オバラウ	アンガウ	コロ
ハヌアレブ	タピウニ	ラケバ群	バヌアラ	アラケムバ		

地質 ビチー諸島は殆ど全く火山質にして到る處凝灰岩、玄武岩あり、而して消
 噴火口はカンダブ、リングゴルド諸島等に存するも、現今活動する火山なく、其の噴
 出は多く古代に於てありし者の如し、此の如くにして土壤は主として火山岩の分
 解より成り、地味肥沃にして植物の繁茂に適せるが、温泉はビチレブ、バヌアレブ、ニ

等)にあり、地震は殊に二月に多きも強裂なること稀なりと云ふ。

氣候 氣候は一般に甚だ健康に適せり、氣温はスバに於ける観測に依れば三十二度二を最高とし、十七度二を最低とし、平均を二十六度一とするが、二月、三月は最も氣温高く平均二十八度三に達す、降雨は暑月に多く六月より十月末までは少なきが、スバに於ける年雨量は二千七百九十四耗とせられ、他の地に於ては尙ほ一層多かるべしと云ふ、風に就きて東風は四月より十一月まで吹くが、此の他の月には屢、北及び北西風あり、旋風は一月或は二月に起りて時として津浪を伴ひ、大なる損害を與ふ。

生物 植物にはヌーベルカレドニーの松柏科植物に類せる「ダクア」即「ビチーマン」(Dammara Vitiensis) 及び「アキヤ」(Araucaria hupia)、「チロ」(Calophyllum inophyllum) 此の二者はあり、或る部分にはオーストラリア的の性質を有し、「アカシア」類、「メトロシテロス」(Metrosideros) あり、眞の高山植物帯は存せず、動物に就きては「キロンテラ」(Chiroptera) を除けば哺乳類は三四種の鼠に止まり、鳥類もトンガ、サモアに於けるものと大差なし、陸棲軟體動物は比較的によくして、オーストラリアと明瞭なる關係を示すが、其

の大部はトンガ、サモアに於て見るものなりとす、而して太平洋に廣く分布せられたる「サクシネア」(Succinea) 類は本諸島に於て未だ發見せられず。

住民 人口は一九〇二年末に於ける概算は十二萬九千九百二十五人(約八十島)にして、同年三月末の調査は十二萬百二十四人なり、種族に就きてはビチー人(九、四三九七)、印度人(一、七、一〇五)、ヨーロッパ人(二、四、五九)、ロツマ人(二、二、三〇)、ポリネシア人、雜種、其の他あり。

ビチー人は色黒くして頭髮亦バプア的特徴を有するが、體格、文化共にバプアに優れるものあり、而して或る部分に於てはトンガ、サモアのポリネシア人と混淆せしを示すと雖も、疑もなくメラネシア派に屬すべき者にして、衣服の乏しき、武器として弓矢を用ふるが如き、土器を製するが如き、東隣のポリネシアに見ざる所なりとす、而して弓矢、矛、投石器等が他の太平洋島住民の使用するものに比し、大にして且重きは、其の尙武の性質、腕力の更に大なるを示すに似たり、家屋は沿岸にあるものは長形なるも、内部の山岳地方には方形なり、家屋の集合せる處は屢、土壘、濠渠を繞らるゝことあり、又酋長を頂く彼等は、籃、蓆、網、獨木舟等の製作を知り、煙草、玉

蜀黍、甘薯、其の他の栽培を行ふ、風俗は一般に清純にして多くの裝飾品を用ひざるは一層野蠻なるメラネシア人と異なる所なり。

宗教に就きては基督教専ら行はれ、教會堂に赴きて禮拜する者の數は十一萬人以上あり、教育に關して公立學校はスバ及レブカに各一校ありて二百五人の生徒を養ふが、土人の教育は殆ど全く基督教徒の手に依りて行はれ、一千五百四十四校の生徒數は二萬五千二百人に近し、此外に百人に對する學校三(生徒二二八人)あり。

沿革。ビチー諸島は一六四三年タスマンに依りて發見せられしも、爾後一世紀半以上の間ヨーロッパ人の到來するものなく、内部の状況の知られしはツモンゾルピーユ(一八二七)、ウルクスの率ひしアメリカ探險遠征隊(一八四〇)の踏査以後のこととなりとす、一八五九年に至り、王タコムバウはイギリスに對して九千ポンドを以て本島を讓らんことを提議せしも其の成立を見ず、遂に一八七四年に及びて無條件にてイギリスに讓與せられたりしが、ロツマ島も亦一八八〇年にビチーに屬することゝ成れり。

政治。ビチーはイギリスの直轄殖民地なり、知事は行政會議（殖民書記官、狀師長、土人委員より成る）に依りて補助せられ、法律は立法會議（議長は知事にして六人の官の評決する所なり、而して知事は西太平洋高等委員兼總領事としてファンニング、ユニオン、フニックス、

シルベルト、エリス、サロモン、サンタクルスの七諸島をも支配す、地方は十七州に分かたれ、其の十州には、ロコツイを置き各會長を以て之に充つるが、殘餘の七州には各、ヨーロッパ人の委員を置く、ロツマ島には一人のヨーロッパ委員ありて州醫官を兼ね、司法行政に就きては十人のヨーロッパ官吏と三十人の有給土人官吏あり、兵備には常備兵なきも、百人の土民警官と二百人の義勇兵とあり、財政はポリネシア及び印度の移民に關するものを除きて、一九〇二年に歲入は十三萬三千ポンド、驛にして、歲出は十一萬三千餘ポンドなるが、公債は九萬八千九百ポンドなり。

生業。牧業は馬三〇一七頭、牛二〇二二、羊一〇一四、山羊一三六五九を飼養す、農業はヨーロッパ人及印度人に依りて栽培せらるるものに、甘蔗(一、一〇四〇方石)、コヤシ(一、〇四一二)稻(一四六二)、バナナ(二三〇九)、玉蜀黍、大碧、茶、落花生、煙草等あり、工業に就きて製糖場五處、製茶場一、造船所十二、石輪製造所一、煙草製造所あり、此外に鋸工場五あり、貿易は漸次隆盛に趣くものゝ如くにして、一九〇二年には全計

百六萬餘ポンドに達せり、其の取引先左の如し。

年次	輸 入		輸 出		全 計
	イギリス領	其 他	イギリス領	其 他	
一九〇一	三三、五〇一三	一、六一七〇	四七、二四五六	七、六三四九	八九、九九八八
一九〇二	四八、四九七六	四、一八七一	四五、二二九三	八、三八七八	一〇六、二〇一八

主要輸出品は砂糖、コブラ、酒精、生果等にして、主要輸入品は機械、織物、金物、木材、家畜等なり、交通の機關は多少備はれり、船舶は百四十隻、一千七百七十五噸ありて、入船は百四十隻、十七萬四千餘噸なり、而してニージーランド、オーストラリア、トンガ、サモア、ホルナル、カナダ等と定期の交通あり、スバ、レブ間には約九十一軒の電話あり、郵便の制亦存す。

處誌。ビチレブ島は東西百四五十軒、南北四十乃至一百軒ありて、面積は一萬六千四百五十方軒なり、山岳は其の高さ一千乃至一千五百米突にして、多くは熄滅火山なるが、河流には八十軒以上溯航し得べき、レワの外にシガトカ、ナプア等あり、産物

は實綿と甘蔗とを以て主とす、スバは本島の南東岸にありて、ビチレブ殖民地の首邑なるが、在留ヨーロッパ人は一千七十三人なり、ムボはレワ河の下流に瀕す、土人の舊都たり。

オバラウ島はビチレブ島の東に位せる小島にして、面積は百十一方軒に過ぎず、東岸のレブカは舊都の地たり。

バヌアレブはビチレブの北東に位し、形状甚だ不規則なり、長さは百九十三軒ありて、面積は六千三百方軒なるが、此の群島第二の大島とす、山岳は亦火山質なるも、海拔は七百米突以下なり、河流はドレケチ、クルクルを著しとす、ワイカマは南岸のサブ、サブ灣に瀕して温泉を有す。

タピウニ島はバヌアレブ島とソモンモ海峽を以て隔り、面積之に次げり、山岳は一千二百米突に達せるが、其の斜面は農業に適せり。

カングブ島はビチレブ諸島の最南西に位す、住民密にして、カウリマンツの森林を以て名あり。

ロツマはビチレブ群の北方約四百八十軒に於ける小嶋、幅三三軒なるが、住民は不

純なる亞バブア派に屬し好水夫たり、本島は甘蔗綿の栽培に適せりと云ふ。

四四四

其八 ニーゼーランド

境域。ニーゼーランドは南太平洋の西部、南緯三十四度五十分、同四十七度五十分の間に位して、オーストラリアの南東一千六百軒に當れるが、北南ステワートの三島并に其の他の小島より成りて、面積は二十七萬一千餘方軒あり、北東より南西に至る長さは一千九百三十軒にして、幅の平均は百九十三軒なりとす。

海岸。ニーゼーランドは海岸出入少ならずして、海岸線は四千八百軒以上あり、海峡はクーク、フポールの二を以て著しきものとす、島嶼に就きては其の内部にして海を距る百二十軒に達するものなきが、稍遠距離に位するも、天産及び地理的の位置よりして、ニーゼーランドの島群に加へ得べきものをも併記せば左の如し、但しホーエノルフオルクの二島は行政上オーストラリアに屬せり。

- 北島 南島 ステワート島 ホーエ島 ノルフオルク島 ケルマデック諸島
- チアダム諸島 バウンチー諸島 アンチポデーヌ諸島 オークランド諸島
- マクカリイ島

地質。ニーゼーランドの二大島は著しく地質構造を異にせり、北島は主として火山のなるも、南島は沈積的なり、前者は火山、溫泉、熔岩、硫黄の堆積土地の下降に依りて作られたる湖に富むも、後者は粘板岩、花崗岩より成れる高峯あり、大なる氷河、深き山湖、廣き氷河的の堆積物を有せり、然れども化石の存するもの稀なるを以て、充分過去を語ることは能はざるが、要するに、ニーゼーランドは地球の最舊島嶼の一にして、二島が舊と連絡せしこと、又往時にありては、今より大なる面積を有せしこと、并に少なくとも第三紀に於ては他の廣大なる陸地と全く絶縁せられ居りしは、信ずるに足るなり。

氣候。氣候は一般に溫和にして健康に適せり、北島の極北部は亞熱帶的にして、本島の全部は高臺、山岳を除き殆ど霜雪を知らざるも、南島の冬季には常に嚴霜、深雪あり、氣温は南島の東部に於けるカンターバリー平原にては年十六度七を示すが、其の西岸のホキチカにては八度九、北島のウエリントンにては七度二なり、雨量は西岸に多くして、北島に就きて云へば、タラナキの雨量はナビールの二倍以上に達するが、南島のクリストチャーチは七十一、種にしてホキチカは三百十、種なり、而して

雪線は南島に二千三百米突なりとす、風は主として北西より來るが、海岸殊に海峡に風多く、フオギー海峡のインバーカルギル、クーク海峡のネルソン、ウエルリントンの如きは殆ど靜穩の日なく、海岸地方にて風の最も少なきツネイデンも靜穩なる日は僅に九十三日なりき。

天産植物は比較的種類少なきが、其の約三分の二は全く此の島群に固有なるものとす、而して「イウカリ」「アカシア」は一も此の地に於て見る能はざるが、八十九種七十六 Genera 以上のものは「ニュー・ジールランド」及び南アメリカに共通し、其の大部は亦タスマニア及びオーストラリアの山岳に見出され、「ニュー・ジールランド」と南極地とに共通するものは五十種あるも、タスマニアの山岳に於ては其の少數を見るのみ、「ニカウヤム」(Nikau Palm) (Rhopalosiphis Sapida) 羊齒類、「カウリヤム」(Kauri Pine) (Dammara australis) 等も存す、動物は固有の哺乳類なく、ノルウェーネツミは今や増殖せり、蜥蜴類は蛙類と異なりて稍多く十二種の固有なるものあり、海蛇の發見せられしものは二種ありて、太平洋の他の部に於けるものに似たり、鳥類は百四十五種を數へ、鸚鵡鳩の類少なからず、「フイア」(Huia) (Heterolocha guldii)、「ケア」(Kea) (Neslor notabilis) 殊に「キ

ウ」(Kiwi) 即ち「アプテリクヌ」(Apteryx) 羽なし尾を以て著しきものとす、淡水魚は多からざるが「エール」(Eels) は支那、ヨーロッパ、西印度にも存し、Galaxias attenuatus はタスマニア、温帯南アメリカにも見ることを得、又昆虫は甚だ乏しく蝶は十一種を數ふるに過ぎざるなり。

鐵物には石炭、金、銀あり、銅、錫、クロム、鐵、礬、砂鐵等も其の量乏しからざるものゝ如し。

沿革 ニュー・ジールランドは一六四〇年オランダの航海者タスマン之を發見し、スタアテン(Staten)或はスタアテンランド(Statenland) 本國國會に對しと名づけ、更にノバ・ゼーランド(Nova Zeelandia) 本國のゼーラと改めしが、一七六九年有名なるクーク此の地に至りて諸島を占領したり、之より幾もなくしてイギリス、フランス、アメリカの捕鯨者の好住處と成り、宣教師も來りしが、遂に一八四〇年ワイタンギ條約成立して、土民の酋長が有せし主權はイギリスの手に移れり、而じて爾來殖民地の進歩は土人との交戦に依りて甚だ阻碍せられしが、一八八一年以後は時に混亂なきに非ざるも、其の度は往昔に於けるが如くならず、附記「ニュー・ジールランド」の三島は「ニ

ウルスター、ニールムンスター、ニールレインスターと稱せられしが、後北、中、南の名を以て之に代へ、次に其の南島をステワート島と唱へ、南島及び北島の稱は該島の北に於ける二大島に與へしなり。

住民人口は一九〇二年に於て約八十五萬あり前年に於ては七十七萬餘にして土人を除き九八、五〇はイギリス人ありしが、外國人は一、五〇に過ぎずして、支那人の如きは二千九百人に達せざりき、移民は一九〇二年に於て往住に約二萬二千三百人ありて來住に約三萬三百人あり、

島名	住民(一九〇二)	島名	住民(一九〇二)
北島	三九、〇五七	ケルマデック諸島	
南島	三八、一六六	マオリ人	四、三三四
ステワート島	二七二	合計	七七、二七九
チャタム諸島	二〇七	内支那人	二八五七

更にチャタム、ケルマデックの住民を除き、其の他を地方別にして粗密を示せば、

地方	地積	人口	地方	地積	人口
オークランド	六、六六八	一七、五九三	ネルソン	二、六六〇	三、七九一
タラナキ	八、五五八	三、七八五	ウェストランド	一、二〇二	一、四五〇
ウエルントン	二、八四九	一四、一三五	カンタビー	三、六三六	一四、三〇四
ホークスベレー	一、一四二	三、五四二	オタゴ	六、六〇一	一七、五七五
マールボロー	一、二三〇	一、三三三	合計	二六、八四八	七七、二五〇

マオリ即ち土人はポリネシア人中最も良好なる體格を有し、知識最も高等にしてオーストラリアの土人に優ること遠し、性質は武を尙びて大膽、學ぶに速かにして善く模倣し、強き宗教的の感情に感應し易きも、傲慢にして怨み易く猜み易し、言語は明かにポリネシア的にしてシロトンガ語に似たるが、或ものは直毛を有し、或ものは毛髮、鼻共にバブア的なるあり、或はメラネシア派の特徴を現はすものあり、

口碑の傳ふる所に依れば、凡そ六百年前サモアとタヒチとの間に於ける島嶼より來住せしもの、如きがイギリス船に依りて輸入せられたるノルウェー鼠がマオリと共に來り居りし鼠をして絶滅せしめしが如く、酸模蕪和蘭芥子が土着の植物をして退縮せしむるが如く、マオリは漸次減じて一九〇一年には四萬餘に過ぎざりき。

年次	人口	年次	人口
一八四〇	一二、〇〇〇	一八八六	四、一四三
一八五六	六、五〇〇	一九〇一	男 二、三二二
一八七四	四、五七四		女 二、〇〇三

教育は初等に強制的にして、一千七百五十七の公立學校は十三萬二千餘の生徒を教養するが、中等教育には二十五校生徒三〇七二人あり、大學は一校ありて四分科を有し、學生は總計約八百四十人なりとす、私立學校には二百九十七校生徒一、五

六二四あり、土人に對しては九十九校(生徒三七四二)の外に四ヶの寄宿學校あり。

宗教に就きては新教に約六十萬四千の信者あるが、此の他に舊教徒(約十一萬ニダヤ教徒、異教徒等あり)。

政治 ニーシーランドはイギリスの殖民地にして、立法權は知事議會に委任せられ、議會は立法議會員四十六、代議院八十人の議員中四人より成るが、一般行政は八大臣より成る責任内閣の手にあり、地方は郡及び區に分かれて議會を有せり、兵備に關しては陸軍義勇兵に一萬九千六百十四人あり、常備民兵は二百五十八人にして、戰時には十四萬の民兵を得べしと云ふ、警官は六百五人あり、海軍は八隻の水雷的艦船を有し、諸港は防備を施さる、財政(一九〇三年)は歳入に關稅(二三四)鐵道(一九八)印紙(九八)等の六百十三萬、ポンド弱ありて、歳出に公債利子(一九〇)鐵道(一三六)教育(五七)郵便電信(四九)等の六百二十一萬餘、ポンドあり、公債は凡そ五千三百五十九萬、ポンドあり。

生業 ニーシーランドの三分の二は農業、牧業に利用し得べきが、約三割は尙ほ森林に蔽はれ、約一割三分は禿瘠なる山岳、湖沼、不毛の地たり、而して農牧に従事す

るものは八萬九千餘人なりとす、農業は小麦、オート麥、大麥、牧草等を興へ、牧業は羊(二〇三四萬頭)、牛(一四六)、馬(二九)、豚(一九)を飼養す、鑛業は金(一九五萬ポンド)、石炭(六八)カウリゴム(Kauri Gum)(四五)、銀(七)等を興へ、工業は一九〇〇年に於て工場三千百六十三、従事者四萬一千七百餘人にして、資本の概額七百九十六萬ポンド、製品の總高、一千七百十四萬ポンドと計上せられたり、而して其の主要なる製品は肉類(三八三)、熟皮、精毛等(一八九)、酪類(一五四)、木製品(一二七)、鐵、鋼、餘細工(八七)、織物、靴類(八六)等なり、貿易は漸次進歩して一九〇二年には二千五百萬ポンドに達せんとせり、今其の一千九百年より一千九百二年に至る輸出入高及取引先を左に表示せん

年次	輸 入	輸 出	全 計
一九〇〇	一〇六四、六〇九六	一三三四、六一六一	一三八九、二二五七
一九〇一	一一八一、七九一五	一二八八、一四二四	二四六九、九三三九
一九〇二	一一三二、六七三三	一三六四、四九七七	二四九七、一七〇〇

地 方	輸 入	輸 出
イギリス	六八五、一四五二	九四五、〇六四八
オーストラリア諸州	一七一、五二九五	二六八、四三五〇
アメリカ	一三一、八九三七	四八、九九六四
印度	四一、四一八六	二二六二
太平洋諸島	三六、九二五二	一五、九二二三
支那	三、一一七〇	六、六三九六
其他	六一、六四三一	七九、二二四四

主要貿易品單位千を記せば輸出に、生毛(三三五五)、肉(二八七二)、金(一九五一)、「バター」(二二〇六)、穀類(七六五)、獸脂(五五〇)、ニール・シラント亞麻(Hornim tenax)(五三四)、皮革(四八九)、「カウリゴム」(四五〇)、木材(二〇八)、「チース」(一六四)、石炭(一五五)あり輸入品には織物及び織物材料、鐵(二六〇四)、鐵、鋼、鐵機械類(二二三〇)、砂糖(四〇二)、酒類(三三九)

等あり。

交通に就きて船舶は五百四十九隻、噸弱六二二五、十萬五千噸弱六二二八〇あり、入船は六百三十八隻、百九萬噸弱ありて、出船は六百一十一隻、百五萬噸弱なり、而して五ヶの主港に於ける出入を記せば、

港名	入		出	
	隻数	噸	隻数	噸
オークランド	二四一	四五、五〇六八	二〇〇	三二、四二二七
ウエルリントン	一二八	二八、七一六八	一四五	三七、九五三九
ブラフ	七九	一三、六一九〇	七八	一五、三一八〇
リッテルトン	五五	六、一三七二	三七	八、二八八三
ゾネヂン	三六	六、六〇〇六	二九	四、六七六七
合計	五三九	一〇〇、五八〇四	四八九	九八、六五九六

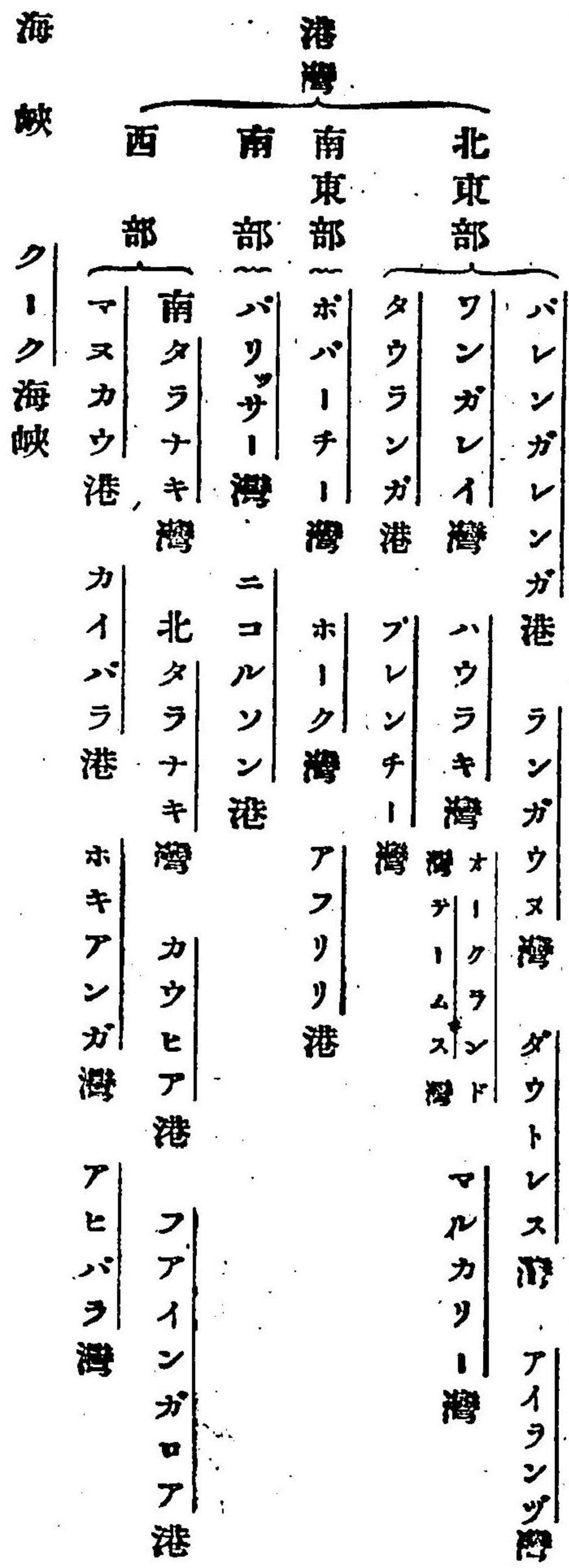
鐵道は官設南島二三九七軒、私設合はせて三千八百六十九軒あり、郵便は一千八

百十八局あり、電信は一千百三局一萬二千四百七十軒の線路三萬六千四百八十七軒の線條を有せるが、電話には線路一千七十四軒、線條一萬四千五十軒あり。

處誌

北島

北島はニージーランドの三島中の北部にあるものにして、面積は十一萬五千七百七十二方軒と概測せらるゝが、長さは八百八十軒ありて最大の幅は四百軒なりとす。海岸の出入は北西部に多く、此の方向に突出せる主半島はオークランド附近に於て、北島本部との連絡を失はんとせり。



世界地理

おせあに洲 島嶼部 沿岸島嶼 メラネシア

半島 北西 北 北東 マヒア 南西 西

島 嶼 大バリアー島 小バリアー島 カワウ島 ワイヘケ島
ドホッセス群島 マタカナ島

北東 マリア・パン・デ・エメン レインガ 北 カラカ プレト コルビーユ
ルナウエー マタカワ

地角

南東 東 キドナッパリス ツルナガイン パリッサー
西 エグモント アルバトロス リーフ

地 峡 オークランド

山脈の主要なるものは北東より南西に走り、ラウクマラ、ラウハイン、タラルア、カ
イマナワ等の諸山脈は名を知らるゝが、ラウハイン山脈は平均一千二百米突の平
均海拔を有し、タラルア山脈はマナワツ河の南にありて南方に伸び、遂にニコルソ
ン港を抱きて海に没せり、此の外にチームス灣の南西にバタロア山脈あり、タウボ
湖の南西にトンガリオ(一九六八)、ニアルフ(二二九二)、ルアベン(二七〇六)の諸山あり
西半島には消火山にして殆ど完全なる圓錐形を呈するエグモント山(二五二一)あ

り、此の火山よりホワイト島、ハレンチセの活火山四十餘、オークランド地方、以て三
アイランツ灣地方は火口の著しき處なるが、沿岸にも火山質の島嶼少なからずし
て、本島は地震を感ずるも其の力強烈ならず。

河。流は其の數少なからざれども概して巨大ならず、而して比較的長流の存する
は西或は南西の斜面に限れり。

北東斜面 ビアコ テームス ランギタイキ フカカタネ モフ

南東斜面 ワイアブ モハカ ニアルロロ ツキツキ

南西斜面 ルアマハンガ マナワツ ランギチケイ ワンガズイ(一九三三) パ

テア

西斜面 モカウ ワイカト(二七四) ワイロア

ワイカト河は本島の主流にして長さ二百七十四軒あり、ルアベン山の北面に起
りてタウボ湖に入りたる後、一軒半以上の間兩岸に數多の温泉地を控えて激流す
るが、曲々北西に進みて海に終り、河灣は大船の接觸を許し、約百三十軒間は小汽船
をして溯航せしむ。

湖沼は中部にタウボあり、北部の湖沼地方にタラウエラ、ロトルア、ロト・マハナの熱湖等あり、東部にワイカレ、南部にワイララバルを見る。

タウボ湖は本島の中部に位し、海面上三百八十一米突にあり、面積は約五百十八方呎にして、長さは四十呎、幅は三十二呎あり、水色深緑にして、中部に一島を有するが、ワイカト河は南岸より入りて北東岸より出づ、本湖は火山質高臺の下降に依りて形成せられしものなるべきが、附近には數多の温泉湧出し、南方十五呎にロトアイラの小湖ありて活火山たるトンガリロの北に位せり。

湖沼地方はタウボ湖の北、ブレンチー灣の南にありて、熱湖、泥火山、硫氣孔、噴氣口、熱泉と相並びて存し、十六湖中タラウエラを以て最大とす。

住民は三十九萬五千七百七十一人(一九〇一年)ありて、オークランド、タラナキ、ウェルリントン、ホークス灣の四地方に分住す。

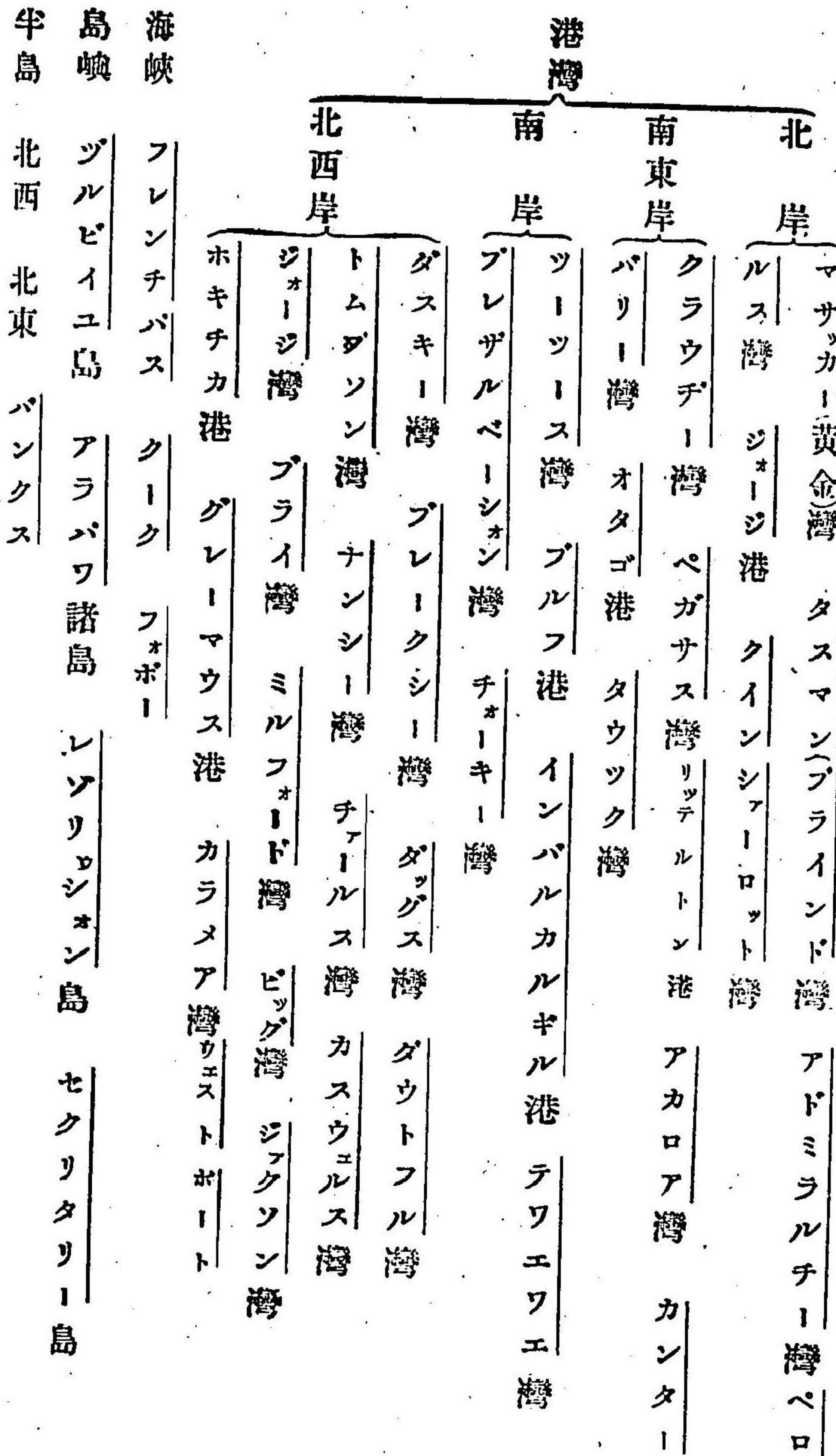
ウェルリントン(四三・三六三八)南緯一四度一七七分は、ニージーランドの首府なり、クック海峡の北に於けるニコルソン港の西岸にありて、シドニーの南東約一千九百三十呎、メルボルンの東二千二百五十呎に當り、交通の便を有せり、住民は近郊に於

けるものを合はすれば、四萬九千三百四十四人あり、家屋の多くが木造なるは地震を恐るゝに因るならん、グレイタウンは首府の北北東八十五呎、ワイオヒネ河の岸にありて沃地に建てり、カルタートンは首府の北東約百呎に位し、附近の地は木材を産し、好耕地あり、マスタートンはカルタートンの北東に當り、良耕地にあり、北パーマーストンは首府と相距ること百六十三呎、鐵道の交叉點にして、森林地にあり、フックストーンは首府の北西百二十一呎に位し、マナワツ河畔にあり、附近は亞麻を産す、フィールディングはワングヌイの南東八十二呎に位し、農牧地にあり、ワングヌイはウェルリントンの北二百十六呎に當り、河流に瀕するが、鐵物、其の他の製品を出し、家畜、穀類、生毛等を集散す、ニッパライマウスはエグモント(タラナキ)山の北にありて、海に瀕せり、ハルウエラは佳良なる牧地に位し、ニッパライマウスを距ること南々東七十七呎(鐵路)にあり、オークランド(三三・四二・一一三)は幅凡そ九千六百米突の地峽にあり、ハウラキ灣に控ゆる良港は船舶の出入多く、土地風色に富めるが、住民は近郊を合はせて六萬七千二百二十六人あり、オネフンガはオークランドの南東凡そ十一呎にありて、港を有し、鐵物を産するが、附近は牧業に適せり、ハミルトンはワイカ

ト河畔に建ち良耕種地にあり、ケンブリヂはハミルトンの上流に位し、バタ、果物の産地にあり、ラッセルは土人のコロラレカなりオークランドの北二百十軒にあり、南太平洋に於ける主要捕鯨根據地の一なるが住民は土人多し、ワンガレイはオークランドの北百二十九軒、農業地にありて近傍には石炭其の他の礦物存在す、グラハムスタウンはテームズ灣に瀕し金及び果物の産地を控ゆ、タウランガはブレナン灣の一澳に沿ひて良港を有するが硫黄を原料とする化學品其の他の製造あり亦其耕地に接せり、ナビエルはホークス灣の南西隅に於ける小半島にありて良港を有す、ヘースチングスはナビエルと相距る鐵路十九軒農牧地にあり、ウイドビーニはナビエルの南西百五十三軒にありてマヌワツ河に沿ひ農業地に建てり、ギスボルンはナビエルの北東百二十九軒に當りてポバーチー灣に於ける港なるが近傍の地は牧業農業に適せり。

南島 南島は北島の南西ステワート島の北東に位するが、面積十五萬一千五百八十方軒あり、長さは八百八十五軒にして幅は二百四十軒乃至三百二十軒あり、海岸は北島に比すれば簡なるも、北東岸及び南西岸は著しく絶崖を爲し、殊に後者は

フィオールド的の狹灣を呈せり。



世界地理 北西に北東 島嶼部 沿岸島嶼 メラネシア

地角

フエアウエル	セバレーシオン	ジクソン	カムプベル	東	ソーンダース
ブラフブイセグ	プロビデンス	西	カスケード	フールウインド	

山脈の主要なるものは西部に偏在し、其の中部の最も高峻なる處を南アルプスと稱するが、此の山脈はクークを始めとし三千米突以上の秀峯を頂き、雪線の上に聳立して高谷には廣大なる氷河を有せり、而して南に伸びては、ジェーン(二〇二七) パイア(一六九七)等の諸山と成り、北に進みてフランクリン山より二派に分かれ、東派はアルノード山脈、西派はタスマン山脈と呼ばれるが、諸山の東にカイクラスありて南西にババロア山脈あり、火山は一も存在せざるに似たるも地震は起らざるに非ず。

- カイクラス山脈 オデン(二九五七)
- アルノード山脈 ベンネビス リンツール(一四三九) リチモンド
- タスマン山脈 ドメット(一六四六) アーサー(一五五二) オーウェン
- ババロア山脈
- フランクリン(三〇四八) ホッホスタッター(三四一四) アーサー越

南アルプス山脈

- ブラウニングス越 ホワイトコムプス越 チンダル(二三三五)
- アロースミス ボツ(二一九五) クーク(三七六四) ハアツ
- カストル(二五二六) ボラクス(二五四二) スプリング(三〇三〇)
- チンダル(二四七四) エルムスロー(二七九三) テレース(二〇七三)

河○流に就きて述べんに、分水山脈が北東より南西に走りて、北西岸に近く位置せるを以て、北西斜面は長流の存在を許さざるが、南東斜面は最も發達せる處なりとす、然れども航行の便を興ふるもの少なく洪水を興ふるの缺點あり。

北斜面

モツエカ

南東斜面

- | | | | | |
|---------|-------|--------|-------|------|
| ワイラウ | アワラレ | クラレンス | ワイアウア | フルスイ |
| クイルトウエー | ラカイアア | アシバルトン | ランギタタ | |
| ワイタキ | タイエリ | クルタ | | |

南斜面

- マタウラ
- オレチ
- ジゴプス
- ワイア

北西斜面

- グレイ
- ブルラー

クルタ河は一にモリノ一河と云ふ、本島の最大流にして長さ二百七十四浬あり、

ハウエナ、ワナカ、ワカチブ等の諸湖の水を受け、南東に向ひて流れ、若干の支流を容れて、バルクルタにて海に入る。

ワイタキ河は亦南東斜面にあり、テカボ、ブカキニッソーランド最大の氷河長二九九軒より起るタスマン河は本湖に注オアウ三湖の水を受け、アフリリ河、ハコテラム河を合はせ、ワイタキに於て海に朝す。

湖沼は少なからずして北西斜面のものは小なるが、南東斜面殊にチンダル山以南に於けるものを以て著しとす、而して是等の多くは山間にありて、其水底海面を下ること遙なり。

北西斜面 ロトウイ ロトロア ブルンネル カニエリ

南東斜面 サムナー コレリヂ エレルスミール ランギタタ テカボ(長二四軒 幅五軒)

 ブカキ(長一六軒 幅六軒) オアハウ ハウエナ ワナカ(長五軒 幅六軒) ワカチブ(長二九六軒 幅八〇軒)

ワカチブ湖は本島屈指の大湖にして面積二百九十六方軒、長さ八十軒、幅一千六百乃至四千八百米突あるが、湖面は海拔三百二十三米突にありて、湖底は海面下百

五十二米突に達し、湖水の温度は十一度一乃至十二度になるが、クルタ河と相通ぜり、湖岸は氷河を頂くエルンスロー等峻嶒なる山岳聳え、風色佳なり。

住民は北島より少なくして三十八萬一千六百六十一人(一九〇一年)あり、マルボロ、ネルソン、ウエストランド、カンターバリー、オタゴの五地方に住せり。

ネルソンはブラインド灣に瀕して小港を有せるが、暑熱甚しからず、ウエストポートはブルラー河の口に於ける良港にして石炭金を吐出す、リフトンはウエストポートの南東産金地にあり、ホキチカはリフトンを距ること百二十四軒に位し、附近の地に於ける金の發見以來發達せり、グレンマウスはホキチカの北方三十二軒、グレン河の南岸にあり、ニッソーランドのニッソックスルと稱せらるるが、亦木材の取引も行はれ、錨地を有せり、ロスはホキチカの南三十二軒に當り、附近に金を産す、ペレンハイマはネルソンの南東にありて、ワイラウ河の口に近し、ピクソンはペレンハイムの北方クインシアーロット灣の岸にあり、地方の主港たり、クリストチアルチ(一七五三八)はアボン河畔の平地に建ち著しく、イギリス的なり、住民は近郊のものを合せば五萬七千四十一人あり、シデンハム(一、一四〇四)と相接せり、リッテルトンは

クリストチアルチの南東約十三軒に於ける港市なり、カイアポイはクリストチアルチの北約二十三軒ワイマカリリ河畔にある工業地なり、ランギオラはカイアポイの北西農産地にあり、アシバルトンはクリストチアルチの南八十五軒にありて良耕地に建ち穀粉其の他の産あり、ゲラルダインはアシバルトンの南百ソイヒ河岸に位し農業地にあり、テムカはゲラルダインの南東ラムカ河の濚にあり、農業地に位し製粉場、製皮場等あり、ワイマテはクリストチアルチとツネイデンとの略ぼ中央に位し亦農産地にあり、ツネイデン(二、四八七九)は附庸港たるポートチアルマルスを距ること十三四軒良灣に瀕して商業上主要の地なるが、市街麗雅なり、オアマルはツネイデンの北東百二十六軒にありて穀類の輸出港たり、ミルトンはツネイデンの南西五十八軒に位し窯業品、チロスを製す、ローレンスはミルトンの北北西農業地にありて近傍に金其の他の礦物あり、バルクルタはミルトンの南西クルタ河畔の沃地にあり、インバルカルギルはツネイデンの南西約二百四十軒に位し鋸挽其の他の工場ありて生毛凍肉穀類等を多く輸出するが外港たるカムプベルタウンは南方二十七軒にあり、キングストン、クインスタウンはワカチブ湖の岸にありて旅客

の往來少からず、リバートンはインバルカルギルの西四十二軒に當り、アパリマ、パウラキノ兩河の會する處にありて沃地、金産地を控ゆ。

ステワート島 ステワート島はニュージールランド群の最南最小の島にして、南島とフォーパー海峡を挟み、面積一千七百二十二方軒にして、長さ四十八軒、幅四十八軒あり、海岸に關しては港灣にバトルソソ灣、ベガサス港、マソソ灣あり、地角にブラックシユルラー、南、南西、ウエヂー等あり、屬島はコードフィシを以て稍大なりとす、島内山岳多くしてアングレム山(九七五)、テーパール丘等あり、沃谷亦少なからずして植物よく繁茂し、近海は魚族多く、島内砂鐵等の産あり、本島は舊と住民なかりしが、現今二百七十二年(一九〇一年)あり。

チャタム諸島 チャタム諸島 南緯四三度五〇分、西經一七七度 はリッテルトンの東約八百六十三軒に位し、面積は九百七十一方軒あるが、三島より成れり、最大島たるチャタム島は長さ六十一軒にして、幅四十軒あり、島形不規則にして、内部は丘陵多く、主として火山質の岩石より成れり、土地肥沃にして、氣候溫和なり、植物はニュージールランド的なるも固有のものも多く、十三種の陸鳥、中八種はニュージールランドにも見らる、本諸島は

一七九一年プロートンに依りて始めて發見せられ、一八三一年に約八百人のマオリ人の輸入ありしが、一八四〇年に至り以前には少くとも一千二百人ありし土人は僅に九十人の外生存するものなかりき、此のモリオリ(Mori)人は先住人とポリネシア人との混合に依りて成りしものならん、人口(一九〇一年)は四百十九人ありて白人(二〇七)、マオリ及びモリオリ(二一二)より成る、彼等は牧畜(羊六萬六千頭、牛四百五十頭)漁業を營み、時々ワイタンギ(Whanganui)に入港する船舶に對して食料を供給す。

バウンチー諸島 バウンチー諸島はチャタム諸島の南西に位す、面積十三方籽あり、住民なし。

アンチポードス諸島 アンチポードス諸島はバウンチー諸島の南約二百九籽にあり、面積五十三方籽の火山質無人島にして、南緯四九度四二分、東經一七八度四三分に位し、バルフリール岬フランスのシエルのの東なりの對蹠點に當れるが、ロンドンの對蹠點に最も近き陸地なり。

オークランド諸島 オークランド諸島南緯一五六度三一分は、ステラワート島の

南凡そ三百二十籽に位し、面積八百五十二方籽ありて、東岸に良港ある一大島即ちオークランド長四〇籽、幅二四籽と若干の小嶼とより成れり、此等は主として玄武岩より構成せられて、山約四〇〇米突、多きも土地肥沃なるが、氣候は非常に濕氣多く風多し、然れども植物には、ゲンチアナ、百合類(Chrysobactron Rossii)等の美麗なるものあり、鸚鵡鳩、蜜吸鳥等の動物あり、鳴類(Nesonetta Aucklandia)の如き固有のものあり、住民は破船者が一時上陸する時の外之を見ることなし。

カメル島 カメル(Campbell)島南緯一六九度九三分は、オークランド諸島の南東二百三十三籽に位し、面積百八十四方籽、周回五十八籽ありて、若干の良碇泊地を有するが、海岸の絶壁は立武岩より成れり、内部は丘陵約四六〇米突に富み、植物はオークランド諸島に於けるものと一般に酷似せるも、繁茂の度は彼に劣れり、住民は平時無皆なりとす。

マクカリー島 マクカリー島南緯一五八度五〇分は、長さ三十二籽の小島にして、雑草、鸚鵡類を産するが、海豹捕獵船の時々到來するあるのみ。

ケルマデク諸島 ケルマデク諸島はニュージールランドの北北東約九百七十籽に

位し面積三十三方呎あるが、最大高たるラウル(サンデー)島は周囲三十六呎、マコーレ島は周囲五呎弱あり、此等は一八八七年よりイギリス領なるが住民は僅に八人(一九〇一)あるのみ。

附記

ニュージールランドの屬地は南緯八度乃至二十三度、西經百五十七度乃至七十度に於て四百九十二方呎あるも、ポリネシアの部に於て説くこととせり又ケルマディック諸島と南大陸との間に位して、行政上ニューサウスウェールズに屬するものあり、左に記述する處あらん。

ノルfolk島 ノルfolk島 東緯一六三度はシドニーの北東一千七百七十呎に位し、面積四十四方呎あり、長さ八呎幅の平均四呎あり、沿岸の大部は絶壁を爲し、良港を缺けるが多く、細流海に急下し、内部は一般に臺地を呈して北西隅にピット山(三二〇)あり、氣候溫和にして、ノルfolkマツ(Araucaria excelsa)、ニュージールランドアマ(Phormium tenax)等の植物を生じ、全種の約四分の一は特産なるが、其の他のものは熱帯オーストラリア、ヌーベルカレドニア等にも見るものなり、動物に就きては十五種の陸鳥あり、其の大部はオーストラリア的なるも、此等はよく飛翔し得るものに

して、遠く海洋を渡るに適應せる三種(Nestor productus, Cyanorhynchus rayneri, Notornis alba)は本島をして生物の分布上ニュージールランド群の島嶼たらしむ、本島は一七七四年クックに依りて發見せられ、其の後ピトカイルン島人に委ねられしが、彼等の居住するものは八百二十七人(一九〇一)ありて耕種、捕鯨に従事し、一駐在官と一選舉議會十二員に依りて支配せらる。

ホーウェ島 東緯一五九度はノルfolk島の南南西に位し、シドニーの北東凡そ一千三百四十呎にあり、面積十六方呎にして長さ八千九百米、突弱あるが幅は五百三十米、突乃至二千四百米、突あり、島内山岳樹木に富み南端にガワー山(八六三)あり、土地火山質にして低地は肥沃なりと稱せらる、鳥類の多くはオーストラリア的なるも亦ニュージールランド的のものあり、植物は多くは北東オーストラリア及びヌーベルカレドニア的にして、二百二種中固有なるものは五十一種あり、住民は一百人(一九〇一)ありて捕鯨に従事し、ニューサウスウェールズ政府に依りて支配せらる。

ミクロネシア

ミクロネシアの島はオセアニアの北西部メラネシアの北にありて、マリアナ、カロリナ、マルシャル、ギルベルト、エリス等の諸島並に我が小笠原島、硫黄島等を含み、我が國の三十倍以上に當れる海面に散布する六百有餘の小島より成れるが、地積は僅に三千五百餘方呎にして殆ど全部赤道の北に位す。人口は十一萬餘ありて種族は別に一派を爲せり。ミクロネシア人は温良にして極めて漕舟術に長じ、體軀は稍小なるも容貌は概して醜からず、頭髮黒く鬚髯疎にして長く、皮膚は褐色を呈せり。政治上此の地は我が日本及びドイツ、イギリス、アメリカに分屬す。

其一 マリアナ諸島

境域 マリアナ(マリアン)諸島即ちラドロネ諸島はミクロネシアの北西部にありて、北緯十三度乃至二十一度、東經百四十四度乃至百四十六度に位し、南北約八百呎に亘れるが面積一千百四十方呎に過ぎずして左記の十五島より成り、グラムを以て最大とす。

- フアラロンデメビロス(Farallon de Pajaros) ウラカス(Uraeus)
- アスンシオン(Asuncion) アグリガン(Agrigan) パガン(Pagan) アラマンガン(Almanggan)

(Gan)

- ググアン(Guguan) サリグアン(Sariguan) アナタサン(Anatagan)
- フアラロンデメデニア(Farallon de Medinilla) サイパン(Saipan)
- チニアン(Tinian) アグイヒン(Aguigan) ロタ(Rota) グアン(Guan)

土地 南部の五島は低平なるも北部に於けるものは山岳多く活火山はフアラロンデメビロス島に於けるもの(三〇五)の外にアスンシオンにも八六八米突に達するものあり、パガン島は三座以上を有すと云ふ、而して土地は南方に趣くに從て肥沃なりとす。

氣候 氣温は二十一度乃至二十六度七にして、雨季は夏の半に於て南西風を以て始まるも降雨は全年に亘りて乾魃稀に起る、要するに氣候は概して佳良なるが往々激震大風の害あるを免れず。

生物 生物の状況は詳細知り難きも、動物には鹿、鼠多く牛、豚等も存するが蛇は皆無なり、植物は玉蜀黍、煙草、甘蔗の栽培あり、綿、珈琲、米、ココア、マニラアサ等も存し、ココヤシに富めり。

住民 住民は一萬一千四百人に達せず、當初五萬を下らざりしチンモルロ(Chinoro)は一人も生存するものなく、今日はフィリッピンより來れるタガル人、ピナヤ人を主とし、此の外に少數のカロリナ人多くの雜種等あり。

沿革 本諸島は一五二一年マガラエスに依りて發見せられラドロン島(Islas de los Ladrones)の盜人島と呼ばれしが、一六六八年マリアナと稱せられ、此の年よりエスパニアに屬せり、然るに近年エスバニアアメリカ戦争ありて、一八九八年グアム島は合衆國領と成り、殘餘はカロリナ、ベレウと共に一千六百八十一萬マルクを以てドイツに買受せられたり。

處誌 ドイツ領 ドイツは地積の五割五分、住民の二割即ち六百二十六方呎、二千三百七十八人を領し、白人は三十八人に過ぎず、政治上ドイツノイギネアの一行區を爲し政廳は長さ二十四呎のサイバン島にあり、貿易(一九〇二年)は輸入に三十二萬一千餘マルクありて輸出に十七萬六千マルク弱あり。

アメリカ領 アメリカ領の地はグアム長約一六五一呎即ちグアハンの一島にして地積は五百十四方呎なるも、住民は九千人ありて一方呎十九人に達し、マリアナ

諸島の人口の大部は此處にあり、イスパニア語、イギリス語通用し、十八の學校ありて島人の九割は讀書を爲す、而して地味肥え且樹木に富み、鑛地を有して太平洋横斷電線の中繼所たり、木島の商品の輸入(一九〇一—〇二)は二萬五千二百二十二ドルにして、主としてアメリカ及び我が國と取引せるが、商品の輸出は九百十一ドルなり、此の他に銀の輸出高は三萬四千六百三十九ドルなりき、首府アガニャは六千の住民を有す。

因に云ふ、アリアナ諸島の東、マルシャル諸島の北にアメリカ領の一嶼あり、ウエークと云ふ、ジョンストン島と合算するも面積四方呎に過ぎず、又マリアナ諸島の北東我が火山島の東にマーカス(Markus)島北緯約二四度、東經約一五四度あり、多少名を知らるが、其の北方緯度約七度半を隔ててガンジス(Ganges)島あり、孰れも面積小なり。

其二 カロリナ諸島

境域 カロリナ諸島はマリアナ諸島の南に位し、該諸島と異なりて東西に長く配置せられ、東西三千二百二十呎に亘り、地積一千四百五十方呎あり、而して最西部の二十五六島は之をバラウ諸島とすることあるが、北緯三度乃至十一度、東經百三

十七度乃至百六十三度に位せる東部の島は約五百と数へられ、稍大なるもの四十ありて二群に分かれたり。

東群 クサイエ島 センハウイナ諸島 ボナヘ島

中群 ハル諸島 ルク諸島 モルトロク諸島

西群 ウルツイ諸島 ヤブ島 ハラウ諸島 ハナヘルタオア島

土地 ボナヘ及びクシアイエは高陸にして起伏あるも、其の他は低く珊瑚質の島にして環海を抱き、土地肥沃なる處にはマライ群島に産する果物の多くを見、土人の主食品を供給する、バンノキの外に「ココヤシ」「バンダニウス」「バナナ」等の産あり、氣候は涼風の吹き来るを以て健康を害せず、氣温の昇降少なし。

沿革 カロリナ諸島は一五二七年ポルトガル人之を發見してセケイラ(Sequina)と呼びしが、一六八六年エスバニア領と成りしよりカロリナの國王カリスと改め、少しく後に至りて新フリップピンと唱へられたり、一八八六年に至りドイツがヤブに其の國旗を掲揚せんとし紛争ありしが、遂に一八九九年を以てエスバニアの手を離れ終りぬ。

住民 人口は三萬九千五百ありて一方料二十七人の割合なるが、種族に就きては白人は百三十九人あるのみ、土人は一般に身長高く強固なる體格を有するが、皮膚は西部より東部に越くに從て深銅色より漸次淡褐色と成り、東部の島嶼にては明らかにポリネシア人の血液を混ぜり。

政治 カロリナ諸島はドイツノイギネアの一部を爲して東西二部に分かれ、政應は二處に置かる。

行政區	地積	人口		首府
		土人	白人	
東カロリナ	六二六	四、二四二	八八	ボナヘ
西カロリナ ハラウ		七七一	五一	ヤブ

カロリナ及びマリアナに關する財政一九〇四—〇五に就きて、歳入はドイツ帝國の支出(一六、八四〇〇)を合はせて三十二萬八千六百マルクなるが、歳出は民政費(二七萬マルク)を以て主とす、而してカロリナの貿易一九〇二は輸入に五十五萬マルク弱ありて、輸出の二十八萬餘マルクは主として「コブラ」の占むる所とす。

處。ポナヘ島 長二六浬即ちアスセンション島は東カロリナ政廳のある處なり
 海岸より約五浬の距離を以て珊瑚礁の圍繞するあるも、九の缺口ありて良錨地と
 興ふ、内部は山岳八七二米突多く樹木密生するが、土地は玄武岩より成り甚だ肥沃
 なる處も存す、氣温は平均二十六度七にして寒暑の差甚だ少なく、貿易風は一年の
 大部分之感じて暴風稀に起り、雨は全年に亘りて之を受く、住民は二千人と計上
 せらる、メタナリウムの遺蹟は同名の港口無数の珊瑚礁上にあり。

クサイエ島は一にウアラン島と云ふ、六五七米突の山岳を有し風色に富めり、住
 民は四百人あり。

ヤブ島はウアブ島とも稱す、長さ二十七浬ありて沿岸頗る複雑せるが、住民は三
 千人あり、西カロリナ政廳のある處とす、香港とヘルバートツヘー(ビスマルク群島)
 との航路に當れり。

バラウ(ペレウ)諸島はミクロネシアの最西部、ミンダナオの東約九百七十浬に位
 し、二十五六の島嶼より成るが、バオベルトアブ(長)を以て最大とす、諸島は或は山
 岳多く或は低き珊瑚質の者なるが、土地肥沃、氣候溫和にして木材、住民の主食品た

る大薯及び「ココヤシ」、「バナナ」等を産す、住民は四五萬ありしも今は減少せり、住民往
 時の如く勤勉ならず、顔色はカロリナ人、ポリネシア人より一層黒く頭髪は捲縮せ
 り。

其三 マルシナル諸島

土地 マルシナル諸島はカロリナ諸島の東に位し、北西より南東に走りて八百浬
 の間に亘り二列を爲せるが、東列をラタク(約一二四方浬)、西列をラリック(約二七七方
 浬)と云ふ、エニウトク(ブラウン)島ウイラン(プロビデンス)島を合はせて地積四百五
 方浬あり、八の島は低平にして珊瑚礁を繞らすも、其の他は皆環礁なりとす、植物
 は其の豊富と變化との點に於てカロリナ諸島に劣れるが、「ココヤシ」、「パンダニウス」
 は住民の主食料と成り、薯類「バナナ」、「パンノキ」も生ぜり。

住民 住民は一萬五千人ありて一方浬三十七人の割合と成り、白人は七十七人
 (一九〇三年)あり、無人の島あるも、マイル島には二千六百人の居住者あり、異教を奉
 ずる土人が急速に減ずるは常に鬭争を事とするに由ること少からざるべし、男子
 は身長高く女子は稍之に劣るが、文身を行ふはポリネシア的にして、耳珠を大にす

るはバプアのなり、言語もカロリナ人と異なれり、而して彼等は木の薄片を結びてカロリナ人の如く一種の海圖を作ることを知れり。

政治 本島は一五二九年サアベドラなるもの之を發見せり、一八八五年以エルドイツに屬し、駐在官は西群の南部に於けるデアルイト(チアルト)に居るも、行政費はデアルイト會社の支出に係れり、貿易(一九〇二)は輸入に約四十九萬、マルクありて、輸出は「ゴブラ」等の五十萬餘、マルクあり、商船(一九〇二)は七十八隻一萬二千噸弱の入港あり。

其四 キルベルト諸島

キルベルト諸島即ちキングスミル諸島はマルシヤル諸島の南にありて、北緯三度二十分乃至南緯二度四十分、東經百七十二度乃至百七十七度に位し、十六ヶの珊瑚礁より成れるが面積は四百二十八方呎あり、土地は低くして海面上六米突に達する處なく、土壤極めて淺くして數粉に過ず、されば辛うじて「ココヤシ」「バンダニウス」「メロ」を生ずるが、草なく羊齒類もなく、陸鳥は郭公(*Trochynamis fatiensis*)を除けば一も有せず、住民の食物は主として海に求めざるべからず、彼等は殆ど赤裸にして總人口は二萬五千六百人、二〇三、五あるを以て、一方呎六十人の平均と成り、土地の肥沃ならざる割合に甚だ稠密なりとす、而して最大島たる「タブテウエ」(三六方呎)の住民(七五〇〇)は他島のものと異にしてポリネシア人の血液を混ざること少なきに似たり、此の諸島は一七六五年バイロンの發見に係り、一八九二年以來イギリス領たるが、キルベルト、エリスの貿易(一九〇〇)は輸入に二萬餘、ポンドありて、「ゴブラ」を主とせる輸出は二萬二千「ポンド」に近し。

附記 キルベルト諸島の西にバアノバ即ちオーシアン島ありイギリスに屬せるが該島の西微北に位せる「ナウル島」はドイツの勢力の下にあり。

其五 エリス諸島

エリス諸島即ちラングン諸島はキルベルトの南、ピチーの北にありて、南緯五度三十分乃至十一度二十分、東經百七十六度乃至百八十度に位し、地積三十七方呎に過ぎざるが、低き珊瑚島或は環礁にして九群に分かれ、ヌクフエダウ、フナフナ(エリス)、ヌクライライ(ミツチェル)群、ソフィア(ロッキイ)島、バイツブ、等を主なるものとす、「ココヤシ」「バンダニウス」大薯の産あるに過ぎざるが、住民は二千五百人ありて一方呎六十八

人の割合と成るを以て甚だ稠密なりと云はざるべからず、而してヌイ島の住民は
キルペルト語を用ひ、其の他にては、サモア語を口にし、以てキルペルト或はサモア
より移住せしを證す、此の諸島中、フナフチ島は一八一九年、ペイスタイ之を發見し、
其の他は既に一七八一年に知られしが、現今イギリスの領地なり。

ポリネシア

境域。ポリネシアの意は東太平洋に於ける無數の島嶼を包含し、赤道の南北に
位せるが主として東經百八十度以東にあり、而して其の稍大なるものは北ポリネ
シアに、ハवाई諸島あり、中部ポリネシアに、ファンニング、クリスマス、フエニックス、マニ
ヒキ、ユニオン等の諸島あり、南部ポリネシアに、トンガ、サモア、クック、ツバイ、ソシエ
テ、バサモツ、マルキース等の諸島を見る。

住民。住民は同一のポリネシア種に屬するが漸次減少しつつあり、今トンガ、サ
モア地方に於けるものを標準とせんに、ポリネシア人は淡銅褐色の皮膚を有し、平
均身長はヨーロッパに匹敵し得べく、頭髮はバブア人と異なりて羊毛的ならず、マ
リ人の如き直毛ならず、鬚髯少なく、容貌頗る美なるものなり、性質武を尙び、丁寧親

切にして、婦人を賤まず、快活にして歌舞を好み、大膽なる水夫たり、言語は五母音と
十子音とより成り、宗教は基督教を奉ずるものもあり、衣服は頗る簡單にして、文身
行はれ、金屬を使用せず、陶器を造るを知らざる、彼等の食物は煮ることなくして焙
らるるに過ぎず、家屋は卵形的なり。

其一 ハワイ諸島

境域。ハワイ(Hawaii)諸島は北熱帯にありてアジアよりはアメリカに近く位し、
北緯十九度乃至二十二度、西經百五十六度乃至百六十六度にあり、北西より南東の
方向に六百四十軒間に配置せられたる十一の島嶼は、面積一萬六千七百方軒あ
りて、南部の一大島を始めとし、主要なるもの八あり、アレヌイ、ハハ、カイウイ、カイエ
イ、エワホ、の三海峡に依りて四部に分れる。

島名	地積	住民
ハワイ(Hawaii)	一、〇九四	四、六八四
マウイ(Maui)	一九六八	二、五四一

世界地理 おそらにわ洲 島嶼部 沿岸島嶼 ポリネシア

ロモキニ (Molokini)	?	?
カフラウイ (Kahalaui)	一六三	?
ラナイ (Lanai)	三八九	二五〇四
モロカイ (Molokai)	六九九	五、八五〇四
オアフ (Oahu)	一五五四	二、〇七三四
カウアイ (Kauai)	一五二八	
ニハウ (Niihau)	二五一	
カウラ (Kaula)	?	?

土地 處に依りては珊瑚礁を繞らせるハワイ諸島は火山質にして起伏多きが、火山力はポリネシア中最も強烈にして火口温泉少なからず殊にマウナケア山は海拔四二一〇米突に近く實にオセアニアの最高山たり此の外にも四千米突に達するものあり河湖は記載するに足るものなく土地は頗る肥沃なり。

氣候 氣候は一般に健康に適して晴天多し氣温は沿岸の地に於て二十七八度

なるがホノルルの雨量は百二種以下なりとす而して北東貿易風を受くる地は反對の地に比して降雨多し。

生物 鳥類は「デレパニダデー」(Derepanididae)に三十二種以上あり「ウソ」類はアシアの始原を有するもの如く「アクルロセラヌ」(Acruloceerus)「ケイプチラ」(Chaetophila)等は其の祖先をオーストラリアに有するが如し殊に軟體動物は「アカチネラ」(Achatinella)「カネリア」(Canelia)「アウリクレンラ」(Auriculella)の如き特産ありポリネシアの他の諸部に見る「パルツラ」(Partula)は之を缺けるが「パルプラ」(Purpura)の中には熱帯メキシコ産のものと親密なる關係を有するあり温帯カリフォルニア的なるものあり植物は山岳地方に繁茂するが低地には米作地甘蔗園と交りて草地の存するを見る。

沿革 ハワイ諸島は一五四二年ガエダナ(Gaetano)始めて之を發見せしが後一七七八年に至りクック再び發見してサンドキチキチ伯の名譽紀念と命名せり而してカメハメハ一世の建設せる王國の獨立は一八四三年フランスイギリス等の政府に承認せられカラカウア王の死するや(一八九二)女王リリウオカラニ繼ぎて一

八九三年に至りしが、此の年廢せられて共和國と成り、一八九八年アメリカ合衆國に合せられ、一九〇〇年ハワイ領土(Territory of Hawaii)の成立を見たり。
 住民人口は一九〇一年に於て十五萬四千一人男一〇、六三六、九ありて一方、
 九人の割合なり、種族に就きては土人、日本人、支那人、白人、ポルトガル人、アメリカ人、イギリス人、ドイツ人、雜種等ありて殊に來住人は日本人を主とするが、支那人の來住には制限あり。

種族	調査年次		總員
	一九〇〇年	一九〇一年	
日本人	一八九〇	一九〇〇	六、一一一
土人	一八九六	一九〇〇	二、九八三
白人	一八九六	一九〇〇	二、八五三
支那人	一八九〇	一九〇〇	二、五七六
雜種	一八九六	一九〇〇	七、八三五
合計	九、二二九	一〇、三〇八	一九、五三七

土人はカナカ(Kanakas)と稱す、ポリネシア派に屬し容貌秀麗にして勤勉なるが、頗るアメリカ化して概基督教を奉ぜり、グロークが始めて至りし時には三十萬人と概算せられしも、其の後次第に減少して目下三萬に達せず。

宗教は基督教、佛教、等行はれ、一八九六年の調査に従へばローマカトリック教徒二、六三六三の外に、新教徒(二三七七三)、モルモン信者四八八六、佛教信徒等四、四三〇六、等あり、一萬餘人の教派は不明なり。

學校は諸島に設立せられ初等教育は無月謝なり、教育費(一九〇一)は三十七萬八千ドル、弱なるが、生徒は公立學校に一萬三千二百人ありて私立に約一萬七千五百あり、此の他に師範學校、職業學校あり、學校にては一般にイギリス語を用ふ。

政治 ハワイはアメリカ合衆國の一領土たるを以て任期四ヶ年の知事ありて之を支配し、書記官、其の他の官吏、裁判官と共に大統領の任命に係れり、兵備上はカリフォルニアに屬し、海軍の根據地たり。

生業 産物の主要なるものは砂糖及び米なり、一九〇二年に於ける甘蔗栽培地は五十五ヶ處にして、使役者四、二二四二の大部は我が日本人(三、〇六四〇)なるが、殘

餘は支那人(三八八二)、ポルトガル人(二六六九)、ポルトリコ人(二〇三六)、ハワイ人(一四九三)之を占め、砂糖の年産額は三十五萬五千六百十一噸なり、珈琲、バナナの栽培も行はれ、皮革、生毛の産もあり、貿易の状況は明瞭ならざるも、一九〇三年六月に終れる年度に於て、輸入に三百十四萬二千餘ドルありて、輸出は二萬七千餘ドルなり、重要輸出品は砂糖、米、バナナ、皮革、獸脂とす、アメリカに對する商品の輸入高は一千七十九萬ドル弱なるが、輸出高は二千六百二十萬ドル強にして、其の大部(二五三一)は砂糖なりとす。

我が國とハワイとの貿易(一九〇三)に就きて記さんに輸出高は二百二十五萬圓を超ゆるも、輸入は僅に六百二十二圓弱に過ぎず、而して主要輸出品は左記の如くにして、概ね神戸(一五三、五四〇)七圓、横濱(六六、九三三)三圓、函館(四、八〇〇)の三港を經過せり。

米	對 ハワイ 重要 輸 出 品
七六、二五八八	履物
	六、一九五五

酒類	三八、六二七八	乾魚	五、〇九九三
醬油	二二、〇三七一	硫黃	五、〇一二六
綿布	八、七〇九七	綠茶	三、二九三三
豆類	七、八〇七三	輸出額	二二五、三七八三

交通に就きては船舶に六十隻三萬三千六百噸弱あり、航線は六ありてアメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージールランド、支那、日本と本島とを連ぬ、鐵道はハワイ、マウイ、オアフの三島に於けるものを合はせば百六十一軒あり、郵便に關しては八十一軒の營造物あり、電線はマウイ、ハワイ、オアフ等に於て約四百軒ありて、無線電信も使用せらる。

處誌。オアフ、島はカイエイエワホ、カイキ兩海峽の間にありて不規則なる四邊形を爲し、北西部にカエナ、岬ワイメア灣あり、北東岸にプナララン、マクア、ハキバン、エィアホレ、カエレブルの諸岬あり、カワイホア岬とラエロラ(バーバー)岬との間には眞珠港の凹入を見、西岸にはワイアナエ岬の凸出あり、島内山岳多く、西岸に接し

て一二三〇米突に達するものありて南東部に九四六の標高を示すものあり、ホノルル(三、九三〇五)^{北緯二一度一八分二〇秒、西經一五七度五一分五二秒}はハワイの首府にして島の南岸に位置し交通の要地たり、我が横濱を距る三千四百四十哩に當り日本領事館あり、市内には電氣鐵道通じ電燈の使用あり、ウキキはホノルルの南東にあり、ホノウリウリは首府の北西に當れり。

モロカイ島はカイキ、バイロロの二海峡間、ラナイ島の北にありて東西に狭長なり、北岸にはカルア、コア岬、オロクイ灣、ハラフ岬の如き出入あるが、南西岸には一のカチア岬突出し、南東部にモヅ諸島あり、内部は亦山岳多く、東部に七六〇米突に達するものあり、本島は癩病患者の隔離所たるがカウナカカイ、カルアは孰れも南岸に位し多少名を知らる。

マウイ島はバイロロ海峡とアレヌイハハ海峡との間に位置し、ラナイ、カフラウイ、モロキニ等の島嶼の東にありて島形不規則なり、南西部にカマレア灣を抱き北東端にハナバリ岬、南東部にカエロ、ハナの二岬あり、山岳の中最も名あるはハレアカラ(三〇五八)にして、火山は周囲四十万至四十八万、深さ約六百米突あり、此の外

ウククイ(一七六四)あり、北東岸のホノコハ、ワイルク、スプレクルスビーユ、南岸のキアフロア、南西岸のラハイナは稍、名ある處とす。

ハワイ島はサンドキチ諸島中の最南最大の島なるが、面積一萬一千方呎に達せず、ウボル岬とクムカラ(カボホ)岬との間に於ける北東面にはヘアラカカ岬、ヒロ灣あり、クムカラ岬とカラエ南岬との間に於ける南東面にはアプア岬あり、西岸にはマケアラケア、クア其の他の灣澳を見、ラエマノ(ハイフィシ)岬等の突出あり、内部にはマウナケナ、マウナロア、フアラライ(二五二二)等の山岳あり、マウナケア(白山)は四二〇八米突の海拔を以てオセアニア洲の最高峯と稱せらるゝが、島の北東部に位せり、マウナロア(大山)は四一六八米空の標高を有する大火山にして活動極めて盛なり、其の噴火口キラエアは東面の海拔一二一九米突の處にありて楕圓形を呈し十五呎の周圍を有せるが、熔岩の運動は實に奇觀たり、フアラライはマウナロアの北西にありて亦火山なり、ヒロは北東岸に位せるが此の外に他島に比して多くの部落あり、ケアラケア、クア灣は一七七九年クークが殺されし地なり。

カウアイ島はオアフ島の北西にありて、カウラカ海峡を隔て、ニイハウ島と相

對す南岸にコロア岬、西岸にマナ岬の突出するあり、内部の中央にワイアンアレ山
 (二五〇〇)聳ゆ、北岸のハナレイは稍名ある處なり。

附記 カウイ島の北西に當りてアメリカの勢力の下にある數多の小島散在せり、即ちバハラ(フォーゲル)、ネッカー、フレンチフリガット、ガルドネル、レイサン、リシアンスキー、ヘル、ヘルメス等の各島并に太平洋横断電線の中繼所たるミドエー諸島等を云ふが、バトロシニオ(バイエル)島、モルレル島は無所屬なるに似たり、又オアフ島の南西に於けるジョンストン島は合衆國領なり。

其二 フアンニング諸島

中央ポリネシアの中部に於けるバルミラ、ワシントン、フアンニング(一八八八年以來イギリス領)クリスマス、チャルビスの五島はフアンニング諸島と概稱せられて、地積六百七十方呎に達せざるが、マルデンスタルブック等と共にイギリス領たり、此等は概ね、グアノの産ある珊瑚質の島嶼なるもの、如し。

島名	概略位置		地積	人口
	緯度	經度		

バルミラ	北	西	三、九	?
ワシントン(ニューヨーク)	北	西	一五、五	?
フアンニング	北	西	三八、九	一五〇
クリスマス	北	西	六〇六、一	一〇〇
チャルビス	南	西	三、九	三〇
フアンニング諸島	南北	西	六六八、三	二八〇
マルデン	南	西	九〇、七	二六八
スタルブック	南	西	二、六	
ピクトリア	南	西	五、二	

其三 マナヒキ諸島

マナヒキ諸島は南緯八度乃至十一度、西經百五十度乃至百六十一度に位し、カロライン諸島、ウストク島、フリント島、トンガレツ島、ラカハンガ島、マナヒキ島等を包

合す此等はニールジランド(イギリス)に屬せり。

カロライン諸島は一八六八年以來イギリス領にして家畜、ココヤシの産あり、ト
ンガレワ島は一にベンリン島と云ふ一小環礁なるが四百四十五人の住民を有し
メラネシア人の極東住地たり、ゴブラ、眞珠を産す、マナヒキ(マニヒキ)島はハムブレ
川島とも云ふ四百八十四人の住民ありて基督教を奉ず

其四 マルクス諸島

マルクス 侯爵の意此の諸島の探検を命ぜしカニエ侯の名譽紀念 諸島は南緯八度乃至十一度、西經百三十八
度乃至百四十一度に位し、面積四千三百方呎ありて十一主島より成り、住民を有す
る七島は二群に分かる、

北西群 ウアフ ウアフカ ヌカヒバ エイアウ

南東群 タウアタ フツヒバ ヒバオア

海岸は殆ど珊瑚礁を繞らすことなく、凹入少なからざるも、風の爲に接觸の困難
を感ずることあり、内部は火山質にして土地險なるが、各島は概ね九百米突に達し
て山岳多し、而して活火山の存するものなきも、温泉、湧出は見る所なり、地味はタ

ヒチに劣れり、氣候は海岸に炎熱なるも、海拔は氣温を減せしめ、一般に健康を害せ
ず、植物はタヒチに劣れるが、動物は乏しくして陸棲哺乳獸蛇を有せず、鳥類の如き
も西部の諸島に比すれば頗る少なきが、特産には鳩の類(Semius galentus)あり。

一五九五年メンダニに依りて發見せられしメンダニ、即ちマルクス諸島は一八
四二年以來フランスの保護地たり、人口は一七七四年の十萬人、一八三八年の二萬
を経て現今の四千三百人と成れり、而して土人は肉體の美に於ては他の南洋人に
優れるが、婦人の多くは南ヨーロッパ人と比肩し得べしと云ふ、フランスの駐在官は
此の諸島の最大島にして風色に富めるヌカヒワ島(長一六三呎、幅一六三呎)の南岸、タイオハイに
住せり、此の地は繁華なる小港を控ゆ。

其五 ユニオン、フェニックス諸島

マナヒキ諸島の西及び北サモア諸島の北に當りてイギリスに屬せる二諸島あ
り、其の一をユニオン、其の二をフェニックスとす、而して後者の北西に於けるパーケル
ホランドの二島も亦イギリスの勢力の下にあり。

ユニオン諸島は一にトケラウ諸島と云ふ南緯八度三十分乃至十一度、西經百七

十一度乃至百七十二度に位し面積十四方軒あり、フアカアフ(ボーヂチ)、ヌクノノ(クラ
レンス公)、オアタフ(ヨーク公)等を主とす、住民は五百人あり、種族、言語ともにサモア
人に似たり、コブラを製す。

フニックス諸島は南緯二度三十分、同四度三十分、西經百七十度乃至百七十四度に
位し、マリ、エンデルバリー、フニックス、ビルニー、ガルドネル、マッキーン、ホール、シドニ
等の八島より成り、面積二十六方軒、人口五十九人あり。

其六 サモア諸島

サモア諸島は南緯十三度半乃至十四度半、西經百六十八度乃至百七十三度に位
し十四の島嶼より成れるが、地積は約二千八百方軒あり、サバイ、ウボ、ツツイラの
三島を以て主とす。

シドニー、サンフランシスコ間の航路に當りて良港を有するサモア諸島はロー
ズ島を除き、其の他は火山質にして大抵珊瑚礁を繞らし、小島は殊に地味肥沃なり、
三月乃至十一月は氣候の佳なる時なるが、此の他にありては強風豪雨の屢來ること
あり、濕氣は概して多し、動物は少なくして鼠に一種、蛇に四種あり、鳥類は鳩の類

(Didunculus strigirostris)を以て著しとす、植物は熱帶的のもの栽培せられて「ココヤシ」
「バナナ」甘蔗、煙草、綿等を産す。

人口は三萬六千餘あり、漸次減少する土人はポリネシア派に屬し身長甚だ高し、
勇氣あり威嚴あり清麗を尙べり、宗教はキリスト教を奉ずるも迷信少なからず、而
して一七六八年當諸島を發見せしブーガインビエは彼等が漕舟に巧みなるを
以てナビガトル諸島の名を與へ、一八八九年のベルリン條約はサモアの中立獨立
を承認し、一八九八年マリエトアラウベバ王の死するや、王位相續に就きて紛争起
りしが翌年王政を廢すること成り、一九〇〇年に及びてイギリスは手を引きて、
ドイツ、アメリカ兩國をしてサモア諸島を分領せしめたり、

所	領	地積	人口	方軒に付	白人
ドイツ		二五八八 ^{方軒}	三三二六 ^{二人}	一二	三八一
アメリカ		一九九	四〇〇〇	一九	?
合	計	二七九七	三六六二	一三	?

ドイツ領

ドイツはマボリマ海峡を挟めるサバイ島、ウボル島該海峡に於けるアボリマ、マノノの二島并に此の他の小嶼を領し、住民はポリネシア派に屬して、ウボロ(一、八三四二)、サバイ(二、三二〇二)、マノノ及びアボリマ(二〇七〇)にあり、白人は三百八十一人(一九〇三年)なりとす、行政上は知事の駐在するあり、此の下に大酋長ありて地方行政を司る土人會議を有せり、歳出入は各五十八萬六千、マルク、一九〇四—〇五なり、ココア其の他を産し、商權はドイツ人、イギリス人、アメリカ人等の手にあり、貿易一九〇二は輸入に小間物、石油、食品等の二百四十二萬八千、マルクありて、輸出に、コブラ等の百九十三萬一千、マルクあり、道路の佳良なるものは九十七軒にして、アシア港に於ける出船は百九十三萬一千噸、入船は二百四十二萬八千噸とす。サバイ島は一千七百二方呎の面積を以て全群の半以上を占め、長さ七十六軒、幅三十二軒ありて四邊形的なり、沿岸多少屈曲せるが、内部には消火山ありて、ムア山(二二一九)の外に中央に一六五〇米突に達するものあり、雨量多きも著しき河なく、山岳地方は水乏しく、土地の大部は地味瘠せたり、然れども沿岸には狹長なる沃地ありて、ココヤシ其の他の果樹を産す。

ウボロ島は東西に長くして其の面積サバイに劣るも、地味の肥沃と住民の多きとは之に優り、蕪蔚たる森林を有せり、山脈は六百米突に達して西端のドンアはラバ丘なるが、中部のラウトは火口湖を有せり、アピア南緯一七一度四分は北岸にありてドイツサモアの政廳を有し一港に瀕せり。

アメリカ領

アメリカ領はツツイラ島三八〇〇方呎、其の他の小島より成れり、貿易一九〇二は輸出に、コブラ等の二萬二千餘、ドルありて、輸入は八萬二千餘、ドルあり、ツツイラ島は山岳多く土地肥えて樹木繁茂するが、南岸にバゴバゴあり、此の地は一八七八年以來アメリカの勢力の下にあり、南洋の最良の一港を有し入船一九〇二—〇三は二十二萬噸を超ゆ、海軍の要地として知事駐在せり。

附記

サモア諸島の西に當りてフランスに屬せるものあり、左に略記せん。
ワリス諸島はサモア諸島の西方に位し、新カレドニアとタヒチとを距ること相等しき處にあり、面積九十六方呎、住民約四千五百人あり、一八八七年以來フランスの保護を受け同共和國の官吏駐在せり、珈琲、甘蔗、實綿、椰子を産す。
フツナ及びアラフィはワリス諸島の南西に位し、面積百五十九方呎ありて、住人は

約一千五百人なり、一八八八年フランス領と成れり。

其七 トンガ諸島

トンガ諸島は一にフレンドリー諸島と云ふ、ビチーの東六百四十軒に位して、南緯十五度乃至二十三度三十分、西經百七十三度乃至百七十七度にあり、トンガ、エウア、バブ、ナムカ、レフカ、トフア、ラテ、カオ、等約百五十の島嶼より成りて、トンガ、バブ、エウア、バブの三群に分かれ、面積約一千十方軒、三十七方軒あり、各島は珊瑚礁を繞らし、多くは低くして珊瑚質なるものあり、火山質のものも若干あり、カオ(一五二四)、ツファ、ラテ、アマルグラ、等活動するものあり、地震少なからず、地味は膏腴なるが、氣候人身に適せずして雨多く颶風屢起り、植物はビチーに類して動物少なし。

トンガ諸島は一六四三年タスマン始めて發見し、一七七七年クック來航してフレンドリーの名を與へたりし處なり、一八八六年のペルリン條約は此の地の中立を認めしに拘らず、一八九九年のイギリス―ドイツ協約はトンガをしてイギリスの勢力に服屬せしめ以て今日に至れり。

人口は一九〇〇年に於て約一萬九千人ありて、土人(一八三〇〇)、太平洋諸島人(三〇〇)、イギリス人(一五〇)、外國人(八九)、雜種(二二〇)に分かれたり、土人はポリネシア派

に屬し、住屋、器具、兵器等の製作に於ては南洋諸島中秀絶なり、言語はサモア語より荒く、宗教は基督教を奉ぜり、而して彼等は漸次減少するもの如し。

トンガはイギリスの保護の下にある王國にして、世襲貴族議員及び人民の公選議員より成る一立法議會あり、歳入は約二萬九百ポンドにして、關稅、人頭稅、貸地稅等より得らる、住民は「コブラ」果物、マツ、タバコ、織物、網等を製するが、貿易は一九〇〇年輸入に約百九十八萬マルクありて、輸出に凡そ百三十九萬マルクあり、コブラ(一)―(二)果物(一四)を主要輸出品とす。

年次	一八九八	一八九九	一九〇〇	一九〇一
輸入	三、五一七六	七、四一二四	八、八九一八	六、四二五九
輸出	三、九四六四	七、〇九二一	一〇、六七九三	八、八〇〇八

一九〇一年の貿易に就きて輸出は主としてニッカーサウス、ウルス、ニッカーソーラン

ド、イギリス輸入はニールサウスウエールズ、ニールジーランドよりせり、船舶二九〇二は入船に百十二隻、約九萬九千噸ありて、出船に百六隻、凡そ九萬七千噸あり、ピチー、ニールサウスウエールズ、ニールジーランドと定期航海行はる。

トシガタブ島は長さ三十五軒、幅十三軒ありて、三百三四十方軒の面積を有す、平地にして最高點も十八米突に過ぎず、首府スカアロアは本島にありて王の居住地なるが、亦此の諸島に於ける主港を控ゆ。

其八 クーク諸島

クーク大航海者の名を紀念諸島即ちヘルベール諸島はサモアの南東一千百三十軒に位して左の九島より成れり、

島名	住民	島名	住民
ラロトンガ	二〇六〇	マウケ(バルリー)	三七〇
マンガイア	二五四一	ミチアロ	一六五
アチウ(バチウ)	九一八	ヘルベール諸島	一〇
アイツタキ	一一七〇	合計	六二三四

此等の諸島は火山質なるか珊瑚質かにして、適當なる錨地なく珊瑚礁の存するありて接觸に便ならず、「ココヤシ」、「バンノキ」、「バナナ」、「珊瑚」、「アローリート」、「煙草」等の産あり、住民に就きては、火山質にして丘陵多きラロトンガ周回三に於けるものはサモアより移住せるの傳説を有して言語も類似せるが、マンガイアに於けるものはメラネシア的の分子多し、要するにクーク諸島の土人は次第に減ずるもの如し、此の諸島は一八八八年よりイギリスに屬し、一九〇一年よりニールジーランドの屬地たり、駐在官はラロトンガに居り、行政會議の議員には土人の王、女王あり。クーク諸島とともに南緯八度乃至二十三度、西經百五十七度乃至百七十度にあつて、ニールジーランドに屬せる地を示せば左の如し、地積四百九十二方軒、住民一萬二千二百九十二人、一方軒平均二十五人なり。

島名	住民	島名	住民
ニウエ(サベリジ)	四〇七九	ラカハンガ	四〇〇
バルマーストン	一一五	マナヒキ	四八四

スワロフ	三〇	ベンリン(トンガレワ)	五〇四
ブカブカ(デンジャー)	五〇五	合計	四四五
			六〇五八

ニウエ島はサベージ島とも云ふ、トンガ、サモアの略ぼ中央に位して長十四軒あり、珊瑚質の肥沃なる小島なり、住民はサモア、メラネシアの混合より成り、サモア語を用ふるが、其の数は他島と異なりて漸次増加す、性質勤勉温和にして島名は野蠻の意なるも、今は危険ならずして基督教を奉ぜり。

パルマーストン島はクック諸島の北西に位す、スワロフ島はパルマーストンの北北東にありて眞珠を産し、錨地あり、ブカブカ島はスワロフの北西に當り、サモアの東にあり、ラカハンガ、マナヒキ、ベンリンは既に前文に見えたり。

其九 ソシエテ、シブアイ、パウモツ諸島

ソシエテ諸島、ソシエテ諸島は或はタヒチ諸島とも唱ふ、南緯約十六度乃至十八度、西經凡そ百四十八度乃至百五十五度にありて、主軸は北西より南東に亘ること約三百二十軒にして面積一千六百五十方軒あり、ソーワード、ウィンド、タヒチ、マイテ

ア、エイメオ、フアヒネ、ライアテア、タハア、ボラボラを以て主島とするが、總計十二島より成りて之をソーワード、ウィンドワードの二群に分つことあり、概ね火山質にして珊瑚礁を有し、氣温は二十一度乃至二十八度なるも、變化少なくて健康を害せず。

此の諸島は一六〇六年キロスの發見に係り、クックの探査(一七六九―七七)を経てソシエテの名を得たり、而して一八四二年に至りて東群先づフランス領と成り、一八四七年のイギリス―フランス條約が西群の獨立を承認せしに拘らず、一八八八年に及びて全諸島は亦共和國に服し終れり。

ソシエテ諸島はフランスオセアニア殖民地(Etablissements français de l'Océanie)の主要部にして顧問會議、選舉會議(十一員)に補佐せらるる知事の支配の下にあり、オセアニア殖民地の地方豫算一九〇二年は百六十五萬餘フランクなり、

地	名	地積	調査年次	人口	方軒ニ付	
タヒチ	諸島	風下諸島	一六五〇	一八九七	一、八四〇〇	一一

世界地理 わせあにあ洲 島嶼部 沿岸島嶼 ポリネシア

マルキーズ諸島	一二七四	四三〇〇	三
ツアモツ諸島	七〇〇	五三七三	八
ガンビエー諸島	二三〇	一四〇〇	六
ツプアイ諸島	二八六	一七八三	六
オセアニア殖民地	四一四〇	三、一〇〇〇	七

五〇六

タヒチ島はソシエテ諸島の最大島にして面積一千五百五十四方尺長さ五十六
 尺あり低き地峽に依りて連接せられたる二の圓形の地より成りラバ及び火山噴
 出物より構成せられオロヘナ山(二三三七)を著しとす沃地は沿岸に存するのみ氣
 候は人身に適するもポリネシア派の土人は漸く減じ一八九七年には人口一萬三
 百人あり學校は十三校ありタヒチに對するフランスの豫算(一九〇四年は六十六
 萬フランク)弱にして地方豫算(一九〇二年)は約百三十萬フランクなり兵備(一九〇
 四年)には百六十二人のヨーロッパ兵を有せり住民は「ココヤシ」「バナナ」「柑類」「甘蔗」
 「ニラ」等と興ふるが綿、珊瑚、煙草等も多少産す貿易(一九〇二)は輸入に約三百八十七

萬フランクありて輸出に凡そ四百二十萬フランクあり主要輸入品は食料、綿布類
 鐵物にして重要輸出品は「コブラ」「ニハ四萬フランク」「ツニラ」「(一九)珠母(九〇)なり
 而して取引先は輸出にアメリカ(二二四)、イギリス(八〇)、フランス及び其の領地(六二)
 等ありて輸入に「ナイジールランド(六七)、フランス及び其の領土(六二)、イギリス(三五)等
 あり、パピートはタヒチの首府にして約四千三百人の住民あり良港を控ゆるが、出
 船入船数れも六萬五千噸あり其の大部は「ナイジールランド」「サンフランシスコ」間の
 航船なり。

「チイメオ島」即ち「ムレア島」はタヒチ島の北西十六方に位し面積百三十二方尺あ
 り火山質にして地味肥えたり「ファヒネ島」は良港を有し一千三百人の住民あり「ライ
 アテア島」は亦山岳多く一〇三〇米突を越ゆるものあり綿「コブラ」を産し「タハア島」
 と共に約二千三百人の住民を有す「ボラボラ島」は珊瑚礁と良港とを有し山多きこ
 と「ライアテア」に似たり住民は八百人と計上せらる。

「ツプアイ諸島」 「ツバイ諸島」は「アウスラル諸島」とも云ふ「ソシエテ諸島」の南にあり
 「リミタラ」「ルルツ」「ツバイ」「ライババエ」等の島嶼より成り四箇の主島は火山島にして

珊瑚礁の圍繞あり、氣候頗る人身に適せり、一八八一年よりフランスに屬せり、最高最大のツブアイ島とライババエ島とを合はせ地積約二百五十九方呎にして凡そ一千七百人の住民あり、ラバ島は一にオパロ島と稱す、ツブアイの南東に位し、面積三十九方呎、住民百九十二人に過ぎざるが、オー克蘭ド、パナマ、ヨーロッパ間を航行する船舶寄泊す。

パウモツ諸島 パウモツ諸島即ちツアモツ諸島の意 諸島はソレチテ諸島の東にありて、北西より南東に亘ること約一千五六百呎なるが、凡そ八十箇の環礁より成り、地勢平低なるを以て低群島とも唱へらる、ココヤシ、眞珠を産し殆ど耕地に適せる處なし、此の諸島がフランスに屬せるは一八四六年なり、ガンビール諸島は、パウモツ諸島の最南東部に位し五箇の火山島より成るが、最大島たるヤンガレバは殆ど南回歸線下に位せり、此の諸島には五百八十人の住民ありて土人は既に食人の風を脱せり。

附記 フランスに屬せるクリッペルトンは西經約百九度、北緯約九度にある無人の小島なり。

其十 ビトカイルン、ヂッシー、ラバヌイ島

ビトカイルン島 ビトカイルン諸島は南緯二十五度五分、西經百三十度五分に位し、長さ三千三百呎、幅一千二百米突ありて、面積五方呎に過ぎざるが、火山質の沃土を有し、氣候佳良にして、ココヤシ、パンシノキ、バナナ、アタナス、珈琲、トマト、玉蜀黍、アロールート等を産し、家畜、山羊多し、本島は一八〇八年發見せられて百二十六人(一九〇一年)の住民あり、面積三方呎のヂッシー島 南緯一四度四分、西經一四度四分 と共にイギリスに屬せり。

ラバヌイ島 ラバヌイ島は一名をバイフ島と云ふ、イギリス名は即ちイースター(Easter)にしてフランス名はバーク(Paque)なり、タヒチ島并に南アメリカを距ること凡そ三千六百呎の處にありて太平洋中に孤立せり、周囲は五十呎にして、地積は百二十六方呎なるが、海拔四百五十七米突のものを始めとし、其の他若干の消火山を有し、テラノカウ火口は深さ二百十三米突、周回四呎に達す、土地は浮石、熔解岩等より成りて濕氣に乏しく、草木の生育は甚だしく盛ならず、本島は一七二一年、グエイン發見し、其の後クーク、ラペル、スも到りしことあり、住人の數は往時にあ

りては三千人以上なりしが、現時は百五十人にしてポリネシア種族に属するも、他の島嶼に於ける居民に異なりて文身するを好まず、概ね耶蘇教を奉ずるが如し、甘蔗、タロ、甘蔗、バナナ等の産あり、一八六〇年以來チリに属せり、他の太平洋諸島に於ける如く本島にも石器時代の遺跡あるが殊に石製の家屋、巨像等を有するを以て名あり。

サライゴメス嶼はポリネシアの最東嶼、全オセアニア洲の極東嶼なり、平低なる小地峽にて連ねらるる二箇の小嶼より成れるが發見者たるエスバニア Salas y Gomen に因みて命名せられたり。

補遺 ツドザ島は南緯約七度四十分、西經約百六十一度に位して五方杆の面積あり、ツコビア諸島はサンタクルス諸島の東南東に當りて、面積六十六方杆、住民七百人あり、ツフ(キルソン)諸島はサンタクルスの北東に位し、十一島より成りて最大島は周回十杆に達せず、以上の三は皆イギリスの勢力の下にあるが如し。

ヨーロッパは洲

● 總論

名稱 ヨーロッパ(歐羅巴)即ちユーロピア イギリス オイローパ ドイツ なる名稱の起源に就きては、フェニキアのエウロパなる婦人の名に基つけりとし、或は、エウルス 東 風のより來れりとするあり、又ペロポネソス及びギリシア諸島に對して、スラキアの主部を稱せし名が大陸全部の稱に用ひられしものにして、廣地の義なりとするもあれども、フェニキア人が與へしエレブ (Erebh) 暗黒即ち日 より起れりとするを以て適當なりとす。

位置 ヨーロッパ洲は舊大陸の北西部に於ける陸地なるが、完備せる一大洲を形成すと云ふよりは寧ろアジア州の半島と稱すべし、蓋し本洲は西より東に赴くに從ひて漸次に増大し、スンダ諸島はりベering海峡に至るの地を以て東邊とする、梯形の西邊と認むるを得ればなり、而して此のユーラシアなる梯形の地を分ち

てアシア、ヨーロッパの二大洲と爲すは古來の慣習にして、單に歴史的價値を有するに過ぎず、蓋しカウカサス、ウラルの二山脈は以て天然の區劃を爲すに足らず、バルカン、アナトリアの二半島は鏈鎖的に排列せらるゝ數多の島嶼に依りて連絡せられ、地中海も亦自然の境界たる資格を有せずして、アフリカの北岸とイスパニアとの差異はヨーロッパの南岸とバルト海の沿岸地との間に存する差より著しからず、要するに地中海は其の沿岸にアシア、アフリカ、ヨーロッパの三大洲を集め、各洲をして其の特徴を失はしめんと務むるに似たり、且又西端の大西洋に於けるもイスラエルとグリーンランドとはヨーロッパとアメリカとをして互に相關連せしめんとせり、茲に本洲全部の四極點を示さんには、

極南	タリファ岬	北緯	三五	〇五
極北	ノルディン岬	同	七六	五五
極東	カラ河の水源	東經	六六	二〇
極西	イスランド島	西經	二二	三〇

更に大陸部の四極を記せば、

極南	タリファ岬	北緯	三六	〇〇
極北	ノルディン岬	同	七一	〇五
極東	カラ河の水源	東經	六六	二〇
極西	ロカ岬	西經	九	三〇

境域。本洲は北に北極洋、北西及び西に大西洋、南に地中海を控ふるを以て三方は海に面せるが、南東はマニチ沼河で境とする。カウカサス山脈を以てカスピ海を隔て、東はウラル河、ウラル山脈を挟みてアシア洲に隣接せり。

廣袤。本洲は東西に長くして南西のロカ岬より北東のワイガチ海峡に達する最長徑は五千六百五十軒に亘れるが、南北に亘るは四千軒を有するに過ぎず。

面積。本洲は舊世界の三大洲中、最も小なるものにして、オセアニア洲より稍大なるが、地積は凡そ一千万方軒ありて、アシア洲の四分の一に達せず、地球全陸地の約十四分の一に當れり、而してヨーロッパの面積の百分中、二十七は半島にして、八弱は島嶼の占むる所なれば、幹部は全洲の三分の二に過ぎず。

海岸 本洲は五大洲中最も海岸の屈曲に富めるものなれば、其の海岸線の延長は比較的に大にして、實に三萬二千年に達せり、其の中、五千八百年は北極洋にあり、一萬三千五百年は大西洋並に屬海に瀕し、一萬二千七百年は地中海及び近海に屬せり、而して本洲に屬する海岸の状態が各處同じからざるは勿論なれども、地中海并に大西洋の沿岸は岩礁多く絶崖に富みて甚しき屈曲を呈せるに反し、内海の沿岸は概ね平低にして河口の外には著しき彎曲を見ること少なし、今左に海灣、島嶼、半島等の主要なるものを表示せん。

北極洋	カラ海	バイダワタ	チエスカイア	白海	メツセン	ドキナ
北極洋	バルト海	ボスニア	フィンランド	北海	フオース	カナタフ
大西洋	アイルランド	海	プリートル	ビスカヤ	カチス	海
地中海	リオン	湾	ジエノバ	湾	タルレニア	海
地中海	アドリア	海	エーゲ	海	マルマラ	海
北部	ワイガ	チャ				
北西部	スカ	グ	ラ	ク		
	カタ					
	ズ					
	ズ					
	ズ					
	ズ					
	ズ					
	ズ					

海峡	南部	ジブラ	タル				
海峡	南部	ダル	ダ	ネル			
半島	南部	カニ	ン				
半島	南部	イベ	リ	ア			
半島	北部	氷	岬				
地角	北部	ハ	ル				
地角	北部	ク	リ				
地角	南部	ジ	ブ				
海峡	南部	ジ	ブ				
海峡	南部	ス	ピ				
海峡	南部	デ	ン				
海峡	南部	エ	セ				
海峡	南部	ワ	イ				

島嶼	北極洋	スピ	ツ				
島嶼	北極洋	デン	マ				
島嶼	北極洋	エ	セ				
島嶼	北極洋	ワ	イ				

世界地理 一六三三 地誌

地中海	フェル諸島	シエトランド諸島	オークニー諸島	ベブライズ諸島
	イギリス諸島	大ブライテン島		
	アイルランド島			
	バレアル諸島	コルシカ(コルス)島	サルチニア島	シチリア島
	マルタ島	ダルマチア群島	イオニア諸島	セリゴ島
	クレテ(カンチア)島	シクラデス諸島	スボラデス諸島	

地質 始原界の地は主としてスカンデナヴィア、フィンランド、スコットランド等即ち本洲の北部、北西部等にありしもの如し、志留里亞紀の終に至りて大なる地變ありて、アルプ山脈、イスピニアの山岳、イギリスの高地等始めて出現し、陸地の水面に現はれしもの少なからず、爲に海洋より遮断せられたる瀧水を生じ、變じて鐵分を帶べる淡水湖を諸處に見たり、而して此の頃まで南ヨーロッパは島嶼を爲すに過ぎざりしが、該島嶼附近の沼地に生ぜし隱花植物は静かなる地變の爲に泥中に埋れて、所謂石炭紀の石炭を與ふるに至れり、次て又陸地の隆起ありて従前よりは一層完全なる無口の鹹湖の成生あり、以て今日處々より産する岩鹽を生ぜしに似たり、三疊紀以後殊に白堊紀の時代には陸地の下降甚しく、イオシン紀に於ても水の面

積は陸地より廣かりしなり、然るに該紀の末葉に及びて略ぼ現時の如き形態を呈することと成り、ビレネー、アルプ、アペニン、カルパチア等の諸山脈頗る隆起したり、イオシンの頃にありては今日よりも温度一層高くして殆ど全部同温なりしも、プリオシンの後氷河時代ありて本洲の大部は氷河に蔽はれたり、而して其の作用は頗る大なりしが中央ヨーロッパに於ける「リース」、黄土、ロシアに於ける「チエルノツェム」、黒土は孰れも氷河の爲に成りしと云ふ、要するに探究を經たる九百九十萬方軒弱の地積に就きて地質的に之を分てば、中世界二八四、始原界二〇四、第四紀層一七三、太古界一六五、第三紀層一四五、新火山岩一二の順序を附記す、本洲の氷河の面積は六萬方軒あり。

地勢 本洲は地勢上、分ちて二部と爲すを得べし、其の大陸部はバイヨンヌよりアストラハンに至る線とバイヨンヌよりカラ海に至る線との間にありて、其の半島部は本洲の南部と北西部とにありて、本洲は既に其の地形を完成せしもの如し、蓋し火山は概ね其の活氣を失ひて僅にアイスランド島、シチリア島等の一局部に餘力を顯すに過ぎず、而して海岸には多少の變動ありて水陸の配分に幾分かの差

異を生ずるも、大體の形狀を變更するに足らず、且又本洲はアフリカの臺地に於けるが如く、又はアメリカの平地、沿海山脈に於けるが如く、特殊の地貌に偏せざるにあり、本洲の高地は中央に彙集して、周旁に傾斜せり、之を高地ヨーロッパとす、ツール、イズ、ミンデン、ホクツァニを頂點とする三角の形狀を呈供し、平均海拔は三百五十米突なるが、主要の山塊はアルプ山脈にして、フランス山嶽、ドイツ山脈、カルバット山脈は之が從屬たり、又此の山地の東北西に當りて大平野の存するありて、ウラル山脈の外、他には微々たる丘陵又は臺地を見るに過ぎず、而して南に當りては廣狹の異なる地峽に依りて數個の半島を分派せり、之を要するにヨーロッパ山岳の直立がアジアの山岳に及ばざるや遠く、アルプ山脈の最高處も四千八百十米突に過ぎず、而して本洲の大部分は北方の平野なるが、之に内部の平地の地並に多少の窪地を加ふれば、ヨーロッパの平均海拔は三百米突を超過せざるべし。

山誌。土地の起伏より考ふるときは、本洲の山岳を三群に分つを以て適當なりとす、其の一は南部山脈にして、山岳重厚、高度顯著なるが、アルプ山脈は之が盟主なり、其の二は中央山脈にして、カルバット、ピレネーの兩山脈の間に亘れるものなる

が高度は著しからず、其の三は北部山脈にして、ブリタニアの山脈並にスカンディナヴィアの山脈より成れり、而してイスタンブールの山岳は三群以外にありとす。

南部山脈

アルプ山脈	ベルニナ(四〇〇〇)	グロスグロックネル(三七九九)
	オルトレル(三九〇五)	
カルバット山脈	タトラ(二六六三)	ビエトロスマツ(二三〇〇)
イリリア山脈	デナリアアルプ	
バルカン山脈	リロダク(二九三〇)	チェロダク(三〇五〇)
ピンド山脈	オリムピア(二九七三)	
クレテ山脈	イダ(二五〇〇)	
アペニン山脈	グランサッサ(二九二二)	
コルス山脈	モンテシント(二七一〇)	
サルチニア山脈	デニンタルデモンチ(一七九五)	
ピレネー山脈	マラデタ(三四〇四)	
カンタブリア山脈	ピコスデエロバ(二六七八)	シエラデグレドス(二五九二)

フランス中央山麓 モンドール(一八八六)

ジャラ山脈 クレイドラネージュ(一七〇〇) シラスラル(一六〇〇)

中央山脈

バーメン山麓 ショネーコッフ(一六〇一)

ボージャ山脈 グランバロン(一四二六)

黒林山脈 ヘルドベルグ(一四九五)

ウエールス山脈 スノードン(一〇八九)

グランピア山脈 ベンネビス(一三四三)

スカンデナヴィア山脈 イメスヒエルド(二五六〇) ドブレヒエルド(二三〇〇)

北部山脈

ウルル山脈 テルボスイス(一六五六)

火山

ベジャバ(一二八二) エトナ(三三一一) ヘクラ(一五五七)

アルプ(高山)山脈は最も有名なる山脈なり其の境界はアペニン山脈西に當れる

と稱する時を以て境とするは適當ならん(四八八米突)と結合する處に於ける外は甚だ分

明なるが其の基底は約二十三萬方呎に達し、總延長は一千一百呎に近く、幅はモン

ドビ、ジエノバ間の四十八呎を最小とし、ペロナの子午線に於ける二百五十七呎を最

大とす、本山脈は西、中、東の三群に分つことを得べし。

西部

沿海アルプ アルジエンテラ(三三九七)

コッチアルプ モンテピン(三八四三)

ドーフィネアルプ ペルプー(四一〇三)

グライアルプ グランドバラヂン(四六六一)

ペンニアルプ モンブラン(四八一〇) マテルホルン(四四八二)

ロザ(四六三八) ヘルベチアアルプ レオネ(三五六一)

レーチアアルプ セプチメル(二三一一)

ベルンアルプ フィンステラアルホルン(四二七五)

四アルプ ユングフラウ(四一六七)

オルトレルアルプ オルトレル(三九〇五)

トリデンチンアルプ

東部

ノーリックアルプ カルニアアルプ ジャリアアルプ

高峯奇岳に富める本山脈の地質に就きて一言せんに、秀嶺を頂ける中帯は主と

世界地理 ヨーロッパ 總論

して片麻岩、雲母片岩等の如きものより構成せられて其の外方に水成岩を見る、而してミラノとコンスタンツ湖とを連ぬる線マッギホル湖の東、パールメソッコ河を經過す。以東に於ては水成岩は内面(南)、外面に現はれ、就れも石灰岩、白雲岩の發達著しきが、該線の西に於ては内帯を存せず、蓋し本山脈の隆起以來、氷流水其の他の作用に依りて非常なる損害ありし者の如し、雪線は北緯四十六度四十五分のモンブラン山に於て二八六〇—三一〇〇米突にして、氷河の終端は海面上—一〇〇米突なるが、ベルンアルプに至れば雪線は二七五〇米突、氷河は九八〇米突の低きにあり、此の氷河雪層は無數の溪流を發し、本山脈をして一大貯水地たらしむるが、縦横に走行せる峡谷は天然の通路を開きて、周圍に於ける住民をして容易に交通するを得しむ、今通路の主要なるものを示せば、西部にジネブラ(一八五三)、スニ(二〇八三)、大ベルナルド(二四七五)、小ベルナルド(二一九二)あり、中部にシムプロン(二〇一)、ゴタルド(二一四)、セプチメルあり、中部と東部との兩アルプの境界たるブレンネルあり、而して車行し得べきものは總計二十人ありと云ふ。

水誌。本洲の河流を分類するは極めて困難なり、土地の起伏状態に千差ありて

河流の流域並に分水線は共に明確を缺けり、河系が山脈に從屬せずして、同一の水流が山間流、臺地流、平野流、等各種の特兆を呈供するが如きは實に他の大洲に於て稀なる所なり、ライン河がジラ山脈をコンスタンツとバゼルとの間並にライン沿岸臺地とピンデンとボーヌとの間に於て通過横斷し、ドナウ河が一方に於てはアルプとカルバットとの間、他方に於ては後シルバニアとバルカンとの間に於て狹隘なる通路を求むるが如きは是れなり、又平野の河流に於けるも亦流域完全ならずして、ボルガドンドニエベルはウラル—カルバット丘陵を迂過し、ピスチュラ、オーデル、エルベもウラル—カルバット並にウラル—バルトの丘陵の爲に迂路を求めざるべからず、而して斯の如く河流が山脈を切斷するは交通上に便益を與ふること大なりと知るべし。

水脈の航行に適するは平野流なり、今各河の航河部を河長の分數にて現はせば、ボルガ(16)、ドナウ(17)、ドナウ(11)、ドナウ(12)、セイヌ(4)、ライン(2)、ローヌ(2)、タホ(1)、チベル(1)、チベル(10)を得るなり、而して河口の状態は注水海の如何に依るものなるが、潮汐少なき地中海、北海にありては三角洲を爲すもの多く、之に反して大西洋にありては概ね河灣を

形成せり、要するに本洲は土地廣大ならざれば他の三大洲の如く大河、巨流を有するを得ざるも、地積の少なさに比すれば海灣多く山岳高く、特に起伏の配付宜しきを得たれば、河流は水量に乏しからずして航行に堪ふるを以て、人類の生存には極めて適合するもの如し、是れ亦本洲が夙に文化の佳境に入りて他の大洲に冠たるに至りたる故ならんか。

本流	水源	河長	流域	支流
北極洋 ベチオラ	ウラル山脈	一八五〇	三二二、九五〇〇	ウラサ イウマ ビチエグダ ワガ
ドビナ(白海)	クビンスイエ湖(源)	一七八〇	五三、九三〇〇	メニス キエン タルス ドルドイ ビスエルガ エストラ
大西洋	セベンヌ山脈	一〇二〇	一一、一〇〇〇	
ロアール	ピレネー山脈	九八〇	五、七〇三三	
ガロンヌ	ピコデュルピオン山	五五七	一〇、〇〇〇〇	
ドイロ		七八九		

タホ	ムエラデサンファン山	一〇一五	八、二六〇〇	アマラ アラゴン カスロン
グアチアナ	ラマンカ臺地	八三〇	七、二二〇〇	アマラ アラゴン カスロン
バルト海	ラドガ湖	五八三	三〇、一九〇〇	カスナ エウスト ピルツ アラ ワルテ
ネバ	ワルダイ臺地	九三〇	八、五四〇〇	カスナ エウスト ピルツ アラ ワルテ
ヂウナ(南ドビナ)	ヤブレンカ山脈	一〇四〇	一九、六五〇〇	カスナ エウスト ピルツ アラ ワルテ
ウイスツラ	オーデルベルグ山脈	九〇〇	一一、八六〇〇	カスナ エウスト ピルツ アラ ワルテ
オーデル				
北海	アウルスンド湖	六四〇	四、〇四〇〇	ロンガ
グロンニン	リーゼンゲビルゲ山脈	一一六〇	一四、六九〇〇	モルダウ ザアレ アレル フンテ
エルベ	チャリツケルヤルド山脈	七二〇	四、五九〇〇	フンテ
ウエーゼル	アルプ山脈	一三二〇	一六、〇〇〇〇	マイン
ライン	ラングル臺地	八〇〇	五、六〇〇〇	モーゼル サムアル ワルテ
マース	コツウオールド山脈	四〇五	一、二五五〇	クンネット
チームス				

世界地理 ヨーロッパ 総論

マンシヤ海	ラングル臺地	七七六	七、七八〇〇	ヨシヌ マルヌ
地中海	カンタブリオ山脈	七一〇	八、三五〇〇	クアテローフ セクレ
エプロ	アルプ山脈	八四〇 七五九	九、八九〇〇	サオニス ブランヌ
ローヌ	アベニン山脈	三九三	一、七〇〇〇	チマナ チベロス
チルレニア海	アルプ山脈	六七五	六、九四〇〇	チシノ アツダ
チベル	シワワルツワルド山脈	二八五〇	八一、七〇〇〇	ティス ドワウ
アドリア海	カルバット山脈	一三七〇	七、六九〇〇	スアルニス
ポー	ワルダイ臺地	二一五〇	五二、四〇〇〇	ブリベット アスナ
黒海	ウラル山脈	二二七九	?	イレンク
ドナウ	イバン湖	一八六〇	四三、〇三〇〇	ドネツ メドビエツワ
ドニエステル	ワルダイ臺地	三八〇〇	二四五、九〇〇〇	カマ オカ
ドニエベル	ウラル山脈	二二七九	?	サクマフ イレンク
アソフ海				

ドン	イバン湖	一八六〇	四三、〇三〇〇	ドネツ メドビエツワ
カスピ海	ワルダイ臺地	三八〇〇	二四五、九〇〇〇	カマ オカ
ボルガ	ウラル山脈	二二七九	?	サクマフ イレンク

主要なる河流を長さの順に依りて列記すれば、

ボルガ(三八〇〇) ドナウ(二八五〇) ライン(二二三二〇) エルベ(一一六〇) ロ
 アール(九八〇) タホ(八九五) ロニス(八四〇) セイス(七七六) ポー(六七五) ネ
 バ(五八)

又此等の河流を水量の順に依りて列記すれば、括弧内の数字は一秒钟に

ドナウ(九一八〇) ボルガ(四五〇〇) ネバ(二九五四) ライン(二七二八) ロ
 ス(一七二〇) ポー(一七一八) エルベ(一三七二) ロアール(九八五) セイス(五
 〇七) タホ(三三〇)

ボルガ (Volga) 河は土人の聖河、ロシア人のマツシカの母河にして長さは三千八百

糶に達し本洲第一の巨流たり、流域は約百四十六萬方糶を有するも、平均水量は一
 秒時に四千五百立方糶に過ぎず、是れ水源が平野にあると流域が降雨の多から
 ざる乾燥の地にあるに因るなるべし、ボルガ河は水源をワルガイの臺地に於ける
 海拔六十五米突の處に發し、東流してカザンに趣き數多の沼湖の水を容れ、ボロギ
 の階段を超ゆること三十五回にしてツェルに至れば航河自由と成り、運河に依りて
 パルト海に通ぜり、而してニジニノゴロドに於て、一千五百糶の長さとい千三百
 米突の幅を有するオカ(Ok)河を合はす、カザンを經過したる後に本流はウラル山
 脈より來るカマ(Kama)河を容れ、方向を南に轉じて流下するも、著しき合流を受け
 ざるに流域が乾燥に失するとに因りて、水量に増加を見ることなし、左岸は平坦な
 る草原なるも、右岸は絶壁をなし、稀には三百米突に達することありて、風色に富め
 り、サマラ、サラトフを經、カスピ海を距る五百糶のツァリツ、ンに至りて三角洲に入
 り、アストラハン以下の下流には島嶼又は沙洲多くして無數の分流を爲し、航行に
 便ならず、而してボルガはカスピ海に注水するも、此の大湖をして其の水平を保た
 しむるに足らずして、反りて泥沙を輸送し來りて湖底を淺からしむ、然れども魚類

を産すること夥しきが故に沿岸の住民に漁利を興ふること少なしとせず、又春季
 の増水の際には、三米突以上の水層が全三角洲を蔽ふことあり。

ドナウ(Donau)河は本洲第二の長流にして、ハンガリア人のドナ(Dana)フランス
 人、イギリス人のダニブ(Danube)なるが、ラテン名をダヌビウス(Danuvius, Danubius)
 と云へり、河長は二千八百餘糶にして、流域は八十一二萬方糶なるも、平均水量は九
 千立方糶以上に達せり、水源はシツルツワルド黒森山脈にあり、ドイツユラの麓
 に沿ひてバイエルン臺地の北邊を洗ひ、レケンスマルグの附近に至るや、バイエル
 ンの高地は本流をして方向を南東に變ぜしむるも、バーメンとアルプ山脈の東端
 との間に於ては、峽谷を開き、ウイーンを經、ハンガリア平野に入り、小カルバット山脈を
 迂回したる後は、數派に分かれて大小のシツツを抱けり、而して第二の峽谷に依り
 て、パロニーワルドを過ぎ、ハンガリアの大平野を潤し、つ南下す、ドラウ(Draue)タイ
 ス(Theiss)サーエ(Sava)を容れて、廣、流向を變じ、鐵門と稱する第三の峽谷に依りて、後
 シルバニアを横斷し、ロマニア平野の南部を過ぎりて、諸水を集め、ドブルチアの
 小臺地に達ひて北行す、ガラツの附近に至れば、河流は分かれて數派と成り、三角洲

を形勢して黒海に注ぎ、而して海流の主要なるものはリウナ(Rhine)とワグネル(Wagner)とナント(Nanto)とシエナ(Siena)とジョージア(Georgia)及びして航行上最も有用なるはメサナナリ。

ルン(Rhein) 河 Rhinof, Rhenus, Rhyd, Rhodanus 河 長 1200 哩 (Rango) 河 長 1200 哩
ルン(Rhein) 河の水源はアルプ山脈の中心にシニゴター山脈のツツラ山地に於て發し、狭長なる縦谷の一端に依りて山地を流下し、西流してコンスタンツ湖を爲し、シツツの盆地を横切り、シツツハウゼンの瀑布を爲して、コラ山脈を越え、アムル河を容れ、ロゼンに於て方向を北に轉じ、ロゼンとシツツツツとの間に於ては平野を潤し、マインに至れば、タウヌの嶺を以て、西に折れて、通路を求め、狭長なる河床の中を流れ、ゲルマを経て、ザルツブルグに至り、廣闊なる平野に出で、ワグネル河と通過するものなるが、土地に傾斜少なく、水勢は甚だ微弱なれば、河床は分かれて、數派を成る、其のオムセル(Oberrhein)は北行して、ツィーデル、ゼーに入り、其のレンツ(Lenz)と古ライオンとを分派せり、本流の長さは一千三百二十哩にして、流域の廣さは十六萬方呎なるが、平均の水量は一秒時に一千七百二十八立法米突なり。

湖沼は主としてスカンヂナウ、ノルマンランド、北ドイツ、アルプの三地方に存するが、一般に其の面積小にして二萬方に達するものなし。

湖沼	面積	長	幅	高度	水深	水質	排水口
ラドガ	一、八一、二九	二〇八	一、二六	五	一一三		
オネガ	九五五〇	二三五	八〇	三五	三〇五		
ウニンネル	六三三八	一五〇	八〇	一三四	九一		
バイブス	三六〇〇	八〇	四八	三〇	一五	淡	
ウミテルン	一九六〇	一一三	二二	八八	一一三		
ブラッテン	六三三五	七七	一六	一〇六	四六		
レマン	五八三	七二	一四	三七二	三三三		
コンスタンツ	五三九	七二	一四	三九五	二七六		

氣候 本洲の年同温線は略ぼ十九度より零下十度を示し、氣温が純然たる温和

的特兆を有するには種々の原因あるべしと雖も第一は緯度に因るべし、蓋し極南の地に於けるも熱帯に達せずして北の方も北極圏を超ゆるの地少なし、第二は大西洋と地中海との間にありて、南西并に西の温風の通路に當れるにあり、第三は海岸の屈曲多きが爲、内部も亦海風の温和的作用を蒙るにあり、是れアジアに比してヨーロッパに於ける同温線が北上せる所以なり、而して氣温の昇降の激しきは海濱を距るに従ひて其の度を高むるを以て北進するよりは寧ろ東漸してハンガリア又はロシアに大陸的氣候を觀るなり、第四は土地の起伏は降雨地方を區劃する

観測地	年			観測地	年		
	一月	七月	差		一月	七月	差
グリニチ	九、八	三、八	一七、〇	リスボア	一五、六	一〇、三	一〇、九
ベルリン	九、一	〇、四	一九、〇	ムルシア	一七、〇	九、三	二六、一
ワルシャワ	七、二	(四)四	一八、六	パレルモ	一七、六	一〇、九	二四、九
サラトフ	五、四	(一〇)二	二一、七	アテネ	一八、二	八、七	二八、一
							一九、四

に足らずして乾燥に失する地方を生ずることなく、又高地と低地との配付は緯度

の高低と相待ちて氣温の平均を保つにあり、然れども種々の情態より考ふれば、縦令境界線は明確ならざるも、本洲を三大帯に區分するを得べし、其の第一は西部にして夏冬共に温和なり、第二は地中海沿岸の地にして夏季冬季孰れも氣温高し、而して以上の二帯は何れも海候に屬せり、第三は東部にして夏暑く冬寒き陸候の地なり、此等の差異の存するは夏冬兩季の同温線の配置に依りて自ら明なるが、夏季にありては氣温は南より北に赴くに從ひて降下するも、冬季にありては西より東に赴くに從ひて低下せり、左に主要なる年同温綫に就きて略記する所あらんとす。

- (1) 十五度同温綫 本綫は略ぼイペリア、イタリア兩半島の北境を爲し、アドリア海の東岸に沿ひてエトグ海に出て、黒海の南岸を東に進めり。
- (2) 十度同温綫 本綫はブリタニア群島よりライン河口の北に達して、該河の右岸に並行し、ドナウ河の上流を横ぎること二回、ウインの北を過ぎ、カルパット山脈中を走り、次第に東方に向ひてアソフ海の北東部を通過す。
- (3) 五度同温綫 本綫はイスラランドとノルグの西岸との間に於て北東に凸出し

(北緯六十八度)之より少しく南に偏して北緯六十度、東經二十度附近に至るや、方向

一轉モスクバの面を経て南東に下る。

(4) 等度同温線 本線はイヌランド、スビツベルグンの間を過ぎて、ググーラン
ドより来り、南西南と三回に方向を變じて東經約二十度の地に下り、北回歸線上を
走るが、遂に白海を横ぎりてアイタンジルの北に達し、之より亦南東に進む。

(5) 零下十度同温線 本線はスビツベルグンの北方よりノウヤゼリアの南部に
来り、僅に大陸部に觸接す。

降雨に就きても本洲は熱帯地方の如き豪雨を見ざるも、亦乾燥に失ずる沙漠の
地の存するあるなし而して降雨の量并に雨天の日数は西の方、大西洋より東の方
アジアに進むに従ひて減少するは左表に依りて自ら明なり。

地	方	雨天の日数	雨量
アイルランド、イングランドの西岸		二二〇	一一〇〇
東部フランス		一五〇	六〇〇
ハンガリア		一一〇	四二〇
東部ロシア		九〇	三三〇
シベリア(ヤクーツク)		六〇	一二〇

又季節に依りて區分すれば、第一に西部は秋季に雨多く、第二に中央并に東部は
夏季に雨多く、第三に南部の地中海沿岸地方は夏季にあつては乾燥を極むるも、春
季又は冬季に於て降雨を見る。

風に就きては貿易風の外に若干の地方風あり、其のメストラル(Mistral)は地中海
岸に吹く北西の寒風にして、エプロ河口とジニパ灣に至る間、殊にマルセイユ地方
に起り、風力強し、該地方にては平均毎年百七十六日之を感ず、其のボーク(Bora)は亞
らくはボレアス(Boreas)の北風の略音なるべきが、バルカン半島の西岸、トリエスタよ
りマルパニアに至る地に起る寒燥風にして、一般に晴天に伴はるゝこと前者に似
るも多少彼より不規則なり、其のシロコ(Sirocco)は主としてマルタ、シチリアに流行
し、時にローマ又はアトランタにも及ぶ南の熱風にして、其の吹き来るや夜間と雖
も三十五度の温度に昇り、空は鉛色の蒸氣を以て充たされ、植物に大なる損害を與

ふ、而して春季に普通なるも必ずしも時を定めず、概ね三日にして止むと云ふ、イヌバニアに於けるソラノ(Solano)はシロコと同一視せらるゝことあるも、之は全く性質を異にせる東風にして濕氣を帶べり、要するにシロコはサハラ沙漠より來るものと信じて不可なきに似たり、其のフーン(Föhn)は亦南風にしてアルプの北面に於て北に開ける谷、殊にロイス地方に起る、主として冬春の間に吹く溫風にして、大なる雪解かしの名あるが、頗る乾燥なり、蓋し此の風は赤道氣流の一部に過ぎざるべし。

天産。植物は氣温と降雨とに對し緊密なる關係を有するを以て、第一に地中海沿岸地の一帯は全然他の部分に異なりて特殊の情態を有せり、其の北境は沿岸の山脈なれば地帯の廣狹は勿論一樣ならざるが、光熱共に多くして濕氣なく、森林の存するものなきも、厚くして濕氣を保持し得るの葉を備ふる常緑の灌木或は小木斯の如きものを「マ」と見、オリーブ、柑類、椰子等は容易に繁殖せり、而して地味は概ね「カキ」(Cacaba)と云ふと見、オリーブ、柑類、椰子等は容易に繁殖せり、而して地味は概ね確確にして豊腴ならざるも、亦葡萄、桑樹、蜀黍、米等の産あり、此の地方の植物とアリカの北岸に於けるものとは極めて相類似し、ベルベリア産の四百三十四種中僅

に三十四種はヨーロッパに見る能はずと云ふ、第二に西部中部の一帯は尙ほ溫熱を受くること多く殊に濕潤なり、土地は肥沃にして最も穀類の耕種に適せるが、又葡萄の栽培を見ざるに非ず、第三に北部并に東部の一帯は冬季の寒氣凜烈にして夏季は甚だ短く、雨量は西方に多くして東方に少なく、アジア的氣候を有する森林草原の地なり、要するにグリゼバハに従へば本洲の植物帯は三區に分かるゝも、アジアの半島たるの性質を失はざること動物に於けるが如し。

動物は其の分布上、舊北區に屬して二亞帯を形成するも、猛獸奇獸の存すること少なく、狼、熊、大野猫、河狸、野牛、麋、馴鹿、シマキヤ(Chamois) (Rupicapra)、野羊(Ovismontan)、高山「マルモット」等ありて、此等の中には生産地を限れるものあり、而して鳥類、爬虫類、魚類等に至りては殊に列擧すべきものなし。

礦物に就きては、鑛を第一とす、銅之に次ぎ、金銀は其の量多からず、白金はウラル山脈に産し、錫、鉛、水銀、亞鉛等はイギリス、イスバニア、ドイツに産せり、石炭はイギリス、ベルジック、ドイツ、フランス等の各地に産す、而して其の他に琥珀、硫黃、泥炭等を藏有せり。

人口。人口は三億九千萬以上なれば一方軒に就き平均三十九人を得べし、されば之をアジア洲の十八人、アフリカ洲の六人等に較ぶれば、本洲の人口は稠密にして五大洲中の最たるものなり、且又人口の配付は稍均一にして人跡の絶えたる地少なく、又非常の群集を観るの土も多からず、而して人口の最も稠密なるは西部にして、中部、南部之に次ぎ、東部は稀薄にして、北部には一萬軒に就き一人に達せざる處もありて存す。

人種。本洲の住民は人種上、インドヨーロッパ人種と蒙古人種との二部に大別するを得るが所屬の不分明なるもの多少あり。

ゼルマニア群(一、三、一、四〇) ドイツ人(六、九、九〇) オランダ人(九、九〇)

イギリス人(四、〇、七〇) スカンデナヴィア人(一、〇、九〇)

ローマ群(一、〇、八、六〇) フランス人(四、〇、一〇) イタリア人(三、四、四〇)

イヌビエナ、ポルトガル人(三、三、七〇) ロマニア人(二、〇、四〇)

スラブ群(一、二、二、六〇) ロシア人(八、四、七〇) ポーレン(二、六、四〇) チェヒ、ウヰンド人(九、六、〇) スルビア人(七、七、〇) ブルガリア人(四、二、一〇)

ゲルト人(二、六、〇)

レト、リタウ人(四、六、〇)

ギリシア人(三、六、〇)

蒙古人種(一、九、五〇) マギール人(八、七、〇) フィン人(三、三、三〇)

オスマン人(二、八、〇) トルコ族(六、七、〇)

アルバニア人(一、五、〇) パスク人(六、〇) ツイゴイネル人(六、〇) アルメニア人(四、〇)

宗教。信教に差異あるは種族の如何に依れるが如き感あり、ラテン派文化の人民は概して耶蘇舊教を奉じ、新教徒の多くはビルマニア種族に屬し、スラブ、フィン、ロマニア人、ギリシア人等はギリシア教を信じ、トルコ人、タタル人等はマホメット教に歸依し、ユダヤ教徒は各地に散在せり、而してキリスト教徒は千分中の九百六十五を占めて最も優勢なり。

キリスト教徒(三、八、一、九〇) カトリック(二、六、六、七) 新教(一、〇、〇、二、一〇)

正教(九、九、一、〇) 其他(一、五、九、〇)

マホメット教徒(六、〇、〇) ユダヤ教徒(八、五、〇) 異教徒(一、〇)

沿革^〇 ヨーロッパの文明はアジア及びアフリカに近き南東部の地に發せり、之をギリシアとす、次で西隣のイタリア半島にローマ起り、地中海岸地方は勿論、ライン河、ドナウ河地方にも其の勢を及ぼし、國土甚だ大なりしが西紀三九五年帝國二分して西ローマ三九五—四七六、東ローマ三九五—一四五三を生じたり、先之ゲルマン種族の移住ありて本洲は大に動搖し、西ローマも遂に其の爲に亡びたり、降てイベリア半島に據り、遂にキリスト教國の亡ぼす所と成りしサラセン人が始めて當地方に侵入(七一)せし後、約九十年、シールマニアは西ローマ皇帝として復た大國に君臨せり、然るにベルダン條約(八四三)に依りて分裂し、九六二年に至りて其の或部分は神聖ローマ帝國(九六二—一八〇六)と成りて、ドイツ、イタリアを含めり。斯くて十字軍(一〇九六—一二七〇)あり、オスマンリトルコの東ローマを滅するあり、航海の發達よりしてポルトガル、イスパニア、オランダ、フランス、イギリス等各、其の地を廣めたり、而して漸く名を著はせるロシア、プロイセン等の爲に、ポランダが三回(九三—一七九七)に分割せられしが如きは誠に慘なりと云はざるべからず、フランス革命時代(一七八九—一八〇四)、ナポレオン皇帝時代(一八〇四—一四)

當りてはヨーロッパの形勢穩かならず、國界の變更も少なからざりしを以て、ウィーン會議(一八一四—一五)の開會あり、ネーデルランド王國及びドイツ聯邦の形成、イギリス、ロシアの國土増大、其の他のことを議決せり、此の後ギリシアの獨立(一八二九)、ベルジックの獨立(一八三〇)あり、トルコに多少の地を得せしめたるクリミア戰爭(一八五四—五六)あり、イタリアの統一(一八六一)あり、オーストリアをしてドイツ聯邦より退かしめたる戰爭(一八六六)あり、此等は皆地圖に變動を生ぜしめたるが、殊にフランス、プロイセン戰爭(一八七〇—七一)はアルサス、ロレトンの授受を爲さしめ、ベルリン條約(一八七八)はバルカン半島に大なる變化を呈せしめたり。
分國^〇 本洲に於ける列國の名稱、面積、人口、等左の如し。

部	國名	面積	人口	疎密	都邑
東	ヨーロッパ ロシア諸州	五三八、九九八五 ^キ	一、〇五八四、三九九七 ^人	二〇	ペテルブルグ
	ロシア諸州	四八八、九〇六二	九三八三、〇一九七	一九	
	ポーランド	一二、七三二九	九四五、〇八〇〇	七四	ワルシャワ

世界地理 ヨーロッパ洲 總論

北		中	
フィンランド大侯國	三七、三六〇四	ドイツ國	五四、〇七四三
小計	五三八、九九八五	オーストリア帝國	六二、五五一八
スウェーデン王國	四四、七八六三	ハンガリア王國	三〇、〇一九三
ノルウェー王國	三二、一四七七	リヒテンシュタイン侯國	一一、五九
デンマルク王國	三、九七八〇	スウイス國	四、一三四六
小計	八〇、九一一九	小計	一一二〇、七七六六
ヘルシンゲンフェルス	二五六、三〇〇〇	オーストリア	五六三六、七一七八
七	〇五八四、三九九七	ハンガリア	四五四〇、五二六七
二〇		リヒテンシュタイン	二六一五、〇七〇八
二		スウイス	一九二五、四五五九
七		オーストリア帝國	九四七七
二		ハンガリア王國	三三一、五四四三
七		リヒテンシュタイン侯國	一〇五〇九、七三六五
二		スウイス國	八七
七		小計	八七

五四三

西		東	
オランダ王國	三、三〇〇〇	モナコ侯國	一、五一八〇
ルクセンブルグ大公國	二五八六	大ブリテン・アイルランド聯合王國	四二九四、〇〇〇〇
ベルギー王國	二、九四五六	小計	九一、五八五〇
モルネネー中立地	三	ポルトガル王國	八、八九五四
フランス共和國	五三、六四六四	イスパニア王國	五〇、四五一七
モナコ侯國	一、五一八〇	アンドラ共和國	四五二
大ブリテン・アイルランド聯合王國	三二、四三三九	ジブラルタル	五
小計	九一、五八五〇	イタリア王國	二八、六六八二
オランダ	五四三、〇九七三		
ルクセンブルグ	二二、六五四三		
ベルギー	六九八、五二一九		
モルネネー	三〇三八		
フランス	三八九六、一九四五		
モナコ	一、五一八〇		
大ブリテン・アイルランド	四二九四、〇〇〇〇		
小計	九四、五七、二八九八		
ポルトガル	五〇、六二六七		
イスパニア	一八六〇、七六七四		
アンドラ	四五二		
ジブラルタル	五		
イタリア	二、六八三〇		
	三三三二、八三二八		
	一一六		

世界地理 ヨーロッパ諸國

五四三

		南		
小計	サンマリノ共和国	六二	九五三五	
	マルタ	三三三	一九、三三一五	
総計	ギリシャ王国	六、四六七九	二四三、三八〇六	
	ギリシャ王領	一六、九三〇〇	六一三、〇二〇〇	
	ブルガリア侯國	九、六三四五	三七四、四二八三	
	ホスニア、ヘルツェゴビナ	五、一一一〇	一五九、一〇三六	
	クレタ	八六一八	三二、〇三六二	
	モンテネグロ侯國	九〇八〇	二二、七八四一	
	セルビア	四、八三〇三	二六二、四三二八	
	ロマニア	一三、一三五三	五九五、六六九〇	
	小計		一四五、九七八二	八〇〇九、五七一六
		總計	九七八、二五〇二三	九五五三、六〇六九
		四〇	五五	
			四〇	

右の表に基づきて主要なる國の面積、人口、粗密、地下積、地積、三二、三地方、軒を表示すれば、

順	地	積	人口	粗	密
1	ヨーロッパロシア	五三八	一〇五八四	ベルギー	二三七
2	ドイツ	五四	五六三六	オランダ	一六〇
3	フランス	五三	四二九四	イギリス	一三七
4	イスパニア	五〇	三八九六	イタリア	一一六
5	スウェーデン	四四	三三二二	ドイツ	一〇四
6	ハンガリア	三三	二六一五	ルクセンブルグ	九一
7	ノルウェー	三二	一九二五	オーストリア	八七
8	イギリス	三一	一八六〇	スウイス	八〇
9	オーストリア	三〇	六九八	フランス	七四
10	イタリア	二八	六一三	デンマーク	六二
11	ヨーロッパバルコ	一六	五九五	ハンガリア	五九
12	ロマニア	一三	五四三	ポルトガル	五六

世界地理 ヨーロッパ洲 總論

更に殖民地保護地等を合算して各國全部の地積に就きて比較せば或單位萬人

國名	地積	人口	國名	地積	人口	國名	地積	人口
1 イギリス	二八九三三、九八〇〇	4	トルゴ	四一四三九八〇	7	オランダ	二〇七四三三〇	
2 ロシア	二二四七一、二八七九	5	ドイツ	三二三六八三六	8	イタリア	七九三三九四	
3 フランス	一一五二	6	ポルトガル	二一八二二六九	9	イスパニア	七一八九〇	

ロシア

名稱 ロシヤ (Rossia) 即ちロシアは種族名のロス (Ros) 或はルス (Rus) に起れり。イギリス人は之をルシヤ (Russia) と云ひ、フランス人はリッシー (Russie) と呼び、ドイツ人はルズランド (Rusland) と唱ふ。

位置 ロシヤ帝國はヨーロッパの東半部とアジアの北半部とより成りて、東西は西經凡そ百七十度の東岬より東經凡そ十七度三十分のピヌドリ岬に至りて、經度百七十二度四十二分に亘り、極北のチリウスキン岬は北極より十二

度の處にありて、極南の地は接カスピ州のヘリウードにして、赤道より三十五度にあり。

面積 ロシヤ全國の面積は約二千二百五十萬方呎なるが、其の凡そ五百四十三萬方呎はヨーロッパにありて、其の他はアジアにあり、此の地積はアジアの大半に當りて、アフリカ洲の三分の二以上に當り、地球表面の二十二分の一、ヨーロッパ又は清國の二倍以上、我が日本國の五十倍餘に相當せり、されば世界の列國中にて地積上、此の帝國を凌駕するは一のイギリス帝國あるのみ、而して海上王の屬地は各處に散在せるも、大北帝國の領土は西の方、バルト海より東の方、太平洋に至るまで、并に北の氷洋より南の境界に至るまで、連綿として間斷なき一大土塊を爲して、遙に優勢の地位にあるものとす。

部名	地積	人口	方呎に付
ロシア諸州	四八八、九〇六二	九三八三、〇一九七	一九
ポーランド	一一二、七三二九	九四五、〇八〇〇	七四
世界地理	ヨーロッパ	ロシア	五四七

合計	フィンランド大侯國		小計		アラル海	内カスピ海	海アソフ海	小計	ア東アジア	シベリア	ア中央アジア	ココシヤ	小計	フィンランド大侯國
	五三八、九九八五	三七、三六〇四	四七、二五五四	三三五、一三〇八										
二二四七、九五八八一、二八七九、七三三四	五四、四〇六二	二二九五、三三三七	一六五四、五五二一	二九八、四六四三	六、七七六九	四三、八六八八	三、七六〇五	二九八、四六四三	二九八、四六四三	九五二、七〇一六	三五五、一三〇八	四七、二五五四	五三八、九九八五	二五六、三〇〇〇
六		一		〇、四				〇、四	〇、四	〇、五	二	一九	一九	七

スチーツマンスイーアブックに従へば、湖沼及び河灣の面積はヨーロッパロシア(六六八三二)、フィンランド(四七八四〇)、シベリア(四八八五五)、中央アジア(五一四二四)を合

はせて二十一萬五千餘方呎ありと云ふ。
 境界 其の三分の二は海洋的にして、残の三分の一は陸地的なり、然れども北極洋に瀕する海岸の地は常に氷塊流水の爲に閉塞せられ、ベーリング海、オホーツク海、日本海にありては結氷の害稍少なく、交通の便を缺くは毎年數ヶ月のみなるも、人口群集并に百貨生産の中心を距ると遠きに過るが如し、白海は四千四百五十軒の海岸を有するも、航行に適するは僅に三ヶ月なり、バルト海の沿岸の地は延長六千七百五十軒に達するも、航行上困難多く、毎年五ヶ月間は結氷の爲に閉塞せらる、而してカスピ海は陸地に挟まれて外海に通ずることなし、されば始終航行に堪ふる海濱は黒海(二〇一五)、アソフ海(一四七〇)なり、而して黒海は水深く容易に航行し得べきも、港灣に乏しく、アソフ海は水底淺くして便ならず、且又此の二海は共に數多の海峡を經るに非ざれば外洋に通ずるを得ず。
 陸地的境界に就きては、四千五百軒は西ヨーロッパに接し、八千軒はアジア洲の右

民地に隣し、七千五百軒は山脈又は沙漠に據れり、さればロシア國は二千二百萬方
斛の地積に對して、有用境界は僅に二萬方斛に過ぎず、即ち一千方斛に就きて一斛
の割合なり、是れ此の國が地中海、太平洋、等に於て海岸線の發達を謀るに汲々たる
所以ならんか。

海岸に就きて主要なるものを附記すれば左の如し。

- 北極洋 カラ海 ベチカラ灣 チエスガヤ灣 白海 メゼン灣、ドヴィナ灣、オネガ灣、カンタラフイーチ灣
- 北極海 ボスニア灣 フィンランド灣 リガ灣
- 地中海 黒海 オデッサ灣 アゾフ海
- 海峡 カラ エゴル ケルチ
- 半島 カニン コラ クリミア
- 島嶼 ワイガツ ノワヤゼムリヤ スピッツベルゲン コルダイエン ソロエスキ
アイランド ダゲ エセル
- 地角 ロスキースウオト スウイェトイノス カニンノス ウフトナウオロク
ダメスネス

タルハンククト ケルソン サリチ

地峽 ペレコプ

山岳 土地には平坦にして砥の如きあり、又は多少の起伏を爲して皺波の狀を
呈するあり、然れども平均の海拔は百六十七米突に過ぎずして、ヨーロッパの平均
海拔に比すれば甚だ低しとす、實に高嶺の存するは南の一小部并に東部にして、内
部の起伏は僅に丘陵を爲すのみ、ツルガイ臺地の海拔は僅に三百五十米突なりと
す。

バイホイ山脈 バイダヤ(四七六)

ネトイウ(一三三二) バイイエル(一五〇〇) シルチー(一二六

北部 九 サブリア(一六四七) マンヤウル(一二五七)

ラルボスイス(一六五六)

ウラル山脈

中部

イエルビンニホル(一二四五) デネシキンカメオ(一五二八)

南部

ユルマ(一〇二九) イレメル(一五九九) ヤマンダウ(二六四六)

世界地理

ヨーロッパ、ロシア

クリミア半島 ロマンコシ(一五七〇) チャルチルダハ(一五六四) キヤルアグレ

ワルダイ丘 カメスタク(三三三二)

フィンランド イェリクソンツリ(七一五) ヘルドイビ(七一五)

河^〇流^〇 ヨーロッパの最長流と云はるゝボルガ即ち大河を始めとし北ロシアにネ

バー南ロシアにドンドニエベルの如き著しき水脈あり。

北極洋斜面

ベチカラ メゼン ドビナ オネガ ウィグ ケム

バルト海斜面

トルネア ネバー デャナ(西トビナ) ニーメン(メメル) ビスタラ(ワイクセル)

黒海—アゾフ海斜面

ドナウ ドニエスタル プグ ドニエブル ボン

カスピ海斜面

ボルガ ウラル

ベチカラ (Petchora) 河はウラル山脈の西面に發す、北流して更に南東に向ひ、又北に轉じ、島嶼多き河灣を爲して北極洋に入る、長さは一四七三—一五八〇(籽にして流域は三二、九五—〇方籽あり、其の三角洲は一年の中、平均百二十七日は氷の爲に苦むことなし。

ドビナ (Dvina) 河即ち北ドビナはスコナ (Suchona) 及びヂャグ (Jug) の二源流より成る、北西流して平地を過ぎ、アーケンジェルを経て海に入る、下流は三主口を有するが、其の最東派のみ航行し得べし、長さ一七八〇—二二二(籽ありて流域五四、九三〇—三六、五三八九方籽あり、河中魚類多く三月より十月迄は氷結せず、支流にワガ (Vaga)、エムザ (Enza)、ピネガ (Pinega)、ビチエグダ (Vytchegda) 一〇〇六) 等あり。

ネバー (Neva) 河はヨーロッパのセントローレンスなり、ラドガ湖に發して水清く底深く、二百乃至四百米突の幅と平均水量二九五、五立方米突とを以て、ベテルブルグとフィンランド灣との間に水路を開き、冬季の外は、大船巨船をして自由に航通するを得しむ、ラドガ運河に依りてボルガ河に連なれり。

ヂャナ (Dina) 河は西ドビナ河とも稱す、ボルガ及びドニエブルの水源と相距ること

と遠からざる地に起り、始め西南西に流れ、後西北西に轉じてリガ灣に終る、長さは九三〇軒にして流域は八、五四〇〇方軒あるが、淺瀬、奔流ありて航行の便多からず、此の河も亦運河を以て黒海、カスピ海等に通ぜり。

ニーメン(Niemen)河は長さ八七八軒ありて流域は九七四九〇方軒に達す、ミンスクの南に起り、グロノド以下は航行の便を與ふ、下流一一三軒はメメル(Memel)河と呼ばれてドイッの地を過ぎり、四派に分かれてクリッシュスハフに入る。

ビスタラ(Visula)河はビスタラビスタラ、ワイクセル(Wiehsel)ドイとも云ふ、オーストリアシレジアに於ける海拔一〇九七米突の地に起り、白、小、黒の三ビスタラ河より成り迂曲して、北方に向ひ、數派に分かれてバルト海に注ぐ、長さ一〇六八(九五九軒)にして流域一九八五〇(一九、一四一)方軒あり、サン(San)、ピリカ(Pilica)、ブグ(Bug)、ブラハ(Brahe)等を主なる支流とす、而してサンの河口以下は大船を通ずべし。

ドニエヌラン(Dniester, Dniestr)河はツルラトルとも云ふ、カルパト山脈に發し、南南東に流れて黒海に入り、河長は一三七〇(一〇、四〇)軒にして流域は七、六九〇

〇方軒あるも、ヤムボル(Yampol)急流の爲に航行の便を妨げらる。

ブグ(Буг)河はゴドリヤに起り、南東に流るること八三、七六八(八)軒にしてドニエバル河灣に入り、流域は六、七九二三方軒あり、ビスタラ河の支流なるブグ河に對して東ブグと呼ばれることあり、下流は亦激流に依りて舟運の便を殺がる。

ドニエヘル(Dnieper, Dniopr)河はウジウジとも云ふ、水源を中央の森林地に發し、プリペト(Priped)デスナ(Desna)の水を容れ、五百乃至一千米突の河幅を以て有名なキエフ底を過ぎ、イェカテリノスラフ附近に於て、十三ヶ處の「ハログス」即ち急流を爲して四十三米突の地を流下し、四百米突の峽谷を過ぎて再び緩流と成り、其の「リヤシ」即ち河口に於て綠樹翁蔚たる數多の小嶋を潤したる後、オデッサ灣に注げり、長さは二一五〇軒ありて五十萬方軒以上の流域を有するも、平均水量は二千八百立方米突を超ゆることなし、而してドロゴブシ以下は航行し得べきが、キエフに於ては一月より三月末まで凍結し、スモレンスクに於ては十一月より四月に至ると云ふ。

ドン(Don)河は古名をタナイニス(Tanais)と云ひ、中央ロシアのイバン湖に發してタ

ガンログ灣に注ぐ、長さ一八六〇(一八一〇)ありて流域四十萬四十三萬方呎の水を
集むるも、平均水量は九百立方呎に過ぎず、支流はヴォロネイ(Voronej)、ドネツ(Donetz)、
ホーヘル(Khoper)、メドフ、ヂェツァ(Medvediza)を主とするが、ヴォロネイ以下は舟運の便
あり、河中魚族多し。

湖沼 ロシヤは沼湖に富める土地にして、殊に北西の一帯を以て然りとす、而し
て其の著しきものはラドガ、オネガの外にイマンドラ(Imandra)、サイマ(Saima)、イル
メン(Imen)、ペイプス(Peipus)、ビエロ(Bjelo)等あり。

ラドガ(Ladoga)湖はヨーロッパの最大湖なり、長さは約二百呎にして幅は百二十餘
呎あるが、一八一三〇方呎の面を蔽ふ、北西岸は絶壁を爲すも、其の他は低くして、オ
ネガ、イルメン、サイマ等の諸湖の水を受くるが、平均の水深は九十米突に過ぎずと
雖も、バララム(Valam)、コネツ(Conetz)の二島の横たはれる北西部に於ては、二二
三米突に達する處あり、淺洲暗礁等は航行に危険を與へ、氷結せざる時三月—十月
は暴風の爲に苦むと云ふ、ラドガ運河(一—三呎)はボルガ河、バルト海間に大なる便
を與ふ。

オネガ(Onega)湖はラドガ湖に次げる面積を有し、九七五二(九五五〇)方呎あり、長
さは二三五呎にして幅は八〇呎あり、北岸は深き凹入ありて島嶼散在し、其の他の
部分に於ては低平なり、附近の水を集めて水深は約三〇〇米突に達し、スベル(Svart)
河と成りてラドガ湖に排水す、本湖の氷結期は五ヶ月なりとす。

ペイプス(Peipus)湖はロシヤの北西部にありて、フムロン(Furol)と通ずるに狭長
なる水道を以てす、兩者を合はせて長さ一四〇呎に達するが、幅は四八呎あり、面積
は三六〇〇方呎あり、湖岸は低卑なるが、ナロバ(Narova)河に依りて、フィンランド灣に
通じ、湖中魚族多し。

氣候 ロシヤの國土は大陸的にして、北部に於ける海洋は寒冷を極めて常に凍
結するを見る、而して土地は廣漠たる平原より成りて、極地より吹き來る寒風を遮
ぎる高山なきも、南來の溫風を遇むるに足るの秀嶺に乏しからず、従て此の地の氣
溫は同緯度に於ける他の地方に比すれば遙に低溫にして、且急激の變化あり、要す
るに、南より北に廻きて北極洋に接すると、西より東に行きてシベリアに近づくと
に依りて、氣溫は著しく降下するもの、如し、されば南部一帯の地にありては短期

の暑熱に依りて生熟すべきアルジリア的蔬菜の耕種を見るも其の東部にありては冬季の嚴寒を恐るゝ果樹の全く缺乏せるを見るべし。

北緯	東經	海拔	場所	年	一月	七月
六四・三三	四〇・三三	五	アークンジェル	〇〇	三三	五
五九・五六	三〇・一六	六	ベラルブルグ	三、七	八、二	一七、六
五八・〇一	五六・一六	一〇〇	ベルム	一、一	一六、五	一八、五
五六・五七	二四・〇六	一三	リガ	六、一	四、七	一八、二
五六・二〇	四四・〇〇	一三八	ニジニノブゴロド	三、七	一一、三	二〇、三
五五・五〇	三七・三三	一五五	モスタバ	三、九	一〇、五	一九、〇
五二・一三	二一・二二	一九	ワルシャワ	七、四	三、三	一九、三
五二・〇七	二六・〇六	一四〇	ピンスク	六、九	四、九	一九、三
五一・四六	五五・〇六	九一	オレンブルグ	三、七	一五、五	二一、六
四六・二九	三〇・四四	六五	オデッサ	一〇、〇	三、一	二二、九

降雨に就きて更に一表を示せば 單位は釐

地方	観測地	五月	十一月	地方	観測地	五月	十一月
北極洋	コラ	—	二〇	カスピ海	アストラハン	一〇	一五
	アークンジェル	二六	四〇		オレンブルグ	二六	四〇
	アボ	四二	六〇		ルガン	二七	三七
バルト海	ベラルブルグ	三五	四六	ウラル	エカテリンブルグ	三一	三六
	リガ	三七	五一		ズラトウスト	三三	四七
	ワルシャワ	三五	五七		フオロネズ	三五	五六
ポーランド	ピンスク	四五	六〇	南ロシア	ハルコフ	三三	四九
西ロシア	キエフ	二八	五三		キシネフ	三三	四七

世界地理 ヨーロッパ ロシア

中ロシア		モスクバ		三七	五四	黒海		オデッサ	二七	四〇
カザン		三一	三九					シンフェロポリ	二六	四二
シンピルスク		二七	三五					セバストポリ	二	三九
ペンザ		三三	四六			南クリミア		ヤルタ	三四	四九

五六〇

此の如くにして雨量は西より東に越ぐに従ひて遞減し殊に夏季の乾燥に失す
 るは土地の肥沃をして甚しく殺滅せしむるが如し、又沼湖、河流が降雨に依りて得
 る所の水量は蒸發の爲に失ふものを償ふに足らざれば、水脈は漸く減縮して遂に
 涸失せんとするの兆あり、往時には航通の便を供せし河流も現時は一地方に灌漑
 の利を興ふるに過ぎざるなり、ボルガ河畔の地の衰微したるツラル下流の十九派
 が減じて五派と成りたるは共に水量の減少に歸せざるを得ず、而して斯の如き事
 實の現出せるに就きては森林の濫伐蓋し主因たるべしと云ふ。

天産 鐵物には金、白金、銀、鐵、銅、滿、俺、石炭、石材、陶土等あり、植物には山林より出づ
 る樺、松、縦、山毛櫸、菩提樹等あり、動物には熊、馴鹿、駱駝、野牛、各種の毛皮獸、羽毛、鳥等あ

りて、大麝、香鼠、鼯鼠 (Sparax)、大鼻、アンチロペの如きは南ロシアに於ける、ボバク (Bobak) 鹿、即ちロシアマルモットと共に著しきものなり、而してクリミア半島の森林中に位するものはコーカサスより來住せるものなること殆ど疑を容れず。

沿革 ロシアは北人ルーリク (Rurik) がノブゴロドに來り(八六三)スラブ種族を
 征服して王朝を創立せしに始まり、十一世紀の頃にはキエフを國都として國勢
 稍盛なりしが、後に一族各地に割據して蒙古人の侵入(一二四〇—一四八〇)を蒙り、
 爲にキエフは衰へて十四世期の始め頃よりモスクバ之に代り、イワン四世に至り
 て蒙古人の羈絆を脱するを得たり、ルーリク家(八六二—一五九八)絶えてロマノフ
 家(一六一三)の代と成るや、ペテロ大帝、カクリナ女帝等の君臨するあり、領土益膨
 脹して遂に世界の強國の一に列せしが、侵略飽くを知らざるロシアは極東に於て
 旭日國の爲に連戰連敗して、勢力の及ぶ所日に縮少しつゝあり、左に國初以來占領
 せし地方の大要を表示せん。

帝 王	地 方
ワシリ(一八九一—一四四三)	スヅタル(Suzdal) トロン(Murom) フオロズク(Vologda)
イワン三世(一四四七—一五05)	ペルム(Pern) ノブホロド(Novgorod) トフヘム(Tver) ナトナイカ(Vyika)
ワシリ(一五05—一五33)	ロストフ(Rostoff) リタウニム(Lithuania) プスコフ(Pskoff) リンキム(Ryazan)
イワン四世(一五33—一550)	カザン(Kazan) アストラハン(Astrakhan) シベリア
アレキス(一五50—一581)	スモレンスク(Smolensk) キエフ(Kieff) 東ウクライネ(Ukraine)
ベチロ大帝(一〇八七—一〇99)	リウオニア(Livonia) エトニニア(Ethsonia) イングリア(Ingria) カレリア(Karelia)

アンナ(一四〇〇—一四〇)	西ロシア
エリザベタ(一七四一—一六三)	フィンランドの一部
カタリナ二世(一七六二—一七九六)	リトアニア ポーランド タリミア ブクドニエタル間 クールラン(Courland) サポロギアロサック(Saporogian Cossaks) ジェオルジア
パウル一世(一七九六—一八〇一)	フィンランド ムッサラビア(Bessarabia)
アレクサンダー一世(一八〇一—一八二五)	ワルシアワ(Warsaw)の大部
ニコラス一世(一八二五—一八五五)	ダゲスタン(Dagestan) ミンダレル(Mingrelia) イメリチア(Imeritia) シルワン(Shirvan) エリワン(Eriuan) ナヒチェヴァン(Nakhitchevan) ボチー キルギス
アレクサンダー二世(一八五五—一八八二)	コーカシア アムール地方 プハラ ビバ ホーカンド カルス(Kars) パツム

世界地理 よろろば洲 ロシア

アレクサンダー三世(八二九)	サハリン島
ニコラス二世(八九)	メルア泉地
	北アラガニスタンペンヂチエー(Pendjeh)地方
	大連灣 旅順口 (滿洲)

人口。ロシア全國の人口總數は一億二千九百萬弱にして、一方料に對する平均は六人に過ぎず、而してロシア諸州に於ては九千三百八十三萬餘ありて、一方料に付き十九人なるがポーランドは九百四十五萬餘人の總計と七十四人の平均とを示せり、又此等の住民は市街或は村落に住せるが、市町に住せるものの數は總人口の八分の一に當れり。

地	方市	町村	落	男	女
ロシア諸州	一一八三、〇五四六	八二三八、四八六九	四六四四	四七七六	四七六六
ポーランド	二〇五、九三四〇	七三九、六六〇三	四七六	四六九	四三五
コーカシア	九九、六二四八	八二五、二四四七	四八九		

シベリア	中央アジア	計	往	來	住
四六、二一八二	九三、二六六二	一六二八、〇九七八	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年
五二六、四九〇八	六七八、九〇二二	一、一〇〇八、七八四九	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年
二九五	四一五	六三二一	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年
二七七	三五六	六三二五	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年

人口の増殖は稍著しくして、九十年以上百年未滿にて二倍するの割合なり、住民の移動に就きては左の如くなるが、ユダヤ人のアメリカへ往住するもの漸多し

ロシア人	外國人	計	往	來	住
一八、七三五一	二二、九六三七	四〇、六九八八	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年
二二、九九三一	二二、一一〇四	四五、一一三五	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年
一四、二一三三	二六、五五九八	四〇、七七三〇	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年
一九、四九八一	二四、八二三九	四四、三二二〇	一九〇〇年	一八九九年	一九〇〇年

て、二十八年間に約八十四萬人あり、而してハンブルヒ、ブレメン、リッワー、ベツクを経

住地	一八九六	一八九七	一八九八	一八九九	一九〇〇
アメリカ	二、九四一五	一、六五〇七	二、五三三〇	四、二〇八二	四、九五八〇
アルヘンチナ	五九九	四二五	一四六三	一一五一	一二五三
アフリカ	一一三三	五二〇	六一一	五〇四	四四四
カナダ	四三九	四六〇	三六四	二二七	一〇四
ブラジル	四二五	一七八	一一一	一一五	二四一
其他	一四	二七	七四	一一二	四
計	三、二二二七	一、八一〇七	二、七八五三	四、四二〇一	五、一六二六

ヨーロッパロシアよりシベリアへ往住(一九〇一年)せるものは一二、八一三人にして彼より來住せるものは五、五二三人なり。

人種。ロシアの人種はオストリアハンガリアの如く甚しからざれども亦頗る錯雜せり其の大部はアトリア派のストラブ派の占むる所なるが北面及び北部にはフィン群(フィンランド人、チャード、ラップ、カレリア人、リープ、エスト、イングリシア人)あり、ス

ラブ派に混じて黄種存するあり、即ち北にサモイェド、ジリアヌ(Nyrians)等あり、南にヤルギス、ナルムクあり、西部にはストラブに近きレト||リトニア(Letto-Lithuanians)あり、西部にドイツ人、南西にユデヤ人、ベッサラビアにロマニア人を見る、而して當國のストラブはロシアとボルとの二群より成れり、而してロシア群は更に三部に分かる、其の白ロシア人はチナ河の左岸より、プリペト(Pripes)の沼地に至る平地を占め、其の小ロシア人はトネツ、サン(San)、チツァ(Tizza)の氷源間に於ける廣大なる地方に居り、其の大ロシア人は上記以外の地殊に中部、北部に住せり、此等のストラブはオーストリア及びバルカン諸邦に住せるものとは外貌に異なる所あるが、北部に於けるものはフィン人の特徴を有し、南部に於けるものは蒙古、タタル、トルコ等の血を混ぜり。

宗教。國教はギリシア正教にして、ロシア皇帝は該教の法王たれば諸宗教中最も勢力あり、左に一八九七年の調査に依りて各派の信者數を示さん。

ギリシア正教	八九六〇、六一〇六	ユデヤ教	五一八、九四〇一
カトリック教	一一四二、〇二二七	マホメット教	一三八八、九四二二

新教	六二一、三三三七	其	六四、五五〇三
其他耶蘇教	一一二、四〇三三	合計	一、二八一八、七九二七

五六八

教育。教育は未だ盛況を呈するに至らず、帝國は十五學區に分かれたれ學校の大部分は文部省の管理する所なるも、特種學校は他の諸省に屬せる者あり、大學はペラルブルグ、モスクバ、キエフ、バルコフ、ドルバト(Dorpat)ワルシワ、カザン、オズサ、トムスク、ヘルシング、エムスの十ヶ處に於ける大學にて之れを施し、一萬千九百人弱の學生を有せり此の外に宗教(一)、醫學(二)、獸醫(四)、法律(五)、藝術(五)等の諸學校並に女子高等學校(二)、鐵山學校(二)、機關(四)、農業(四)、森林(二)、博言(三)、軍事(六)等の專門學校あり、中等教育には約一千二百校ありて、男女合はせて二十九萬三千の生徒を教養せり、初等教育には八萬足らずの學校と四百二十萬人許の生徒とあり、此中凡そ百六萬人は女子なりとす。

政治。ロシア帝國は君主專治の國にして、皇帝はツァール(Czar)と稱す、政務は四部に委ねられ第一は帝國會議立法、行政、司法、經濟、教育、農林、商工、海陸、海軍、内務、文部、財務に於て、第二は元老院六局にして評議及實行の性質を有し、兼ねて高等法院たり、第三の教務院は宗教のことを司り、第四の大臣會議は宮内御料、外務、陸軍、海軍、内務、文部、財務、法務、農務、國領、土木、鐵道等の諸省の長官並に教務院次長、フィンランド大臣等より構成せらる、又地方には總督府、州廳等あり、ペラルブルグ、セバストポリ、オデッサ、ケルチの如き重要な都市には府尹を置く。

行政區劃。ロシア全國はロシア諸州、ポーランド、フィンランド、大侯國、コーカシア、中央アジア、シベリア、東アジアの七大部より成りて、地方は州縣に分かれたれ、其の若干を合はせて總督府を置く、總督府はモスクバ、ワルシワ、ウリヤ、キエフ、コーカシア、トルキスタン、イルクツク、ストラブ、フィンランドの九なるが、州縣はロシア諸州に五十、ポーランドに十、コーカシアに十一、中央アジアに九、シベリアに五、東アジアに五ありて、フィンランドに八あり。

縣	地積	人口	縣	地積	人口
アーケンシエ	八五、八三〇	一、四六五、五五〇	オレンブルグ	一、九二五	一、五〇、三六八

世界地理 ムーア、は洲 ロシア

五六九

シ		ア	
アストラハン	三、六三三	アストラハン	三、六三三
ハッサラビア	四、三三三	ハッサラビア	四、三三三
ハルコフ	五、四九五	ハルコフ	五、四九五
ケルソン	七、二八四	ケルソン	七、二八四
ドン	一、六三六	ドン	一、六三六
エストランド	二、〇三三	エストランド	二、〇三三
グロドノ	三、八六九	グロドノ	三、八六九
ヤロスラフ	三、五三三	ヤロスラフ	三、五三三
イェカテリノスラフ	六、三三三	イェカテリノスラフ	六、三三三
カルガ	三、〇九九	カルガ	三、〇九九
カザン	六、三三三	カザン	六、三三三
キエフ	五、〇九九	キエフ	五、〇九九
コストロマ	八、四四四	コストロマ	八、四四四
コフノ	四、〇六四	コフノ	四、〇六四
ハンザ	一、〇〇三	ハンザ	一、〇〇三
バルム	一、九三三	バルム	一、九三三
ボドリヤ	三、五〇九	ボドリヤ	三、五〇九
ホルタワ	二、七三三	ホルタワ	二、七三三
フスコフ	二、九七五	フスコフ	二、九七五
リエザン	四、三三三	リエザン	四、三三三
サマラ	一、六一七	サマラ	一、六一七
ペテルブルグ	一、〇七二	ペテルブルグ	一、〇七二
サラトフ	二、二六五	サラトフ	二、二六五
シンピルスク	一、三二四	シンピルスク	一、三二四
スモレンスク	二、七〇六	スモレンスク	二、七〇六
タムボフ	三、七六一	タムボフ	三、七六一
タウリア	一、三六〇	タウリア	一、三六〇
チェルニコフ	一、五九四	チェルニコフ	一、五九四

五七〇

シ		ラ		州		諸	
トルランド	二、七二八	トルランド	二、七二八	トルランド	二、七二八	トルランド	二、七二八
クルスク	四、六四六	クルスク	四、六四六	クルスク	四、六四六	クルスク	四、六四六
リフランド	四、七〇三	リフランド	四、七〇三	リフランド	四、七〇三	リフランド	四、七〇三
ミンスク	九、四〇八	ミンスク	九、四〇八	ミンスク	九、四〇八	ミンスク	九、四〇八
モヒレフ	四、八〇七	モヒレフ	四、八〇七	モヒレフ	四、八〇七	モヒレフ	四、八〇七
モスクバ	三、三三三	モスクバ	三、三三三	モスクバ	三、三三三	モスクバ	三、三三三
ニジゴロド	五、二七四	ニジゴロド	五、二七四	ニジゴロド	五、二七四	ニジゴロド	五、二七四
ノフコロド	一、三三三	ノフコロド	一、三三三	ノフコロド	一、三三三	ノフコロド	一、三三三
オロネツ	一、四八七	オロネツ	一、四八七	オロネツ	一、四八七	オロネツ	一、四八七
オレル	四、六三三	オレル	四、六三三	オレル	四、六三三	オレル	四、六三三
カリツ	一、三三三	カリツ	一、三三三	カリツ	一、三三三	カリツ	一、三三三
キールセ	一、〇〇三	キールセ	一、〇〇三	キールセ	一、〇〇三	キールセ	一、〇〇三
ロムツア	一、〇五三	ロムツア	一、〇五三	ロムツア	一、〇五三	ロムツア	一、〇五三
ルブリン	一、六八三	ルブリン	一、六八三	ルブリン	一、六八三	ルブリン	一、六八三
ツラ	三、〇九六	ツラ	三、〇九六	ツラ	三、〇九六	ツラ	三、〇九六
トフェル	六、五三三	トフェル	六、五三三	トフェル	六、五三三	トフェル	六、五三三
ウファ	一、三〇三	ウファ	一、三〇三	ウファ	一、三〇三	ウファ	一、三〇三
キアトカ	一、五三六	キアトカ	一、五三六	キアトカ	一、五三六	キアトカ	一、五三六
キルナ	四、二五〇	キルナ	四、二五〇	キルナ	四、二五〇	キルナ	四、二五〇
キテプスク	四、五三七	キテプスク	四、五三七	キテプスク	四、五三七	キテプスク	四、五三七
ウラヂミル	四、八三七	ウラヂミル	四、八三七	ウラヂミル	四、八三七	ウラヂミル	四、八三七
ウオリニア	七、一八三	ウオリニア	七、一八三	ウオリニア	七、一八三	ウオリニア	七、一八三
ウオログダ	四、〇三三	ウオログダ	四、〇三三	ウオログダ	四、〇三三	ウオログダ	四、〇三三
ウオロネシ	六、五九三	ウオロネシ	六、五九三	ウオロネシ	六、五九三	ウオロネシ	六、五九三
ブロツク	五、六八七	ブロツク	五、六八七	ブロツク	五、六八七	ブロツク	五、六八七
ラドム	八、二〇三	ラドム	八、二〇三	ラドム	八、二〇三	ラドム	八、二〇三
シイドルセ	七、五三三	シイドルセ	七、五三三	シイドルセ	七、五三三	シイドルセ	七、五三三
スワルキ	六、〇三三	スワルキ	六、〇三三	スワルキ	六、〇三三	スワルキ	六、〇三三

世界地理 トーラス

州

五七一

ド	ビオトルコフ	一三三九	一四〇三〇	ワルシアワ	一五、三六九	一七三〇
---	--------	------	-------	-------	--------	------

五七三

州縣の最も大なるはヤクーツク縣にして我が帝國の八倍半に當るが最も小なるはポーランドのプロスク縣にして九四四六方軒に過ぎず又人口の最も多きはキアトカの三百八萬餘人最も少なきはアムル州の十二萬人なり而して人口の最も稠密なるはビオトルコフ縣の百十五人にして最も稀薄なるはヤクーツク州の〇、〇六なり。

兵備 陸軍に就ては全國を十一軍管區
ヨーロッパ 九 廿二旅團區に
トルケスタン 二
シベリア 二
分ちて募兵其の他の事務を司れるが各聯隊の組織に就きては非ロシア人が四分一を超過せざると又少くも三分一は大ロシア人たるを以て原則とす而して平時に於ては左表の如くにしてヨーロッパ二十軍團、コーカシアに二軍團、トルケスタ

ヨーロッパ	コーカシア	トルケスタン	シベリア	步兵大隊	騎兵大隊	野戰砲兵大隊	要塞砲兵中隊	工兵中隊
一、一〇〇	七二一	五二五	二三三	一六七	九一五	七五	五一	九四

合計	一二六二	八〇二、五	五九〇	二八四	二六一
----	------	-------	-----	-----	-----

タンに二軍團、シベリアに六軍團を置き別に騎兵二軍團をワルシアに設く、總員は士官四万二千人、下士卒一百二十万人に達すべし。
戦時に於ける兵員の概数は左の如し。

世界地圖	野		戰		兵		兵種	軍團司令部
	歩兵	騎兵	砲兵	工兵	輜重兵	計		
第一	一、九五〇〇	三八〇〇	三五〇〇	一一〇〇	四〇〇	二、八三〇〇	士	ペラルブルグ
第二	一〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	一一、九〇〇	四、六〇〇	二、六〇〇	一、三二、一〇〇	官	グロドノ
第三	三、八〇〇	一一、五五〇	一〇、八〇〇	一、三五〇	四、五〇〇	一、三三、〇〇〇	下	キルナ
第四	三、八〇〇	一一、五五〇	一〇、八〇〇	一、三五〇	四、五〇〇	一、三三、〇〇〇	士	ミンスク
第五	三、八〇〇	一一、五五〇	一〇、八〇〇	一、三五〇	四、五〇〇	一、三三、〇〇〇	卒	ワルシアワ
第六	三、八〇〇	一一、五五〇	一〇、八〇〇	一、三五〇	四、五〇〇	一、三三、〇〇〇	馬	ワルシアワ
第七	三、八〇〇	一一、五五〇	一〇、八〇〇	一、三五〇	四、五〇〇	一、三三、〇〇〇	匹	シンフエロボル
合計	一、九五〇〇	三八〇〇	三五〇〇	一一〇〇	四〇〇	二、八三〇〇	軍團司令部	
世界地圖	一、二五〇〇	六八、〇〇〇	二、二四〇〇	二、二四〇〇	二、二四〇〇	六八、〇〇〇		

五七三

歩兵	兵 充 補			兵 塞 要			兵 備 豫		
	計	工兵	砲兵	騎兵	歩兵	計	工兵	砲兵	騎兵
九六〇〇	六六四〇	一四〇	六〇〇	九〇〇	五〇〇〇	一、五四七〇	三〇〇	一、三七〇	二、三〇〇
六八、六〇〇	三七、三七〇	七七〇	三、八〇〇	四、八〇〇	二八、〇〇〇	八三、三三〇	一、〇〇〇	四、五三〇	九、七〇〇
	五、〇五〇	?	一、〇〇〇	三、九〇〇	一五〇〇	一六、三〇〇		三、七六〇	一〇、三〇〇
	第 三	第 六	第 八	第 七	第 六	第 二	第 〇	第 九	第 八
	リガ	ブレスト リトウスク	ドルバット	モスクバ	キテベスク	フルシアワ	ルブリン	スモレンスク	キンニツフ
									ロフノ
									ハルコフ
									キエフ
									オデッサ

五七四

總計	境 關 兵	兵 民 國		
		計	工 兵	砲 兵
六、六四一〇	一〇〇〇	一、〇五〇〇	一〇〇	四五〇
三五四、九〇〇	四、〇〇〇	七四、〇〇〇	四〇〇	二、八〇〇
五六、二二〇	一、五〇〇	?		?

海軍 ロシアはバルト海、黒海、カスピ海、シムリアの四艦隊を置くを常とす、而して第一のバルト艦隊はクロンスタットを根據地とするが、ヂナミョンド (Dinamünde) キボルグ (Wiborg)、スエアボルグ (Sveaborg) 等も堅固に防備せられ、殊にリバウ (Lübeck) 港は氷結することなし、第二のものはセバストポルを根據とす、而してニコライエフ、キンブレン (Kinburn)、オカロフ (Ochakof)、ケルチ (Kertch)、イェニカレ (Yenikale)、アムスホ、チリバツム 等も武裝せり、又シベリアに於けるウラヂラストクは旅順口の陥落せる今日 (左の調査) 極東に於てロシアが唯一の艦隊保護地と頼む所たるは敢て

世界地理 一〇〇〇年 ロシア

五七五

言を要せざるなり。

艦種	隻數	噸	數	馬	力	砲數	水雷發射管
甲鐵艦	一七	二〇、四一三四		二一、九三〇〇		九五四	八八
海防甲鐵艦	一二	四、三六四〇		二、七九六九		二二二	一一
一等巡洋艦	一九	一三、一四五二		二一、二四三〇		七三五	六四
二等巡洋艦	一二	三、〇三三六		八、〇七四五		一五七	二四
水雷巡洋艦	四	二一七〇		一、五一七四		三九	一一
砲艦	四	六七八〇		八六五三		五七	六
海防砲艦	八	三〇六二		二五四六		三六	
汽船	一〇	二九〇七		二二七八		九	
「スター」	九	二、四一七四		二、二〇九		四二	
「キク」	六	一、一三三三		二、二四八九		二二	
水雷驅逐艦	二六	七二七〇		二、八三〇〇		二二六	六二

隊	合計		一等水雷艇	二等水雷艇	運送船
	隻數	噸			
黑海艦隊	七三	一四、四二二七			
シベリア艦隊	五四	三、一三三四			
合計	一二八	一七、五五六〇	八、九七〇〇	一、五四〇〇	一、七七〇八
			一〇四	一一	一〇三

財政 一九〇二年の經常費は歳入に十九億五百四十萬、ループル、歳出に十八億二百十四萬、ループルなるが、臨時費の歳入は二十億二百十五萬、ループルにして、歳出は三億六千五百四萬、ループルなり、而して經常費が逐年増加するは左表に依りて明なり。

年 度	經常費		臨時費	
	歳入	歳出	歳入	歳出
一九〇二	一、九〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇、二〇〇、〇〇〇	二、〇二、四、八三六	三、六五〇、三、五三七
世界地理	ヨーロッパ	ロシア		五七七

一九〇一	二七,九四五,七五五	一六,六四八,七五二	一〇,九三六,九八八
一九〇〇	一七,〇四二,八五〇	一五,五四二,七六三	三,三三七八,八五二
一八九九	一六,七三三,三〇六	一四,六八三,一〇〇	三,一八三,〇〇〇
一八九八	一五,八四八,四四四	一三,五八七,五四六	四,二五九,五三六

五七八

更に一九〇四年の豫算に従へば總歳入は十九億八千萬ループルを超え、總歳出は約二十一億七千八百六十四萬ループルなりとす。

總歳入	二一,七八六三,七〇五		
經常歳入	一九,八〇〇九,四四九	印紙	四七二九,六三八
直税	一,三五一三,八七七	運搬	二二七二,〇〇〇
土地、森林	四九〇一,一〇七七	交通	三二五六,四八四
商業特許	六七五四,一一〇〇	專賣稅	五,八九八五,一三〇〇
資本	一八五八,六三〇〇	鑛山	二八,〇〇〇〇
間稅	四,二二一五,七二〇〇		

酒	二七九四,三五〇〇	造幣	四三〇,〇〇〇〇
煙草	四六二五,八五〇〇	郵便	三八三八,二三〇〇
砂糖	七九二二,〇〇〇〇	電信、電話	二一六〇,〇〇〇〇
石油、マツチ	三九二一,九一〇〇	酒類	五,二五二八,九〇〇〇
關稅	二,二八五一,六〇〇〇	國領	五,六〇九五,三八四一
諸稅	一,〇三五八,一二三二	借債	二二二一〇,九四二八
森林	六〇四四,四〇〇〇	其他	二四九,五四〇〇
鐵道	四,四七四一,四〇〇〇	國領賣下	五三,五五七三
鑛山等	一二五三,〇六九八	土地收贖	八六一六,四三〇〇
銀行	一四九六,〇三二五	雜	八二七一,二六七〇
臨時歳入	二七五,〇〇〇〇	其他	一,九五七九,二五六二
總歳出	二一,七八六三,七〇五	內務	一,一四七二,七〇七八
經常歳出	一九,六六四五,八二五一	文部	四三六七,七四五二
國債	二,八九二九,九一八三		

世界地理 ヨーロッパは洲 ロシア

五七九

高等會議	三五二、九一一	交通	四、七三二七、四六一一
敎務院	二九三三、一八九〇	遞信	一六五四、七四六六
宮内	一六一三、七九二〇	司法	五一〇八、二九三八
外務	六四一、七七九〇	會計検査	八九九、三八〇九
陸軍	三、六〇七五、八〇九二	臨時歳出	一七一一、六七三五
海軍	一、一三六二、二四二六		二、二二二七、八八〇四

五八〇

生業^〇 農業は帝國の生業中にて主位を占め、住民の十中九までは本業に従事せり、ヨーロッパ、ロシアの三分の二に當る三百六十萬方籽の地は耕耘に適するが、其中九十萬方籽はチエルシム即ち黒土にして、ウラル河の水源より西方の國境に達せり、然れども人口の發達充分ならざれば、實際に耕作せらるゝは九十五萬方籽に過ぎず、而して農産の第一は穀類にして三億三千萬石に達するが、其の十五分の一は輸出に供し得べし、此の外、亞麻は三億二千萬石、大麻は一億六千二百萬石、馬鈴薯に五千三百萬石、煙草に六千六百萬石の産あり、南部は果樹を培養し、北部の森林

は樺、松、樅等を産す、牧畜は盛に行はれて、牛二千四百萬頭、馬一千八百萬頭、羊四千七百萬頭を飼養し、漁業は二千五百萬、アルプルの産ありて、獵業に二百萬、アルプルの産あり、鑛業は三萬三千石の金、一萬三千石の銀、四百五十七萬石の銅、五億三千二百萬石の鐵を與へたるが、白金、鉛、錫、亞鉛等の産額は著しからず、而して産地はウラル、アルタイ、サイアン、後バイカルの山岳地方にあり、岩鹽に一百萬噸の産あるが、オレンブルグの南に於けるヘツカイア、ザクチャタ坑は毎年三十萬噸を産せり、石炭はドネツ、オカの流域の地より出て、四百萬噸に達し、石油はバクレー、ゲルチャタマン等の地に産せり、工業は未だ盛大なるに至らざるも、近來長足の進歩を爲して、ペテルブルグ、モスクバ等の如き人口稠密の地には幾多の工場製造場の設立あり、而して工業中にて、蒸溜、醸造、紡績、製糖、製油、製鐵、製麻、毛布の製作、煙草の製造等は稍著しとす。貿易に就きて記さんに其の總額は左表の如くなるが、

年次	貨物		貴金屬	
	輸入	輸出	輸入	輸出
一八九八	六、一七四五、九	七、三三六七、三	一、三二四八、九	四八六、八

世界地理
ヨーロッパ、ロシア

五八一

一八九九	六、五〇四八、五	六、二六九八、三	八二二二、一	五〇八一、〇
一九〇〇	六、二六三七、五	七、一六四一、八	三四〇六、一	一、三四三一、一
一九〇一	五、九三四二、五	七、六一五八、三	一八〇三、三	七二〇二、三
一九〇二	五、九九一五、一	八、六〇三二、二	一四四〇、四	七二〇、九

五八二

輸入國、輸出國に就きて表示すれば、

取引先	一九〇一年		一九〇二年	
	輸入	輸出	輸入	輸出
フィンランド	二二〇三、二	三八六九、九	二二六三、三	三八〇三、〇
スエリゲ	三三八、七	八八〇、九	三五〇、八	一〇七六、〇
ノルグ	六一五、九	四九六、七	五〇九、五	六二〇、三
ダンマルク	四五六、八	二五八九、三	四二七、一	二七八四、九
ドイツ	二二、〇九五、四	一、七八八五、六	二、〇八四七、二	二、〇三二五、五
オーストリア	二四九〇、一	三〇二一、七	二二九九六、二	三五六一、五

世界地理	ヨーロッパ		ロシア	
	輸入	輸出	輸入	輸出
フランス	二七七九、二	六一二二、二	二六八八、三	五五一四、三
ベルジック	八八八、三	二二一八、八	六八八、九	二八五二、四
オランダ	八五五、〇	八四六八、九	一一四一、七	一、〇三〇九、九
イギリス	一、〇二九六、七	一五六七五、一	九九二二、四	一、八九一〇、一
イスパニア	一三八、八	二九一、五	三三三、七	三六三、六
イタリヤ	一〇三三、一	三七七五、一	九四〇、六	四八八九、九
ロマーニア	二一五、八	一〇三七、五	一六〇、一	一五八五、二
トルコ	八〇七、四	二一九三、一	七五四、四	一五八四、八
ギリシア	七二、三	一〇三三、一	九二、二	九一一、三
エジプト	一八二九、九	九八一、六	一五一五、三	六七九、〇
ペルシア	二五四八、一	二三四八、六	二三四八、六	二四〇四、五
支那	四六九〇、三	九七一、一	五二二七、七	九三一、五
アメリカ	三四九二、一	四〇〇、九	三九九四、九	四三七、四
其他	二五〇五、四	一九九六、七	三三三三、二	二四九七、一

五八三

合計	五、九三四二、五	七、六一五八、三	五、九九一五、一	八、六〇三三、二
----	----------	----------	----------	----------

五八四

而して主要輸出品は麥及び麥粉(四、一八〇九萬ルーブル)、亞麻(五六六六)、木材(五五六八)、石油(四二二三七)、鶏卵(三八六三)、タバコ(二八四四)、家畜(一一七四)、砂糖(一七四〇)、綿布類(一七二〇)、油糧(一七一六)、糖(一四九一)等にして、重要輸入品は綿布類(六八一一三)、機械(五二六四)、茶(四九八〇)、金物(二七五〇)、石炭(二三〇二)、生毛(二〇六九)、ゴム類(一八一九)、蠶絲(一五七一)、毛布類(一五七〇)、魚類(一五六七)等なりとす。
又一九〇三年に於けるヨーロッパロシアの貿易高を示せば、

取引先	輸入	輸出	取引先	輸入	輸出
フィンランド	二二六〇、六	四六六二、八	イギリス	一一一九五、九	二二八〇、三
スエリゲ	四七三三、六	一〇三三、八	イタリア	一〇九九、二	五六七二、五
ノルゲ	七三〇、七	一〇九八、七	ロマーニア	一七四、〇	一五七五、九
ダンマルク	五八四六、六	二七四〇、六	トルコ	六三三、五	一八三八、二
ドイツ	二、三三七、四	二、三二四、四	エジプト	一〇三三、八	四五二、〇

品名	一九〇二年	一九〇三年
オランダ	一〇三八、一	一〇〇九八、五
ベルジック	六三二、六	四三四五、四
フランス	二八〇八、二	七五九一、三
シツワイツ	五二四、三	支那
ハンガリー	二七八五、〇	東印度
ポルトガル	三七〇三、六	支那
アメリカ	九四七、五	支那
その他	一八七九、三	支那
合計	六〇一四五、五	九四九三三、七

前表を更に品種別にし前年と対照すれば左の如し。

品名	一九〇二年		一九〇三年	
	輸入	輸出	輸入	輸出
食料	八二三〇、五	五、二六二七、八	八、七〇六、六	五、九五二九、七
原料	二、九五〇三、一	二、五八二〇、五	三、四二七七、八	三、一二三三、八
組製	一四三、六	二二五四、一	一五二、八	二〇二二、三
家畜	一、五〇二八、三	一九三九、六	一、七〇〇八、三	二一四三、五
加工品	五、二九〇五、五	八、二五四二、〇	六、〇一四五、五	九、四九三三、七
合計	二二、三三三、〇	二二、三三三、〇	二二、三三三、〇	二二、三三三、〇

世界地理 ヨーロッパ ロシア

五八五

通商港中の名あるものはバルト海に於けるペテルブルグ、クローンスタト、ナルバ、
 レベルリガ、キンダウ、リバウ、黒海に於けるオデッサ、ニコライエフ、ケルソン、エウパト
 リア、セオドシヤ、ケルチヤ、ベルヂアン、スクタガン、ログ、マリウプル、ロストス、イエイス
 ク、ボチ、白海に於けるアルハンジェル、スク、オネガ、カスピ海に於けるアストラハン、ダ
 ルベント、バクー等なりとす、而して此の國の貿易に従事する船舶を國旗別にせん
 か左の如き表を得べし。

港	入				計	
	白海	バルト海	黒海	アゾフ海	隻數	噸數
ロシア旗	三四五	七三七	四四二	一〇七	一六三二	三三三
外國旗	四二	三〇七	五二七	一三七	一〇一三	四二
計	五〇一	四四七	三三八	二六	九一五	五〇二
隻數	四三四	三〇五二	五四五八	二三〇	九一七四	四三五
噸數	八四六	五二〇八	四三二四	三六八	一〇七四六	八二五
計	四七六	三三五九	五九八五	三六七	一〇一八七	四七七

出	船				計
	バルト海	黒海	アゾフ海	大洋	
ロシア旗	七五三	三五〇	九八	一五二四	一五二四
外國旗	二九一	三九〇	一六八	八九一	八九一
計	四五〇〇	五八九一	二五二	九一四五	九一四五
隻數	三〇九四	五四七六	二一六	九二二一	九二二一
噸數	五二五三	四二四一	三五〇	一〇六九九	一〇六九九
計	三三八五	五八六六	三八四	一〇二二	一〇二二

國內に行はるゝ商業は稍盛にして商賈の人員は百萬以上に達し、純益高の概
 算は五億ルーブルなり、而して取引は各地に開かるゝ定期市場に於て行はる、殊に
 ニジニノゴロドの市場は著名なり、又南東の諸省并にポーランドにはジッデア人
 にして商業に従事するもの甚だ多し。

ロシア帝國の海岸線の發達は四百五十軒に付き一軒の割合にして、航行し得べ
 き河流は三萬五千軒あるも、之を地積に對比すれば百五十五萬方軒に付き一軒を
 有するに過ぎず、然のみならず、冬季は凍結し、夏季は水量減少して航行の便を供す
 るは春季に限れり、然れども土地平坦にして山岳に乏しきは運河の發達を助け、其
 の延長は八百軒に達せり、今左に當國の商船に就きて表示せん

汽船	噸	帆船	噸	計		
				船	噸	
白海	四四	七八五五	四二三	二、四五六六	四六七	三、二四二一
バルト海	一六一	六、〇七一七	八五四	一〇、三七四一	一〇一五	一六、四四五八
黒海	三四二	一九、二九七〇	六四四	四、一一五一	九八六	二三、四二二一
アソフ海	二七二	一一、三三二五	五六一	一一、四二二八	八三二	二三、七五四三
カスピ海	八二八	三八、四八五七	二四八二	二八、三六八六	三三〇〇	六六、八五四三
計						
汽船	噸	帆船	噸	船	噸	
計	六、〇九四六			二	六、五〇二八	

鐵路(一九〇四年七月一日現在)は五萬四千百卅一杆、アジア部に一萬八千九百九十七杆、總計六萬五千廿八杆ありて帝國内の主要都會を連絡す、之を所有別にすれば次表の如し。

郵便局は一萬二千四百五十ヶ處ありて、電信線は線路十七萬四千九百一十一杆、延長五十四萬一千五百八十八杆、電話線は線路七千九百三十三杆、延長九萬九千六百九十一杆あり。

處。 聖。 サンクトペテルブルグ (St. Petersburg) 東經三〇度五九分五五分、北緯五十九度五十分、三十分はベテロ大帝の創建(一七〇三年)に係りて帝國の首都なるが、メシランド灣に瀕し、ネワ河に跨り、土地は濕潤に過ぎ、寒氣は凜烈を極むるのみならず、時に洪水の患あるも、街衢は十三區に分たれ、道路端麗にして、ネフスキイプロムベクト街の如きは、ハリシに於けるウンテルデンリシデンに優れるものあり、宮殿寺院は屹然として高く聳へ、商店倉庫は整然として軒を列ぶ、大學校、學士會院、各種學會あり、博物館、圖書館、植物園あり、兵器製造船廠あり、一九〇〇年には約百四十四萬一四三、九三七五と成れり、實に世界屈指の大都會たるに耻ぢず、軍港を以て有名なるクロンスタト (Kronstadt) (五、九五二五) は本府の西三十三杆に位し、狹長なる小島ヨトリン (長十杆) にあり、モスクワ (Moskwa) (一〇三、八五九一) 東經三十七度三十四分二〇秒、北緯五十五度四分二〇秒はベテロブルグの南東、鐵路六百四十五杆、オデッサの北々東一千五百五十六杆、モスクワ河、ボルガの支流の